ROMAN ALBUM
定価1200円
梶尾真治
さすらいエマノン Episode:1
EMANON
鶴田謙二
フルカラー
ほぼ原寸サイズ(98%)
描き下ろし表紙イラスト
E.N

NO NAME(名無し)、それを逆さに読んでエマノン。彼女はその細い身体のなかに、40億年の記憶を持っていた。地球上で最初にうまれた生命からつづく膨大な記憶——海の中で生まれたそれはやがて魚になり、地上にあがり獣となり、親から子へと血の流れによって受け継がれ、いつしか人の姿となり、エマノンという少女となってあてどない旅を続けていた。

CONTENTS

第1話……P. 5
(COMICリュウ2008年12月号掲載)
第2話……P.13
(同2009年2月号掲載)
第3話……P.21
(同2009年4月号掲載)
第4話……P.29
(同2009年7月号掲載)

エマノン
ビジュアル変遷史　P.37

第5話……P.43
(同2009年9月号掲載)
第6話……P.51
(同2009年10月号掲載)
第7話……P.59
(同2009年11月号掲載)
第8話……P.67
(同2010年1月号掲載)

複製原画〈プリマグラフィ〉
販売のおしらせ　P.76

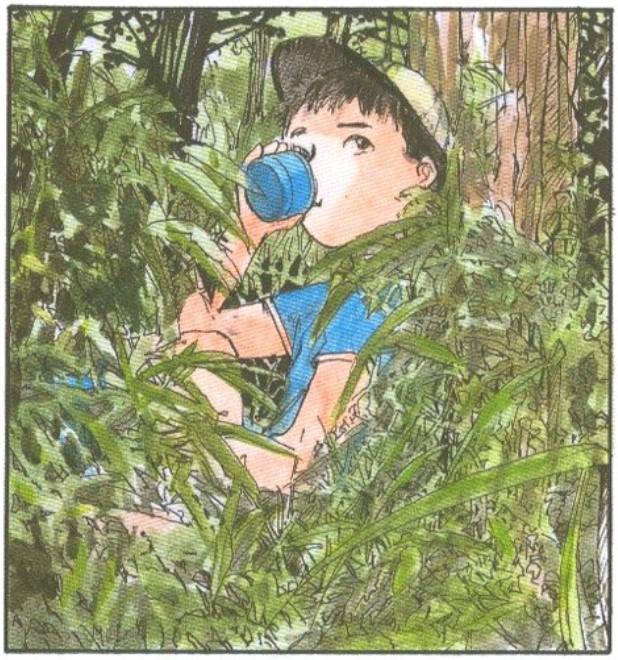
Illustration

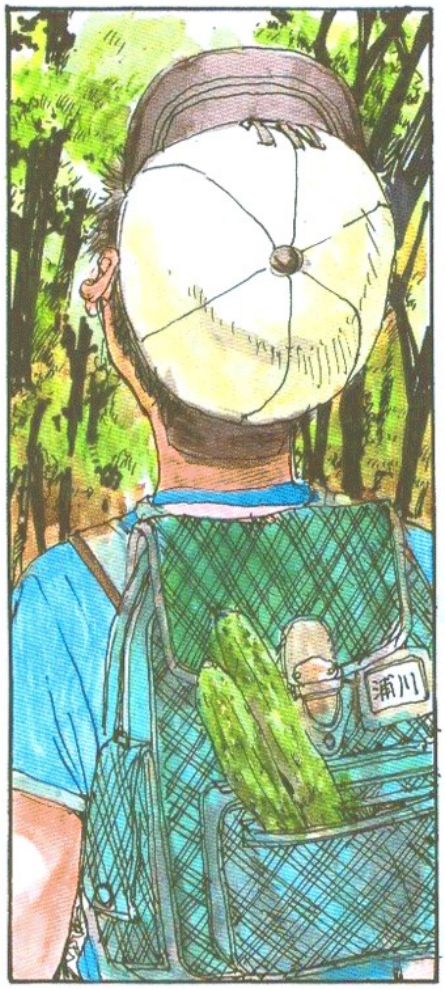
P.1・P.76〈描き下ろし〉
P.2~3〈COMICリュウ2009年6月号付録ポスター〉
P.75〈COMICリュウ2008年12月号表紙〉
P.78〈COMICリュウ2007年5月号表紙〉
P.79・P.80〈描き下ろし〉

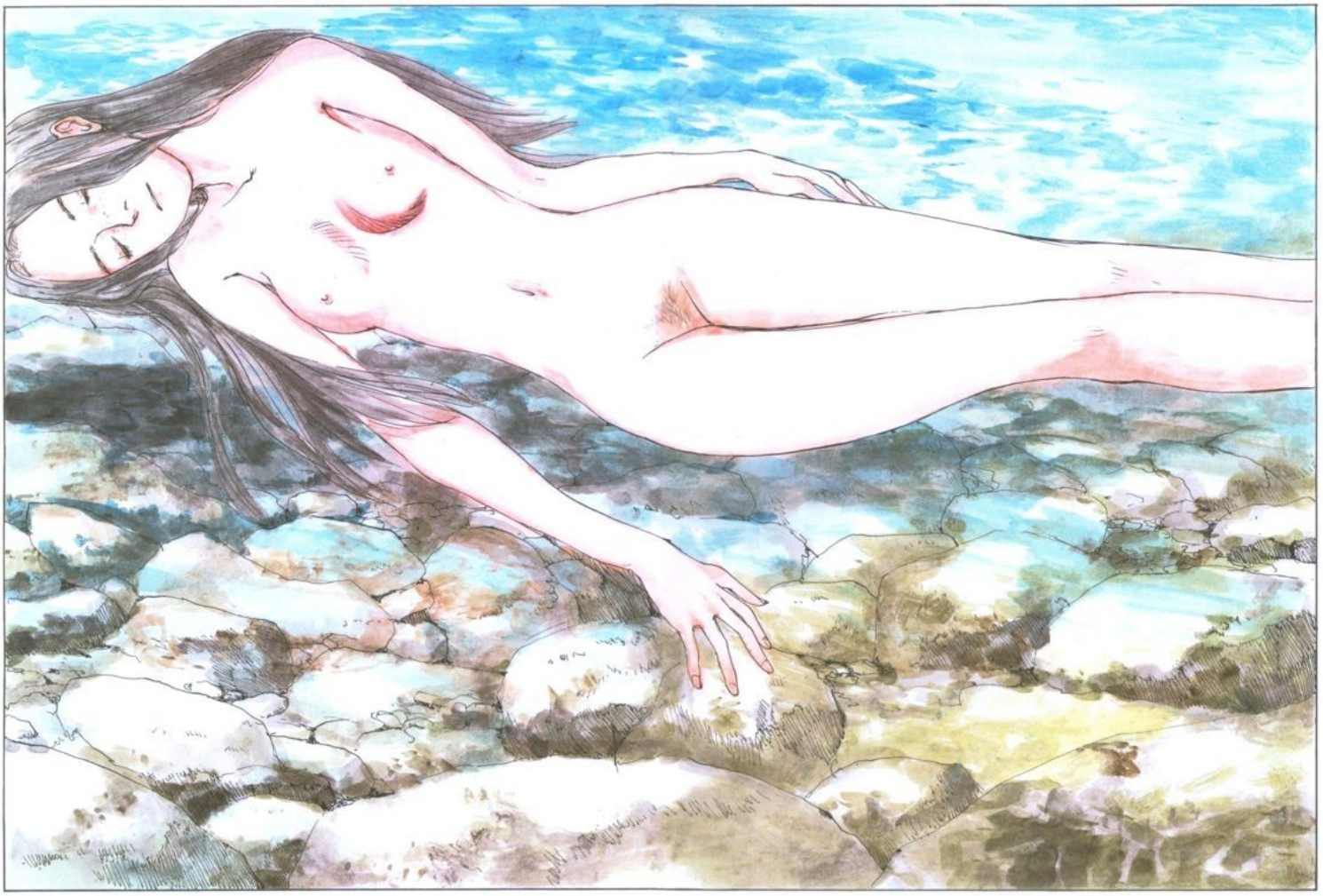
この本を読む前に

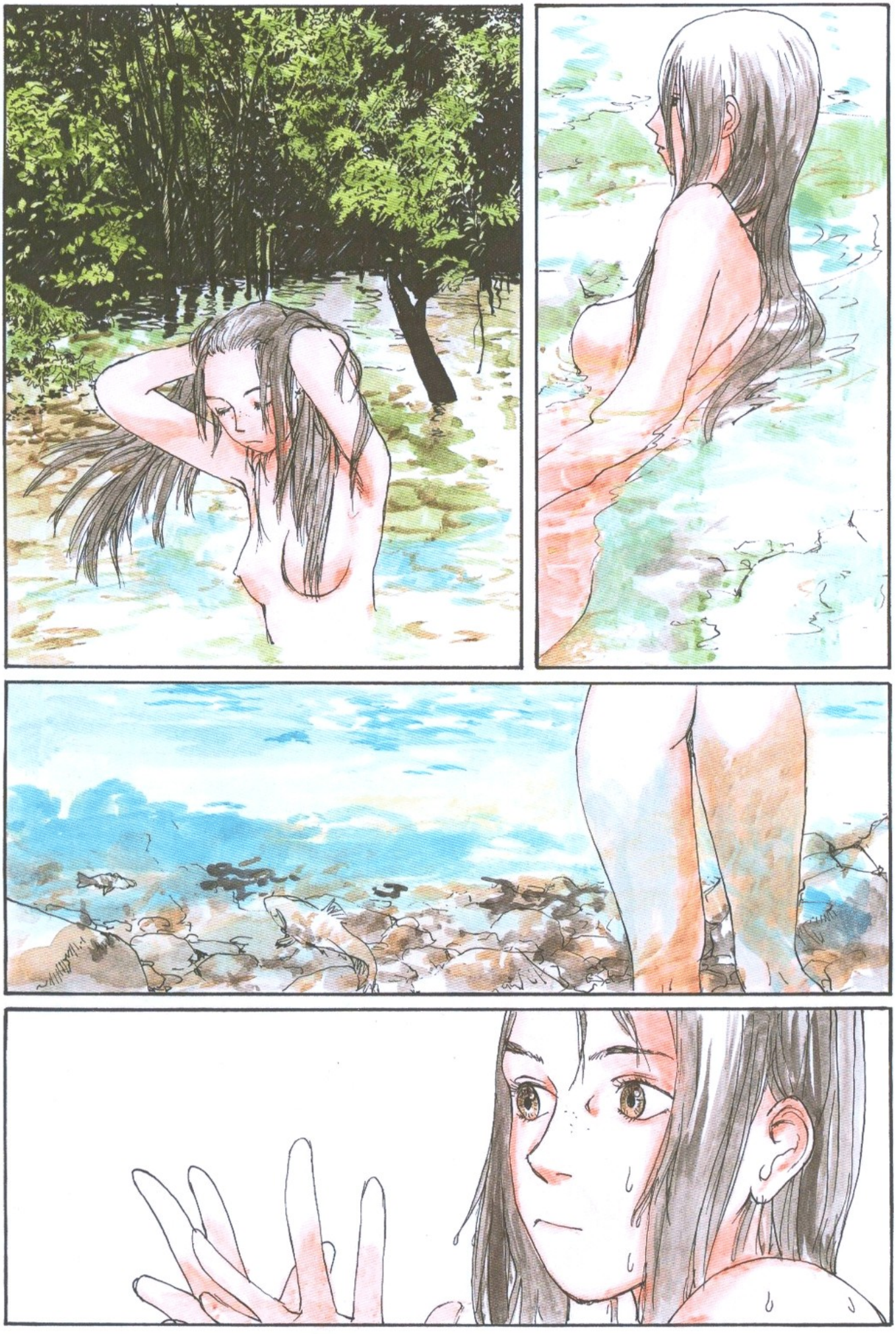
リュウコミックススペシャル
[おもいでエマノン]
A5判・定価840円(税込)
好評発売中!

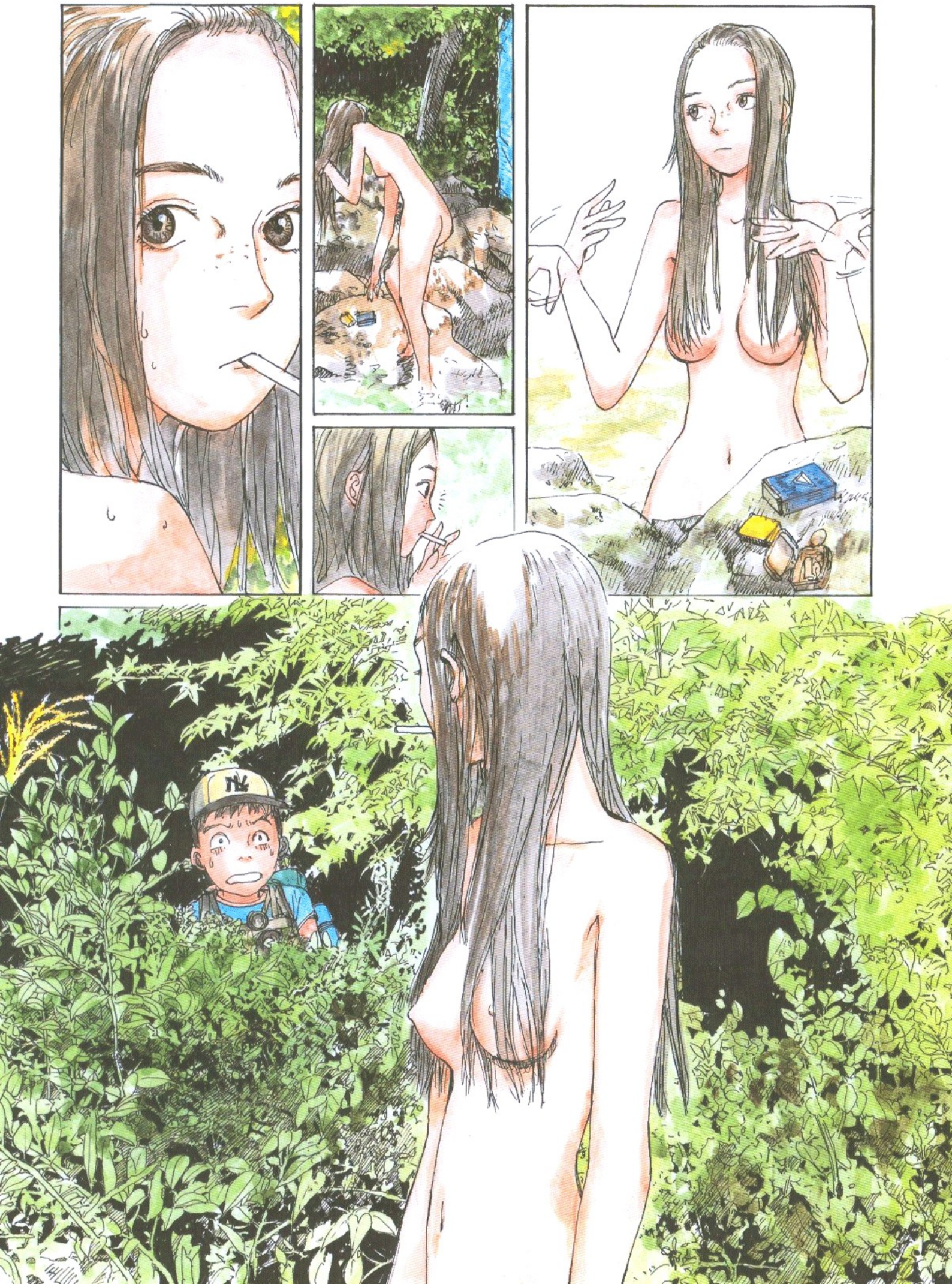
Wandering Emanon Ch. 1

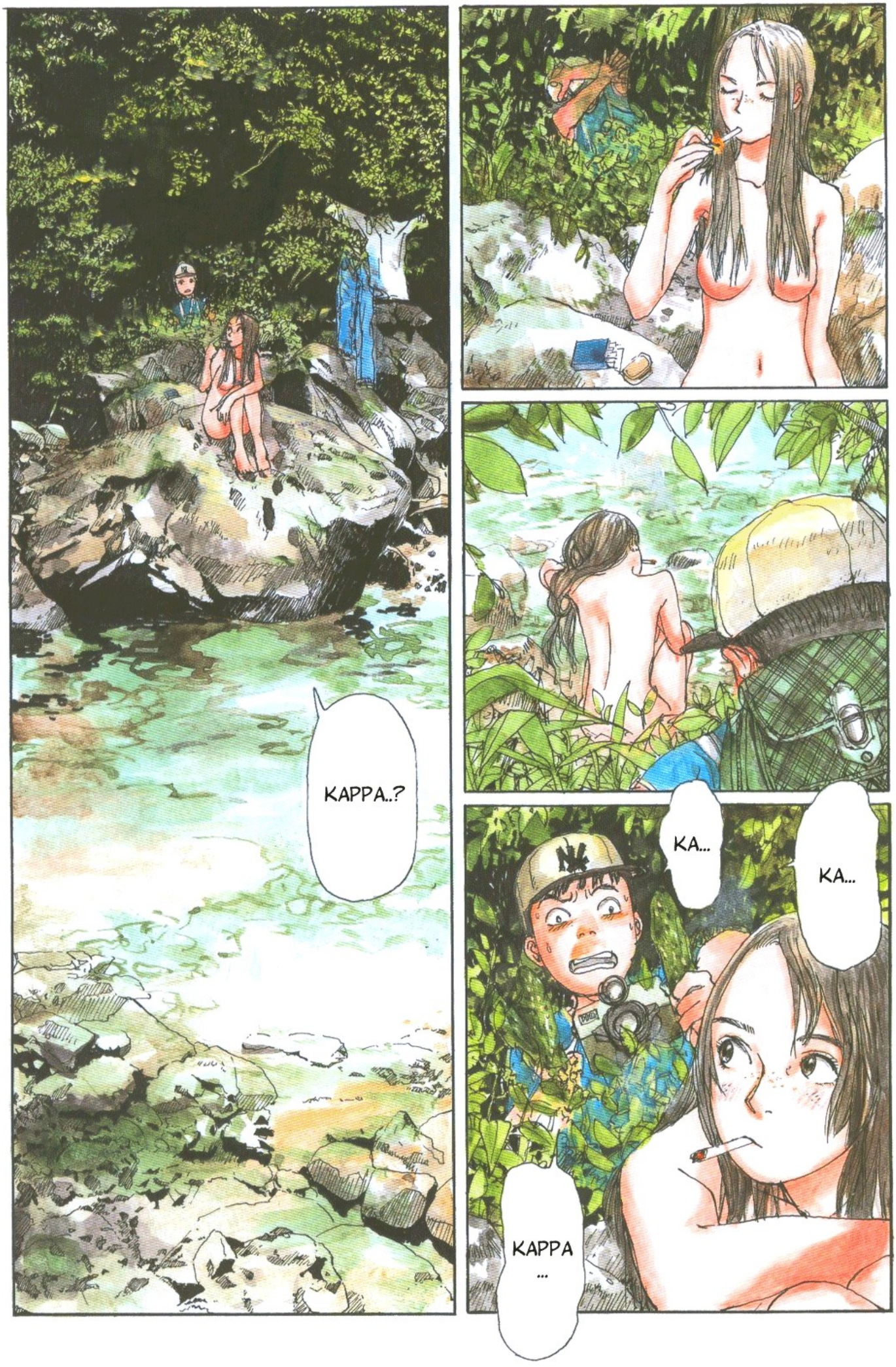



瀬川

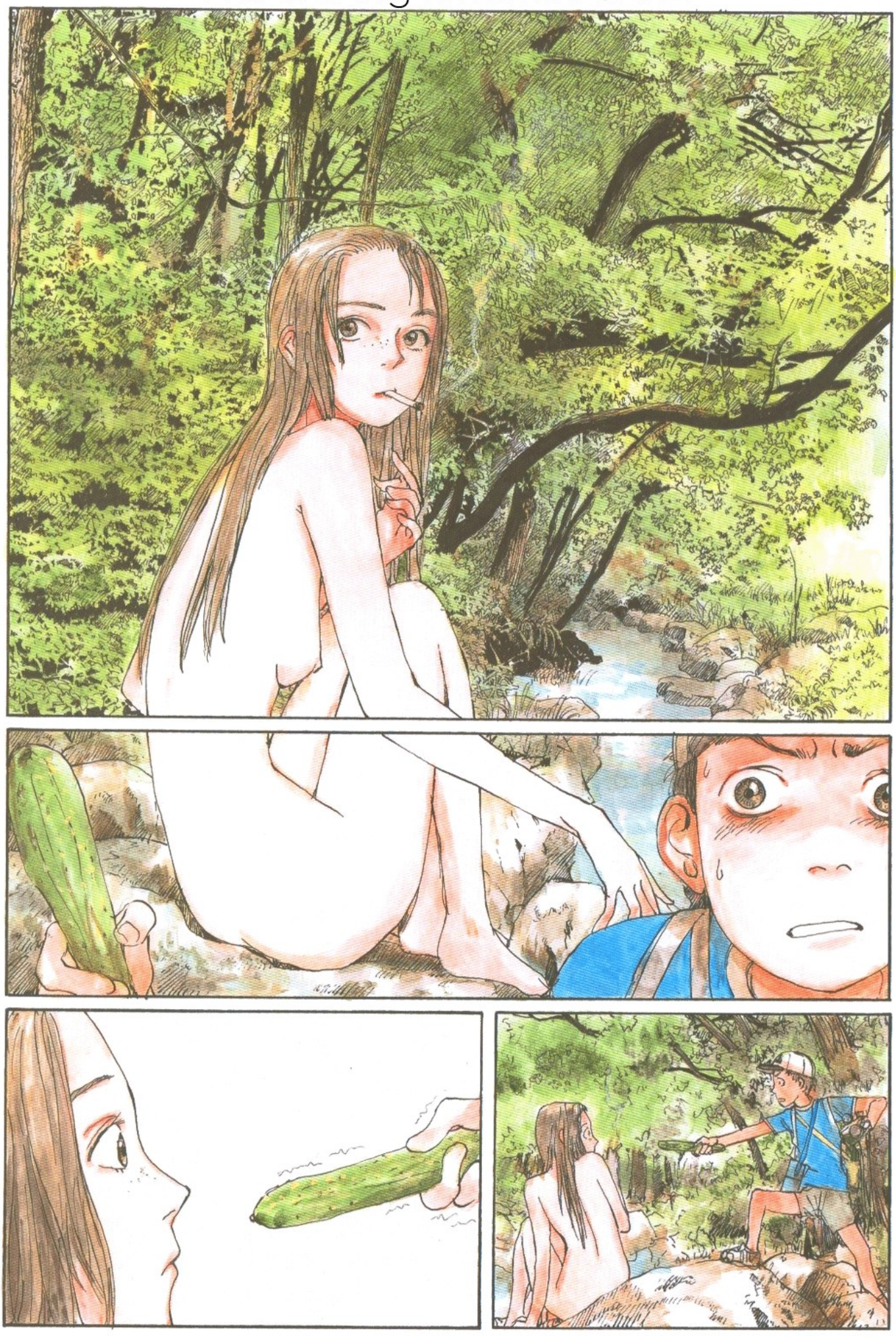


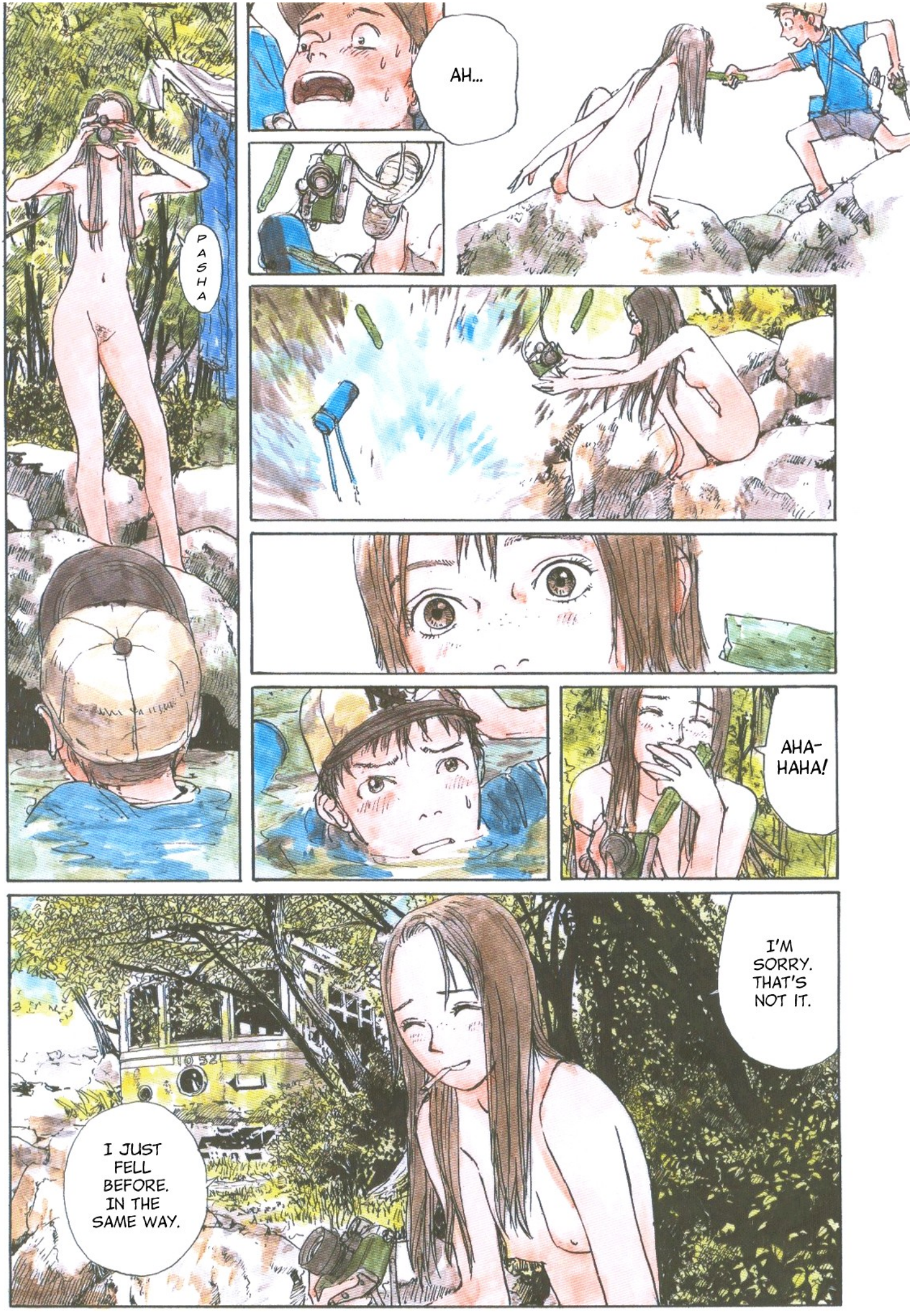


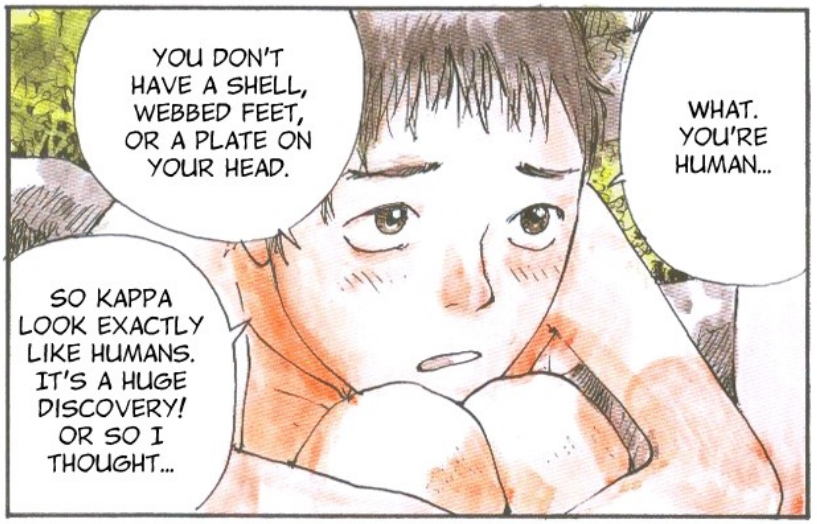


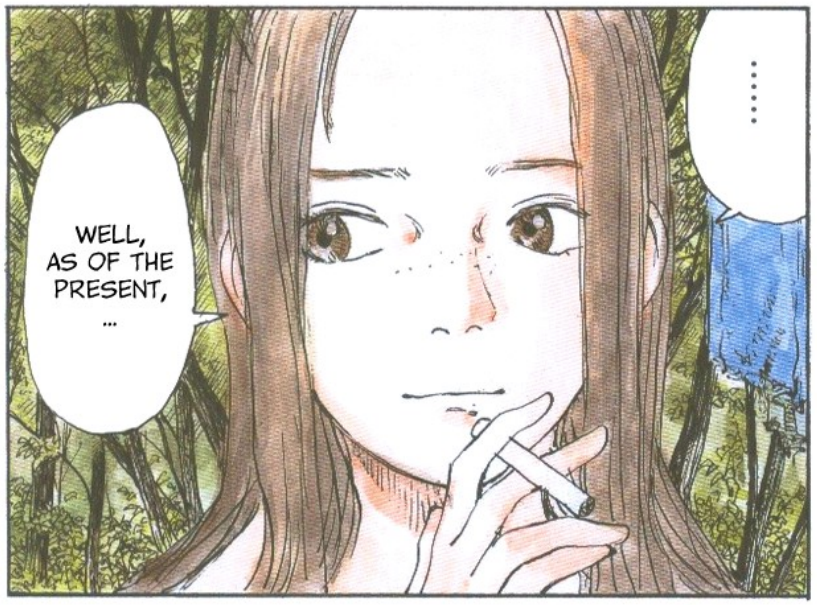

KAPPA..?
KA...
KA...
KAPPA
...

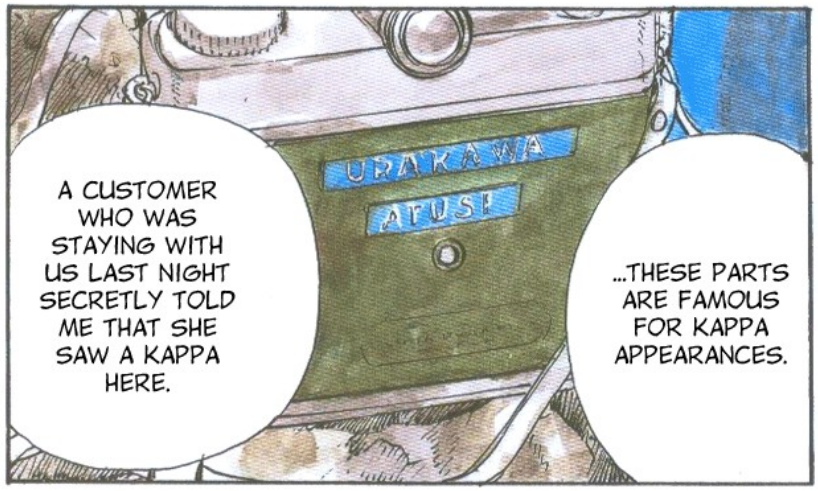
Wandering Emanon Ch. 2



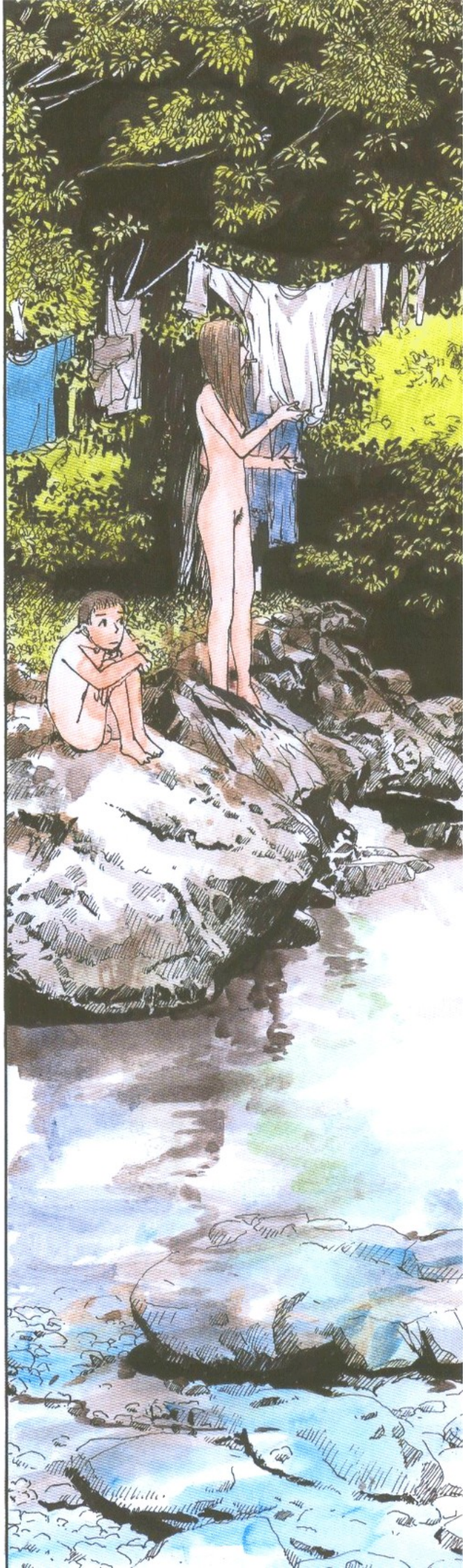

AH...
PASHA
AHA-HAHA!
I'M SORRY. THAT'S NOT IT.
I JUST FELL BEFORE. IN THE SAME WAY.

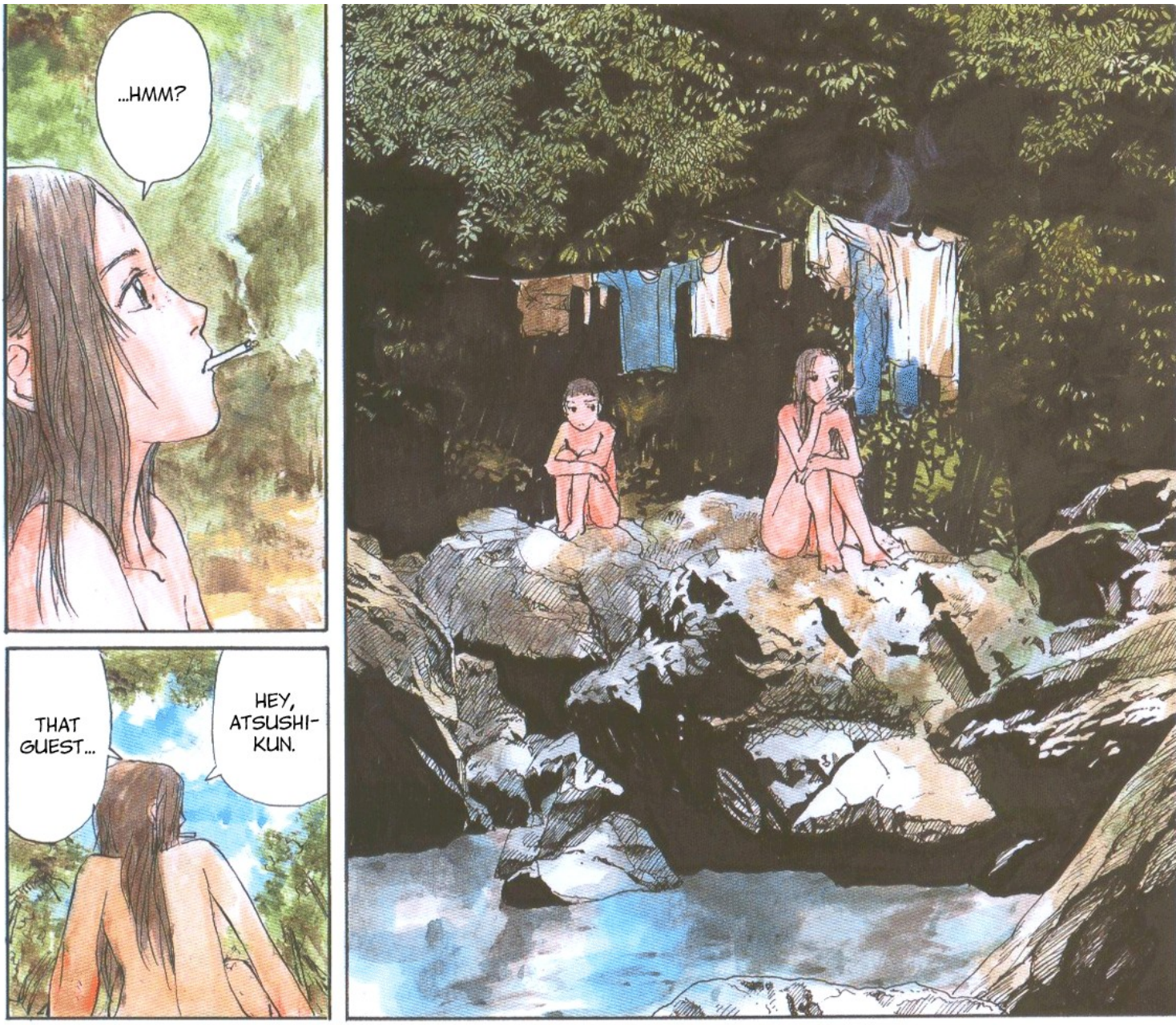

YOU DON'T HAVE A SHELL, WEBBED FEET, OR A PLATE ON YOUR HEAD.
WHAT. YOU'RE HUMAN...
SO KAPPA LOOK EXACTLY LIKE HUMANS. IT'S A HUGE DISCOVERY! OR SO I THOUGHT...

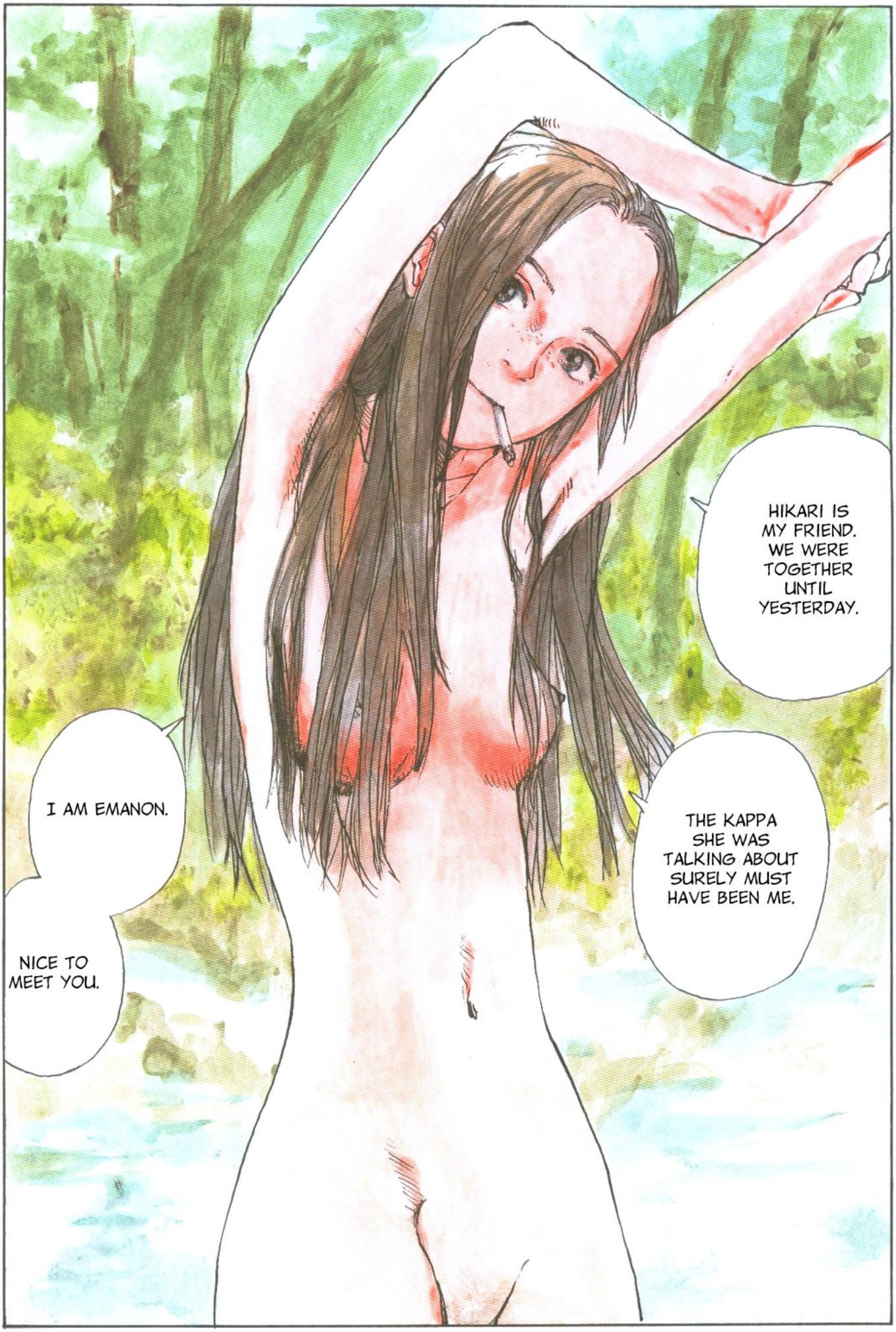

.....
WELL, AS OF THE PRESENT, ...

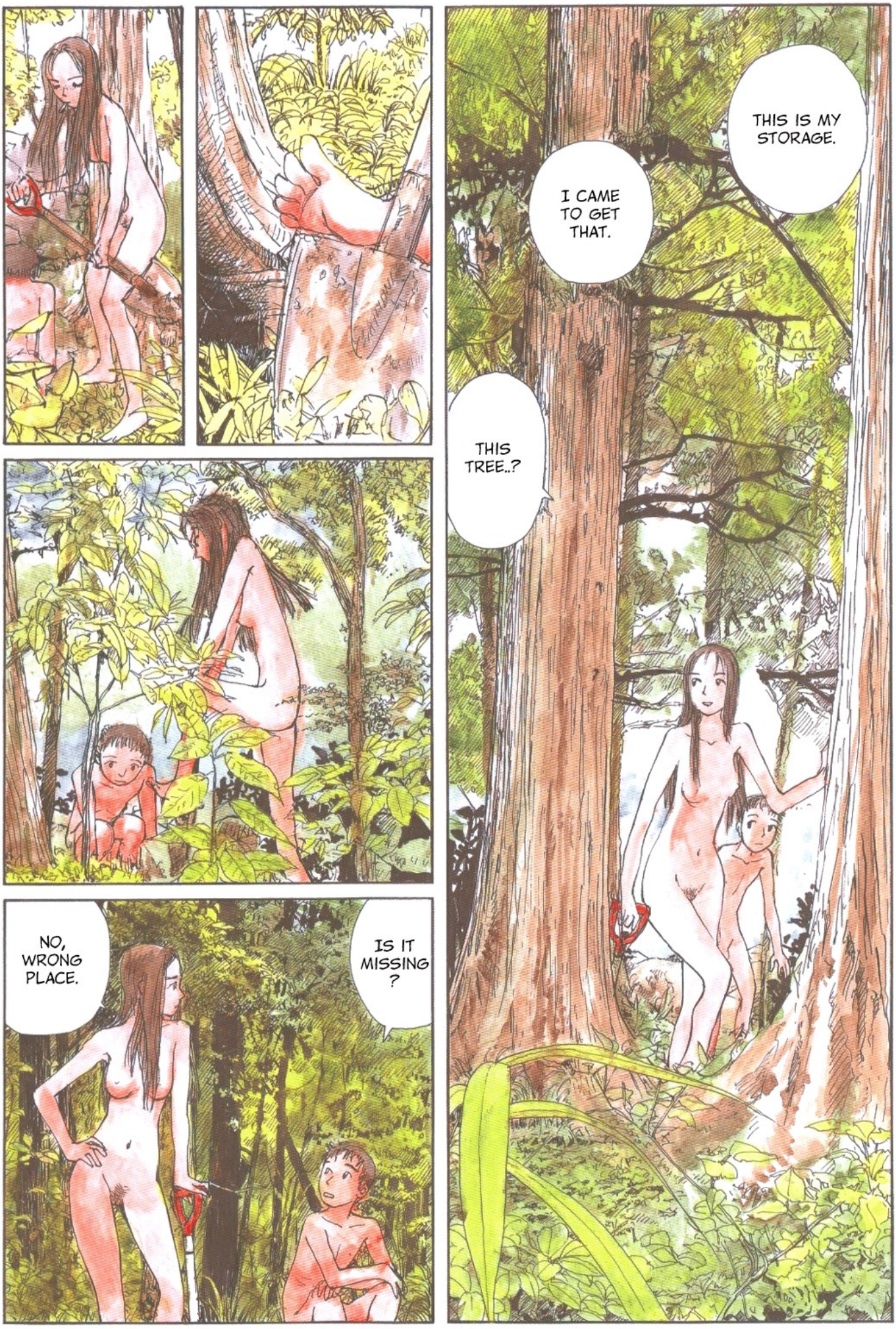

A CUSTOMER WHO WAS STAYING WITH US LAST NIGHT SECRETLY TOLD ME THAT SHE SAW A KAPPA HERE.
...THESE PARTS ARE FAMOUS FOR KAPPA APPEARANCES.

HMPH.

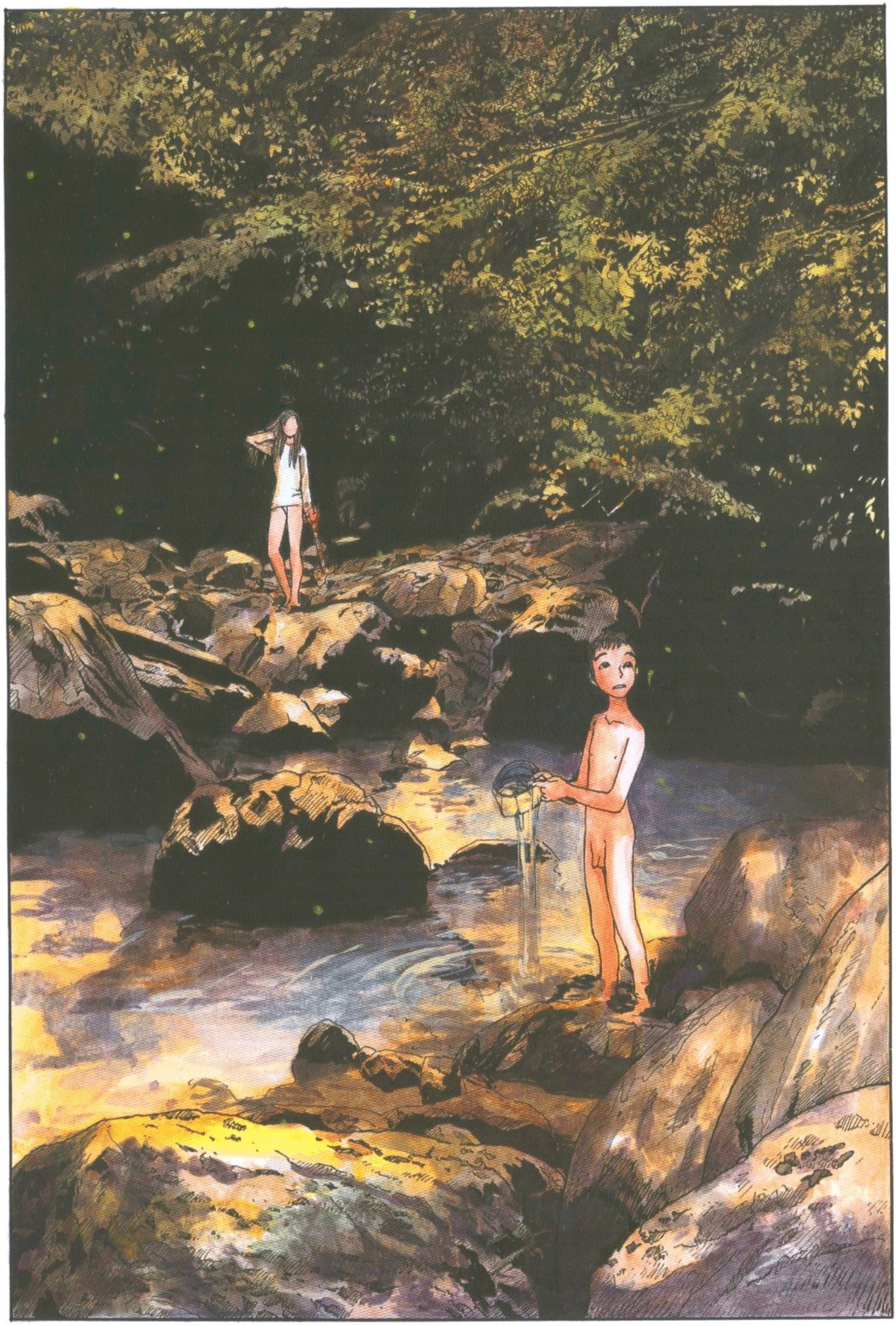



...HMM?
HEY, ATSUSHI-KUN.
THAT GUEST...
YES.
...YEAH. HER NAME WAS HIKARI-SAN.
WAS SHE A WOMAN WITH SHORT HAIR? ABOUT THE SAME HEIGHT AS ME...
DO YOU KNOW HER?
THEN, ...
...YOU HEARD MY NAME FROM HIKARI-SAN, DIDN'T YOU?
IT WAS WRITTEN ON YOUR CAMERA.

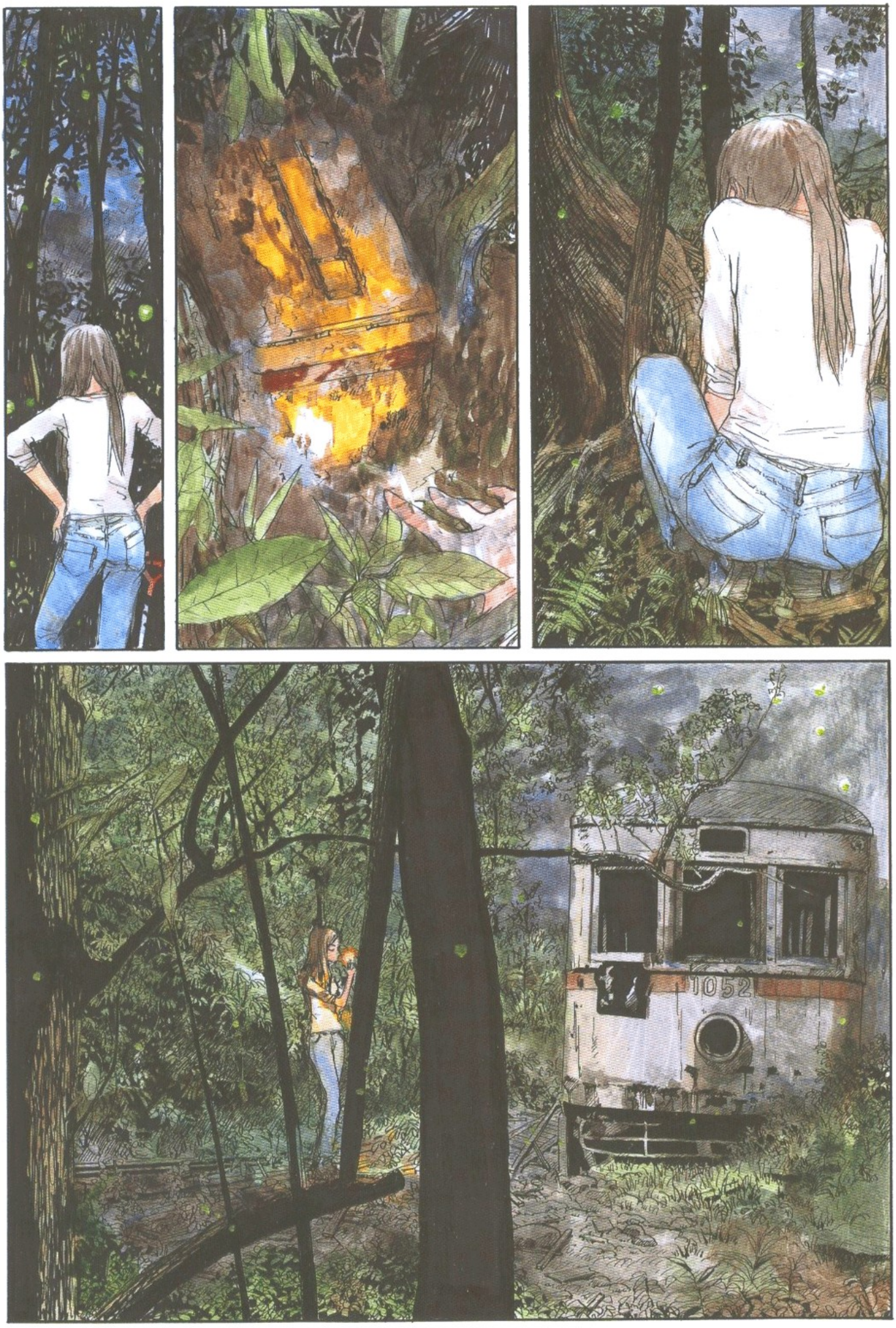

HIKARI IS MY FRIEND. WE WERE TOGETHER UNTIL YESTERDAY.
THE KAPPA SHE WAS TALKING ABOUT SURELY MUST HAVE BEEN ME.
I AM EMANON.
NICE TO MEET YOU.

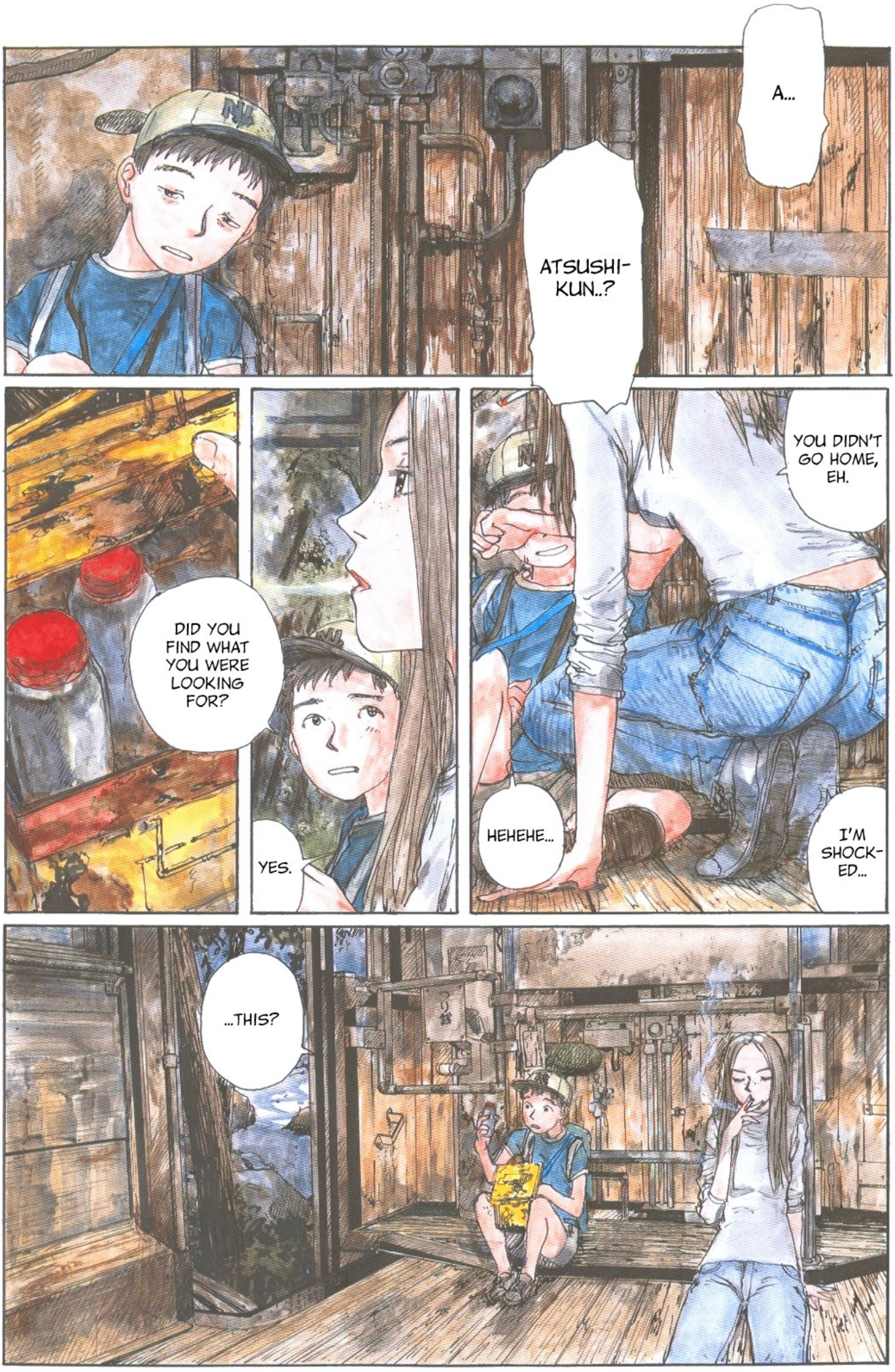

THIS IS MY STORAGE.
I CAME TO GET THAT.
THIS TREE..?
NO, WRONG PLACE.
IS IT MISSING ?

I...IS THAT SO?
DAMN IT. THE SCENARIO IN THIS AREA HAS CHANGED DRAMATICALLY.
ATSUSHI-KUN, YOU BETTER HURRY UP AND HEAD HOME BEFORE IT GETS DARK.

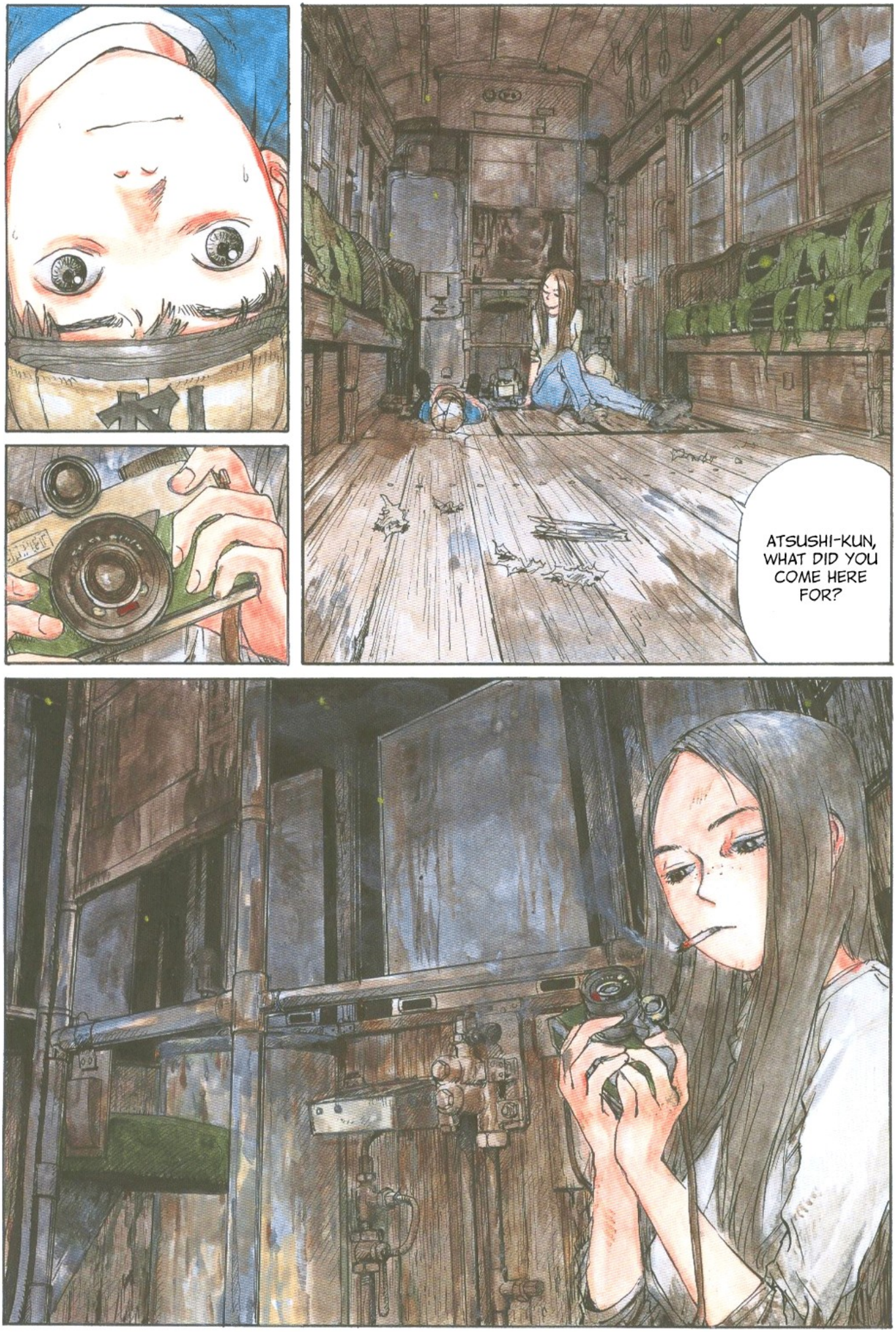


Wandering Emanon Ch. 3


1052

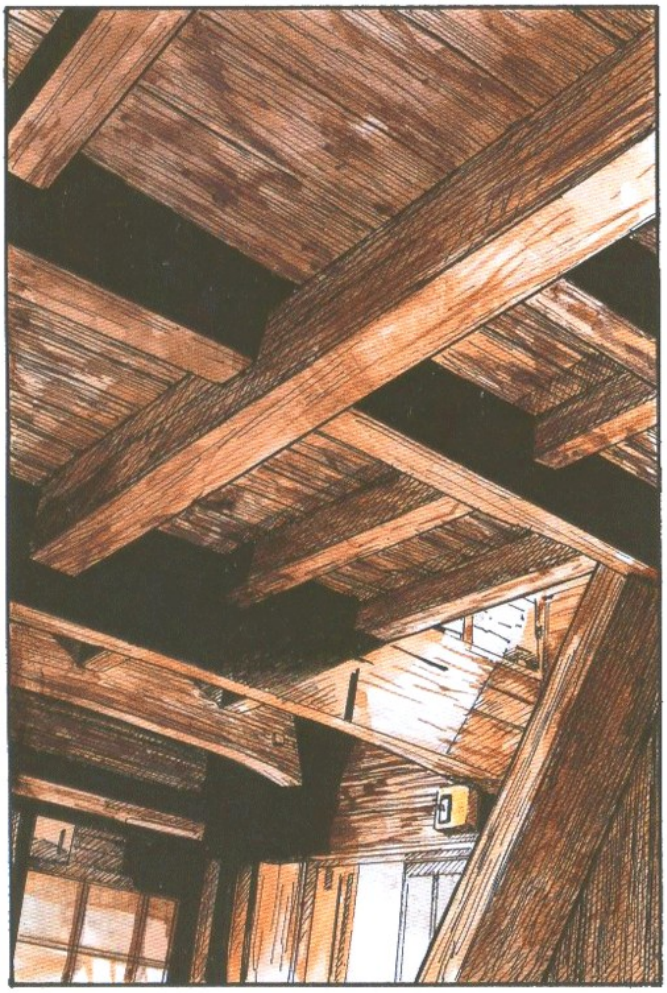

A...
ATSUSHI-KUN..?
YOU DIDN'T GO HOME, EH.
I'M SHOCK-ED...
HEHEHE...
DID YOU FIND WHAT YOU WERE LOOKING FOR?
YES.
...THIS?

I DON'T HAVE A HOUSE.
DON'T HAVE A MOTHER OR FATHER EITHER.
HEY, EMANON.
WHERE DID YOU COME FROM? WHERE IS YOUR HOUSE?
.....

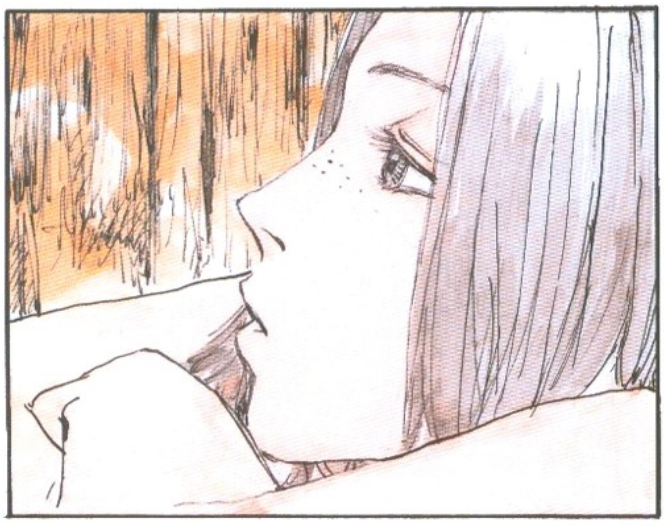

ATSUSHI-KUN, WHAT DID YOU COME HERE FOR?

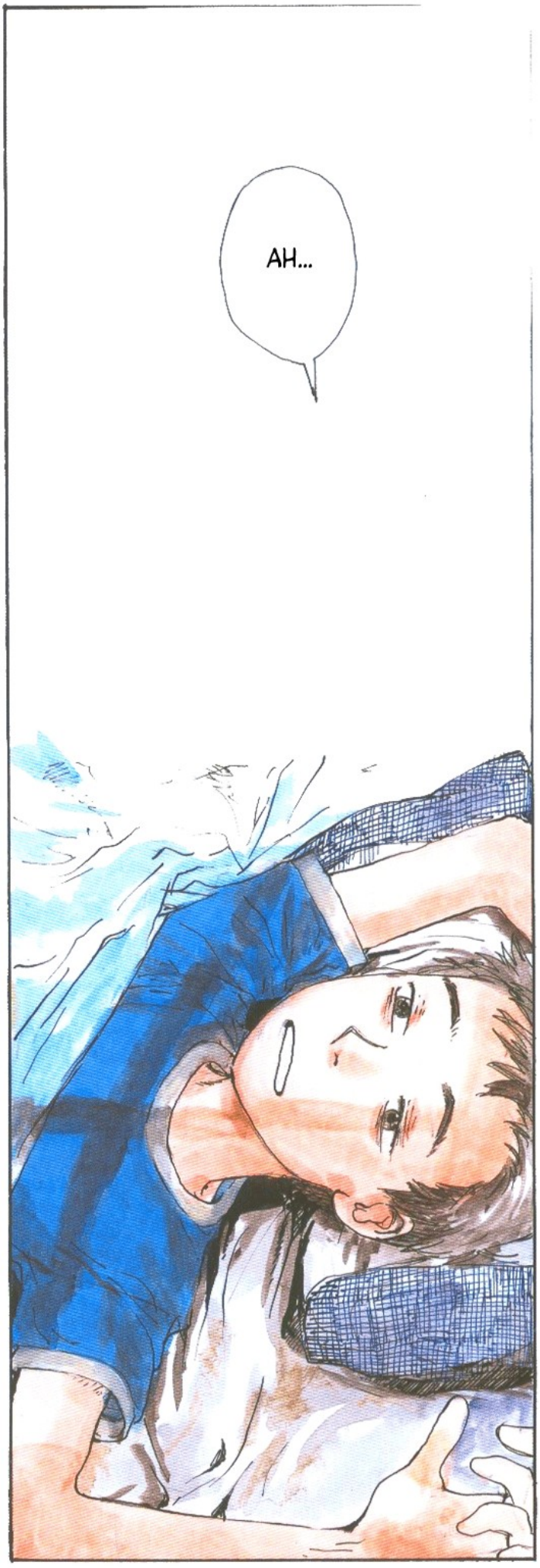
TAMIYA

Wandering Emanon Ch. 4

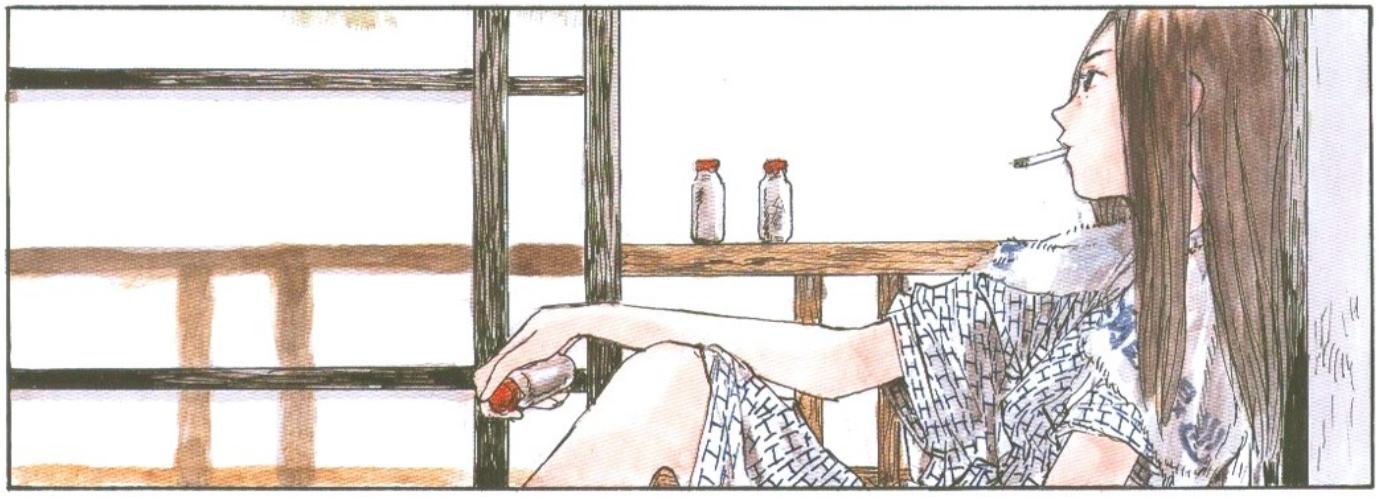


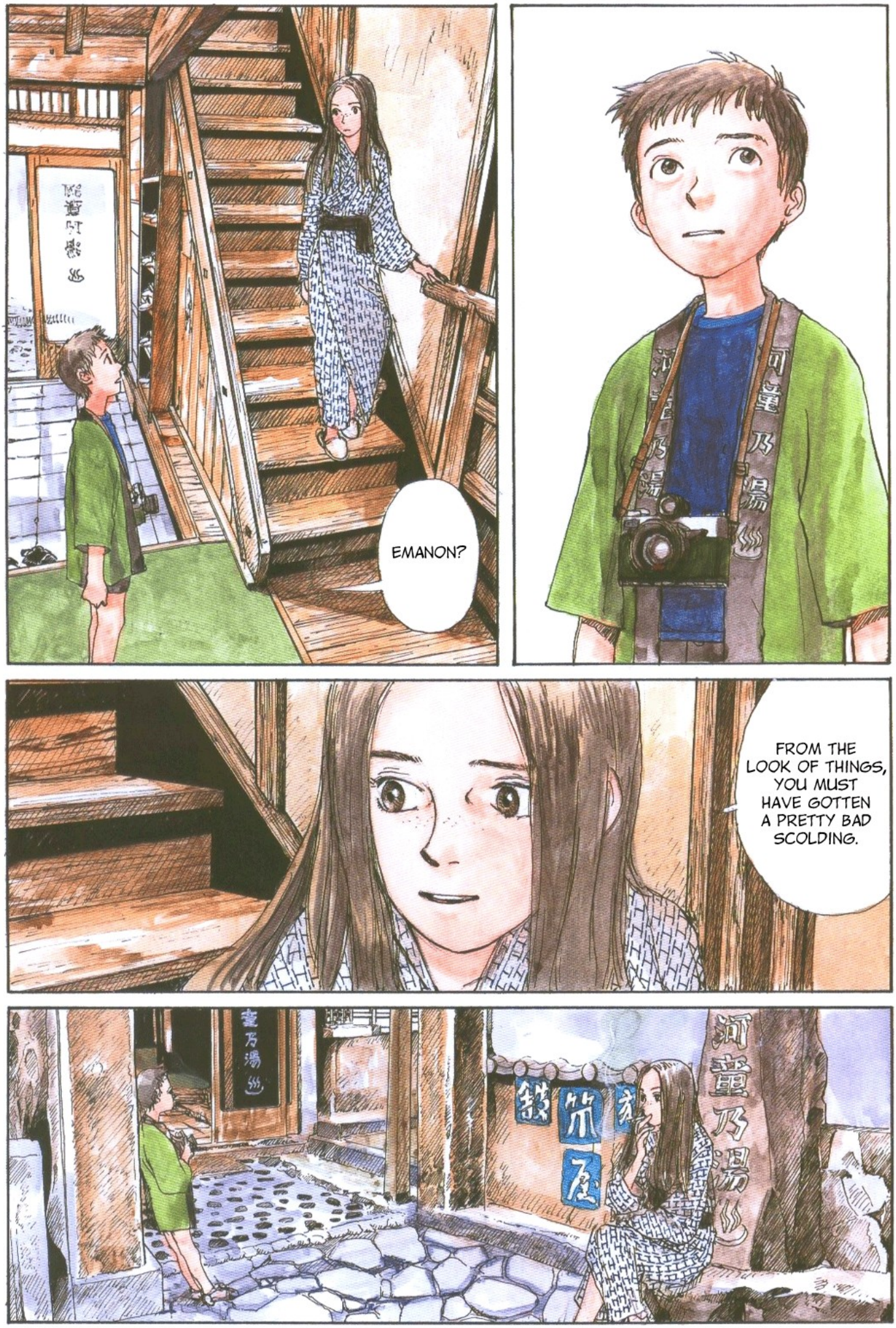
HUH?

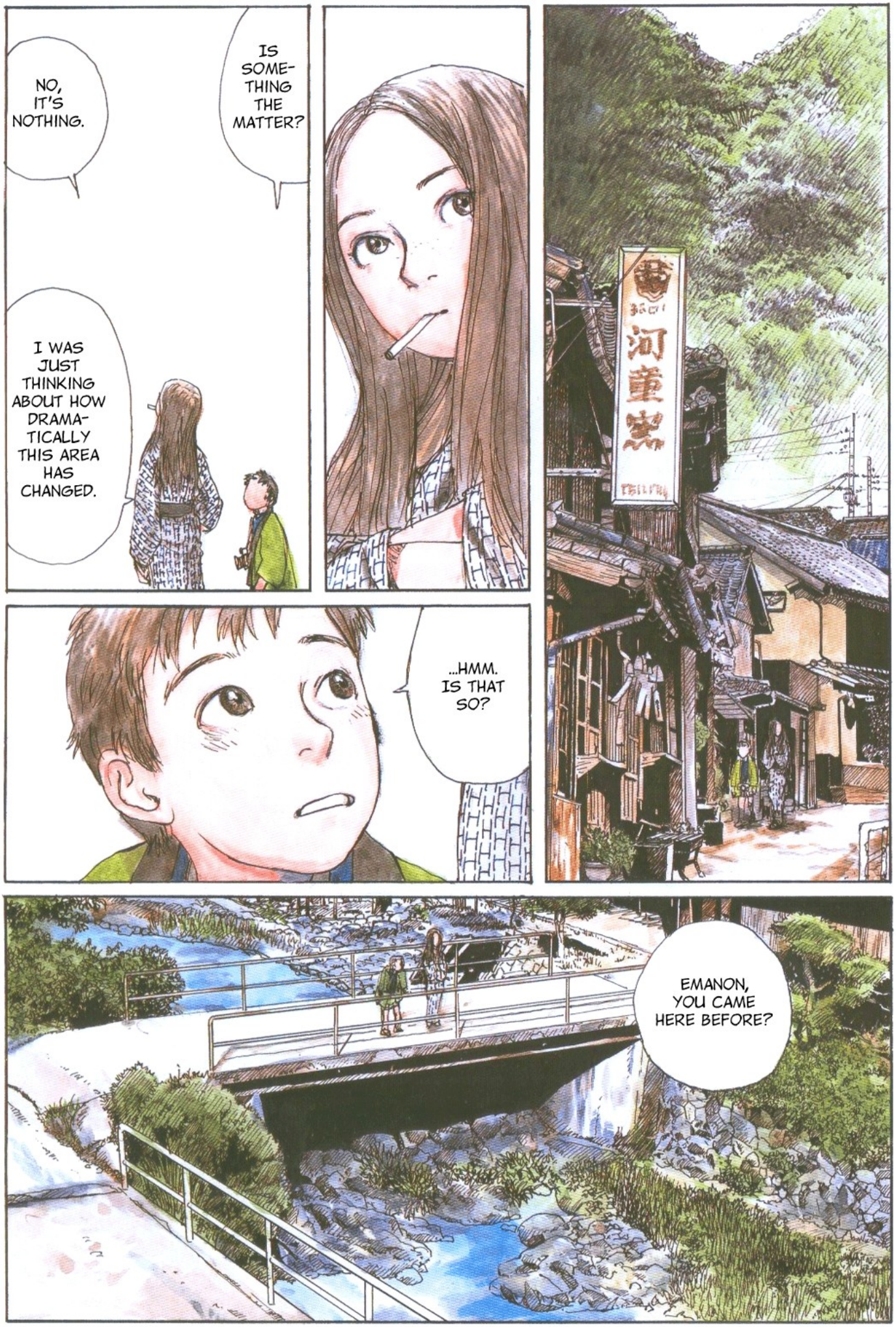


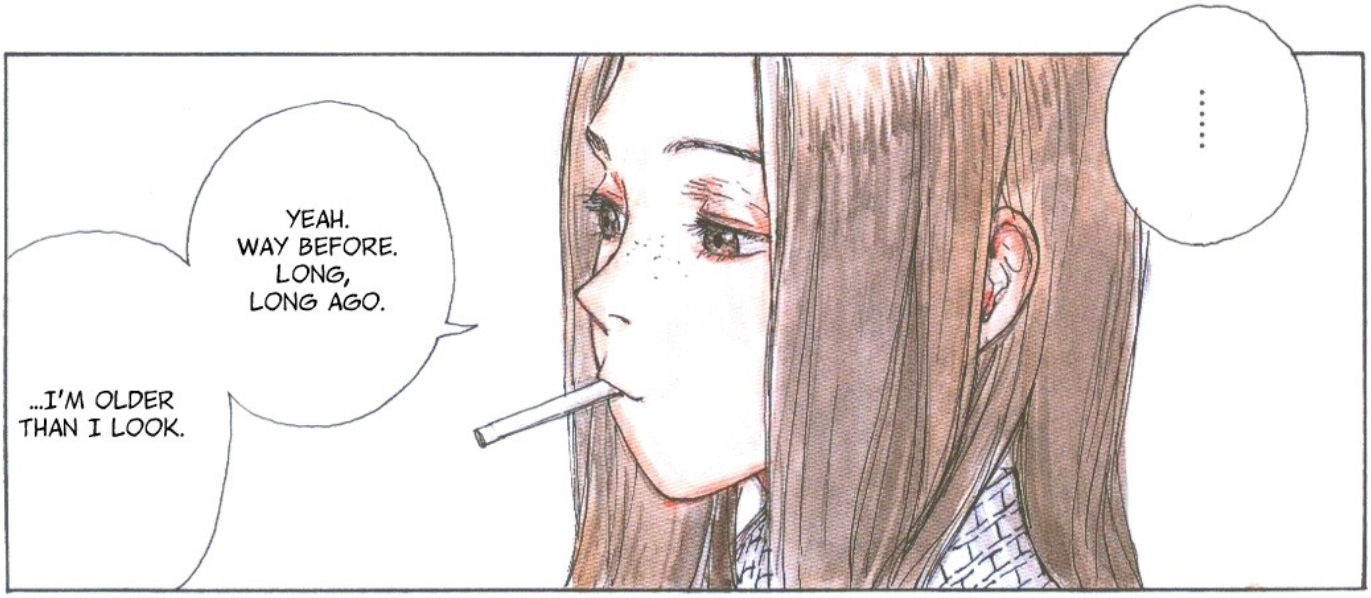

AH...

河童乃湯
河童乃湯



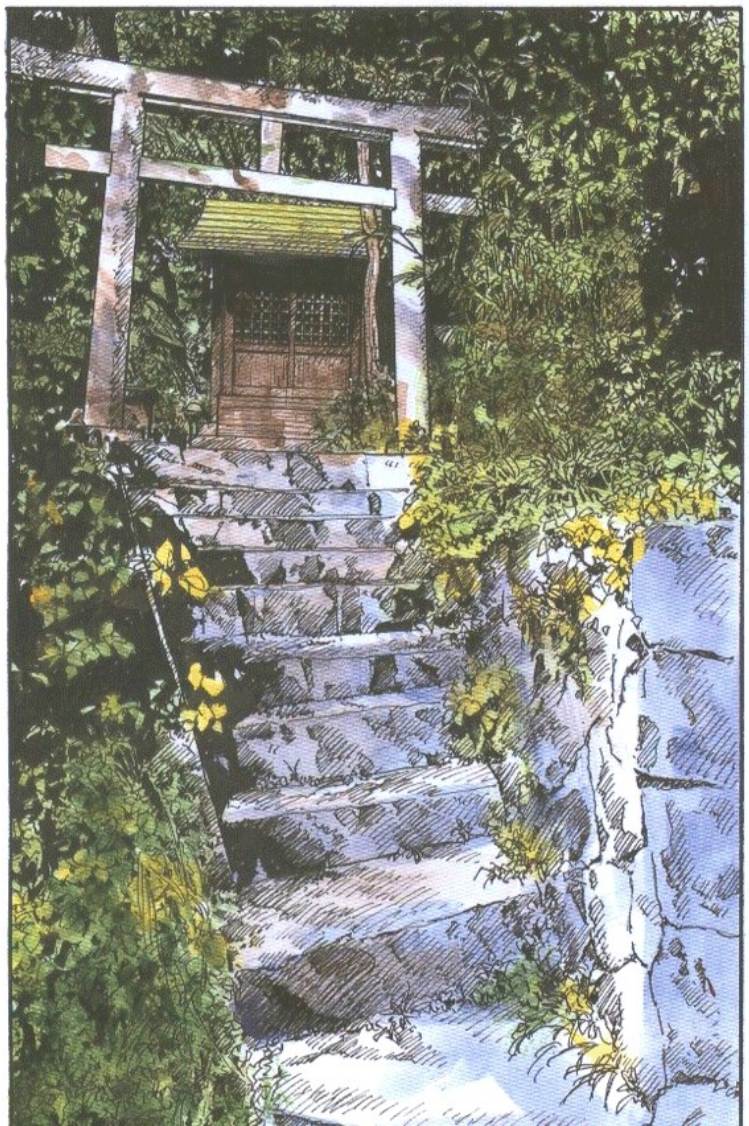

EMANON?
FROM THE LOOK OF THINGS, YOU MUST HAVE GOTTEN A PRETTY BAD SCOLDING.


IS SOME-THING THE MATTER?
NO, IT'S NOTHING.
I WAS JUST THINKING ABOUT HOW DRAMA-TICALLY THIS AREA HAS CHANGED.
...HMM. IS THAT SO?
EMANON, YOU CAME HERE BEFORE?

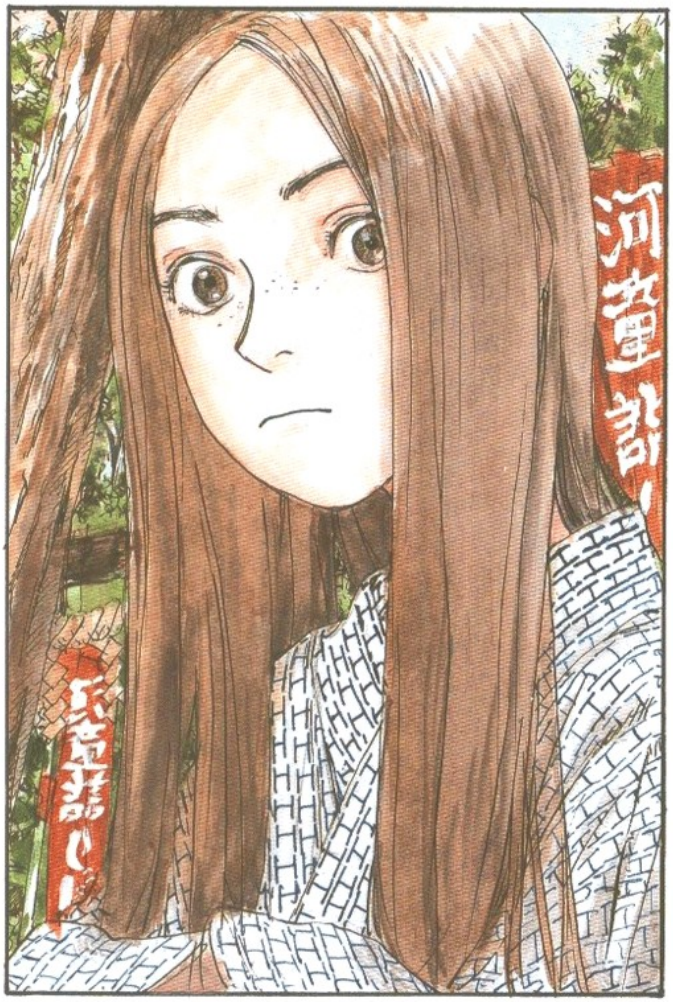

.....
YEAH.
WAY BEFORE.
LONG,
LONG AGO.
...I'M OLDER
THAN I LOOK.

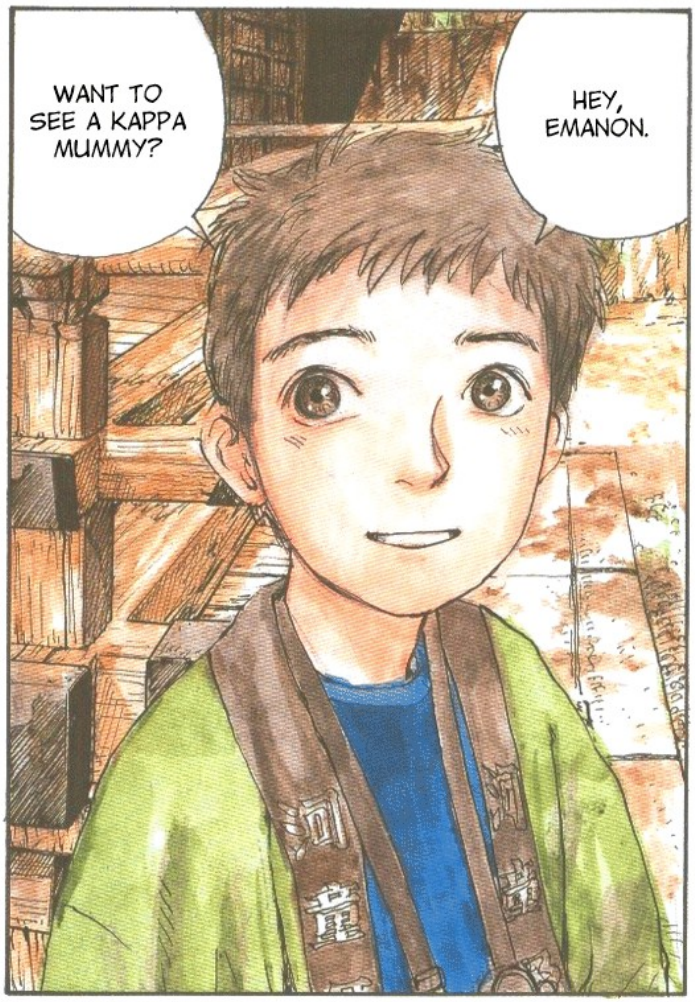
河童淵

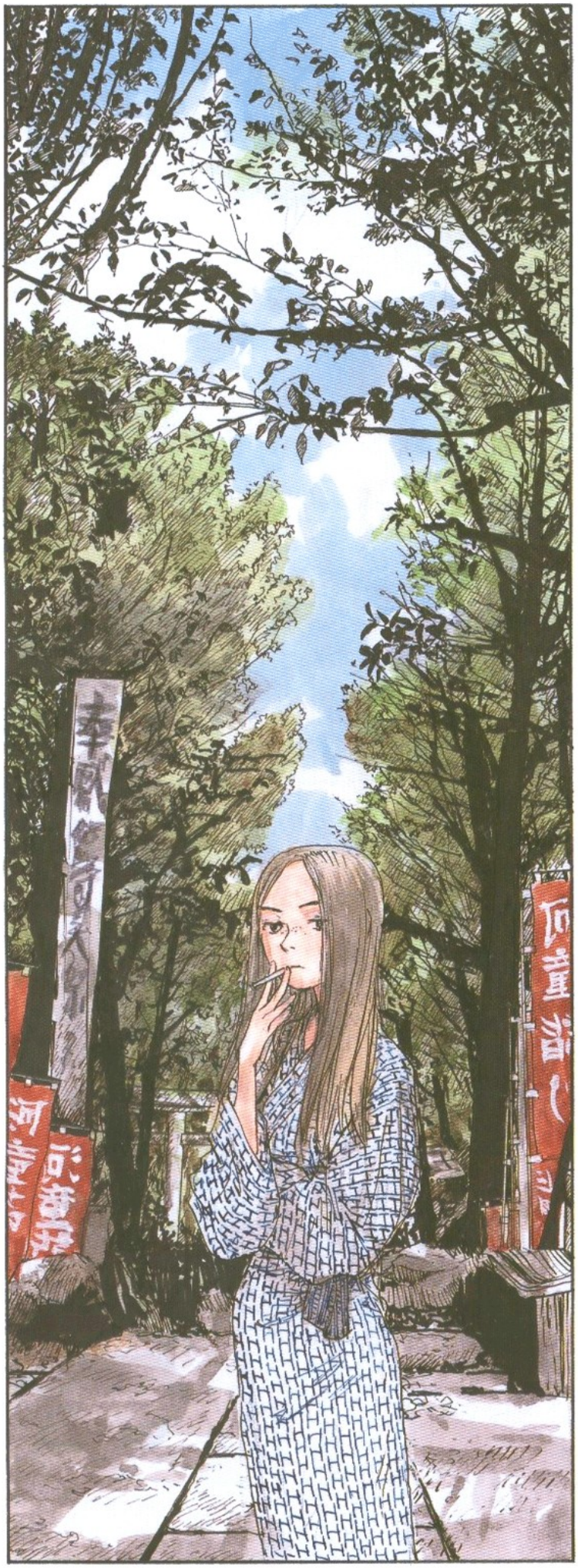
かっぱ食堂
河童食堂

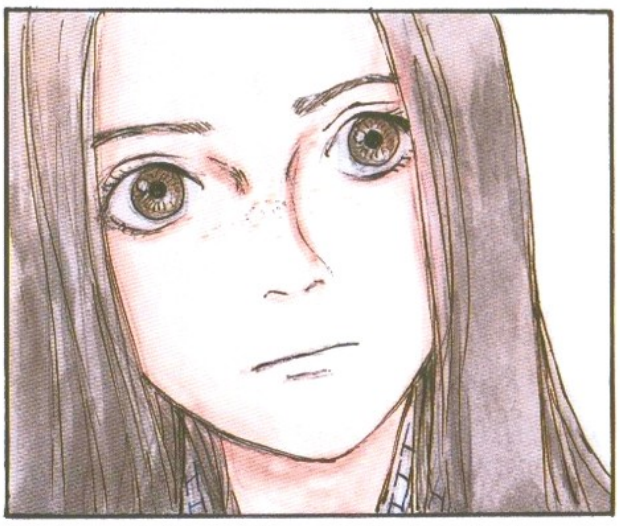


THIS IS THE KAPPA SHRINE.
GRAMPS IS THE HEAD PRIEST.




HEY, EMANON.
WANT TO SEE A KAPPA MUMMY?





エマノン ビジュアル変遷史

世界三大美女といえば、クレオパトラ・楊貴妃・小野小町となっておりますが（国外だとギリシア神話のヘレネ）、日本SFの三大美女となると、これはもう七瀬・エマノン、ダーティペアとなるのではないでしょうか（異論のある方、御容赦を）。

七瀬は、筒井康隆の生んだテレパシスト火田七瀬。三部作『家族八景』『七瀬ふたたび』『エディプスの恋人』のヒロインで、これまで何度もドラマになっており、なかでもNHK少年ドラマシリーズでの多岐川裕美の印象が根強く語られます。

ダーティペアは、高千穂遙のスペースオペラ・シリーズの主役、ケイとユリの二人組（それだと合わせて四人になるとか野暮なことは言わないように）。美女というには乱暴ものすぎるが、アニメ化されて世界中でも知られる存在。

そしてエマノン。

ダーティペア誕生と同年の一九七九年、創刊間もない「SFアドベンチャー」十二月号に、掲載された短篇「おもいでエマノン」がその存在の始まりでした。

シンプルなセーターにジーンズ、ストレートのロングヘアー、顔にはそばかすが散り、両切りのタバコをくゆらすエマノンの無造作な姿――スーパーヒロインにはほど遠かったにもかかわらず、SF作家・梶尾真治が生み出した、地球生命の誕生から現在にいたる四十億年の記憶を有する少女エマノンは、多くの読者の記憶に焼き付けられました。

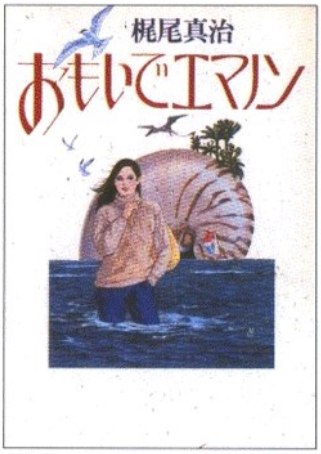
では一体、エマノンは本当はどんなビジュアルをしていたのでしょうか。

エマノン初登場時のイラストは、当時ミステリやSF雑誌のイラストを数多く手がけていた**中村銀子**によるものでした。わりと大人びた容貌のエマノンが、翌年発表のシリーズ第二作「たそがれコンタクト」でも描かれています。

しかし小説とイラストとのコラボレーションという感覚もまだ一般的ではなかったこともあって、その後雑誌上でエマノンは、**城ノ内あずま**・**新井苑子**・**唐沢唯**と描き手を変えてビジュアル化されてゆきます。そのなかでも印象深かったのは、八三年に弊社から単行本化された折にカバーイラストも担当した**新井苑子**のイメージでしょう。

ポール・アンダースン&ゴードン・R・ディクスンのホーカ・シリーズ『地球人のお荷物』や、ヴォネガットJr.の『タイタンの妖女』、ゼナ・ヘンダーソンのピープル・シリーズ『果てしなき旅路』、ロバート・F・ヤング『ジョナサンと宇宙クジラ』、河野典生『街の博物誌』に、『オズの魔法使い』から始まるライマン・フランク・ボームのオズ・シリーズなどなどと、詩情あふれる作品の装画を多く描いていた新井苑子のさわやかな画風はエマノンにぴったりでした。

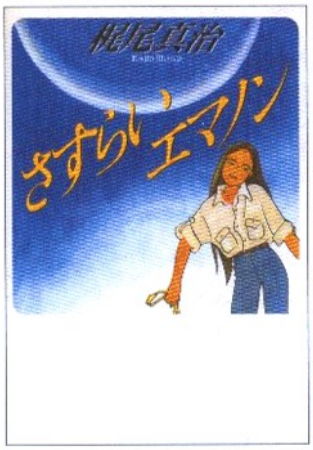
ほか、単行本刊行の翌年となる一九八四年の十一月号の「SFアドベンチャー」で



◀新井苑子／単行本「おもいでエマノン」

▲中村銀子／「SFアドベンチャー」挿画

「おもいでエマノン」初出誌▶



高野文子
▼徳間文庫『おもいでエマノン』
◀単行本『さすらいエマノン』

▲佐竹美保／「SFアドベンチャー」挿画
〈梶尾真治特集が組まれた「SFアドベンチャー」誌上では田中芳樹・堀晃によるエッセイなどの他に多くの写真やインタビューが掲載された〉

〈梶尾真治特集〉が企画された折には、現在では、ダイアナ・ウィン・ジョーンズ『ハウルの動く城』などで児童文学の装幀の第一人者となった**佐竹美保**の繊細なイラストが何枚も掲載されました。

そして八七年に文庫化された『おもいでエマノン』は、カバーイラストがあの**高野文子**に（なぜか、本文イラストは新井苑子でした）。ちょっとポップで元気そうなエマノンが笑っています。雑誌では一度も担当はしていなかったのですが、続篇の単行本『さすらいエマノン』（九二年刊）でも、やはりカバーは高野文子によるものでした。

その翌年「SFアドベンチャー」が休刊になってしまってからは、中断状態であったエマノン・シリーズですが、二〇〇〇年には新雑誌「SF Japan」創刊号で八年ぶりに復活。その新作「あしびきデイドリーム」のイラストを担当したのが、《エマノン》の大ファンであり「自分の描く少女にはすべてエマノンの影響がある」と語る**鶴田謙二**でした。SFファンは快哉を叫び、同作は翌二〇〇一年の日本SF大会でファン投票によって決定する年次ベスト「星雲賞」の日本短篇部門を受賞しました。

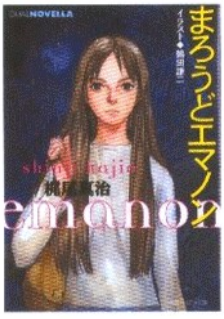
これ以降、デュアル文庫での書き下ろしも含めたシリーズ新作は、装画・挿画ともにすべて鶴田健二が担当。さらには「SFJ」二〇〇二年春季号では「エマノンのおもいで」のタイトルで、8ページの短篇でしたが、初のマンガ化もなされました。

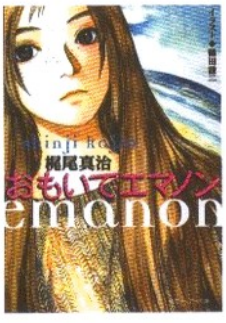
そしていつしか鶴田の描くキャラこそがエマノンを表すイメージとして広く知られていくことになったのでした。

【エマノンを描いた人々〈イラスト〉】

中村銀子	「おもいでエマノン」SFアドベンチャー1979年12月号掲載
	「たそがれコンタクト」SFアドベンチャー1980年12月号掲載
城ノ内あずま	「ゆきずりアムネジア」SFアドベンチャー1981年12月号掲載
	「さかしまエングラム」SFアドベンチャー1982年2月号
新井苑子	「しおかぜエヴォリューション」SFアドベンチャー1982年5月号
	「とまどいマクトゥーヴ」SFアドベンチャー1982年9月号
	「まじろぎクリィチャー」SFアドベンチャー1986年6月号
	「あやかしホルネリア」SFアドベンチャー1987年4月号
	「まほろばジュルパリ」SFアドベンチャー1991年6月号
	「いくたびザナハラード」SFアドベンチャー1992年1月号
	『おもいでエマノン』（1982年／単行本）
唐沢 唯	「うらぎりガリオン」SFアドベンチャー 1982年12月号
佐竹美保	「さすらいビヒモス」SFアドベンチャー 1984年11月号
高野文子	『おもいでエマノン』（1987年／徳間文庫）
	『さすらいエマノン』（1992年／単行本）
鶴田謙二	「あしびきデイドリーム」SF Japan 2000年MILLENIUM号
	「エマノンのおもいで」SF Japan 2002年春季号
	『おもいでエマノン』（2000年／デュアル文庫）
	『さすらいエマノン』（2001年／デュアル文庫）
	『かりそめエマノン』（2001年／書き下ろし／デュアル文庫）
	『まろうどエマノン』（2002年／書き下ろし／デュアル文庫）
	「ぬばたまガーディアン」SF Japan 2007年SPRING号
	「いにしえウィアム」SF Japan 2008年WINTER号

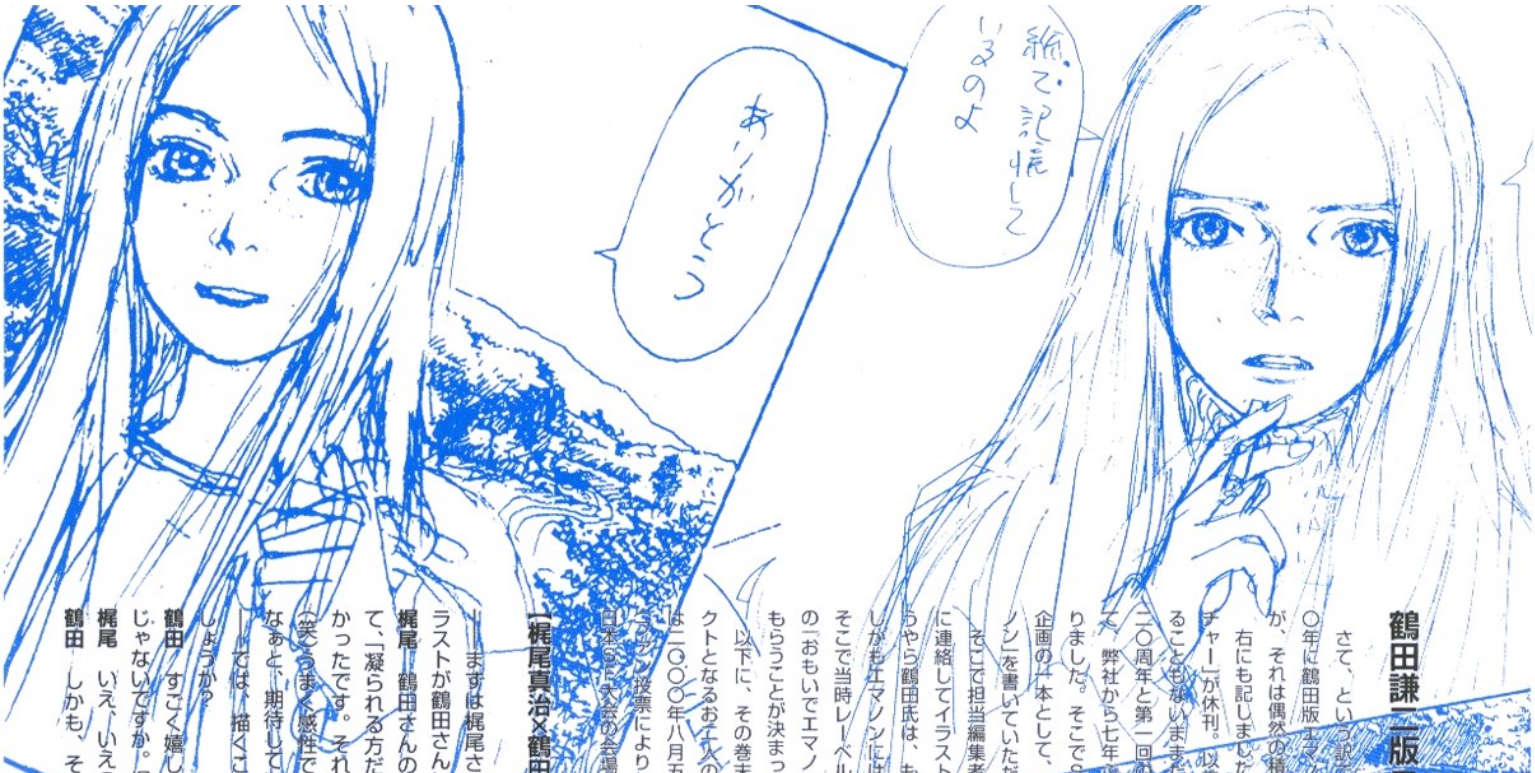
※『異形コレクション:進化論』（2006年/光文社文庫）に収録された「おもかげレガシー」ではエマノンは描かれていませんでした。





▲鶴田謙二／4点のデュアル文庫

◀鶴田謙二／初めてのエマノン「SF Japan」創刊号



鶴田謙二版エマノン変遷史

さて、という訳で二〇世紀最後の年となる二〇〇〇年に鶴田版エマノンが登場することになるのですが、それは偶然の積み重なりによるものでした。右にも記しましたが、一九九二年にSFアドベンチャー」が休刊。以来、新たなエマノンが発表されることもないままだったのですが、日本SF大賞の二〇周年と第一回の日本SF新人賞の発表を記念して、弊社から七年ぶりにSFを刊行することになりました。そこでSF大賞受賞作家による短篇競作企画の一本として、ひさしぶりに梶尾真治氏にエマノンを書いていただくことになったのです。

そこで担当編集者が、久々にエマノンに連絡してイラストを依頼したところ、即快諾。どころか鶴田氏は、もとから梶尾作品のファンであり、しかも女エマノンには強い思い入れがあったとのこと。そこで当時レーベル創刊自前だったデュアル文庫版の「おもいでエマノン」も鶴田氏にイラストを添えてもらうことが決まったのでした。

以下に、その巻末に収録したファースト・コンタクトとなるお二人の対談を再掲載いたします。それは二〇〇〇年八月五日、鶴田氏が星雲賞アート部門にノミネート投票により毎年選ばれるSF賞を受賞した日本SF大会の会場内でおこなわれたものです。

【梶尾真治×鶴田謙二　対談再録①】

まずは梶尾さんに、「おもいでエマノン」のイラストが鶴田さんに決まった感想を。

梶尾　鶴田さんの作品は私も前から見ていまして、「凝られる方だな」って思っていたので、よかったです。それに、私のなかの純情な部分を（笑）うまく感性で表現してくれるんじゃないかなぁと、期待しています。

――では、描くことになった鶴田さんはどうでしょうか？

鶴田　すごく嬉しかったです。だって憧れの人じゃないですか。梶尾真治さんは。

梶尾　いえ、いえ（笑）。

鶴田　しかも、その中で一番好きな作品の挿絵を描けるわけですから。これは全部、押さえておかなくっちゃ！（笑）みたいな感じで。「おもいでエマノン」描いて、「さすらいエマノン」描いて。それで、これからの新作の挿絵も描けば、もう僕以外に「エマノン」描く人がいなくなるじゃないですか。「エマノン」といえば俺という（笑）。そこまで考えちゃいました（笑）。

――じゃあ後は梶尾さんに書いてもらうだけですね。

梶尾　……（笑）。

鶴田　大丈夫ですよね（笑）。

梶尾　「エマノン」の書き方を忘れちゃってたんですよ（笑）。今年のはじめに「SF Japan」で、久しぶりの新作「あしびきデイドリーム」を書いたんですけど、最初は編集さんに「前はどんな風に書いてましたっけ？」とか聞いたんですから（笑）。

――最初の「エマノン」のアイデアはどんなところから思いついたんですか。

梶尾　アイデア自体は、すごく古いものなんです。二二、三才ぐらいのころ。書いたときにはもう三〇代になってしまってましたけど。若いころ旅をするのがすごく好きで、ある時に名古屋から出ている「サンフラワー」という一万トンぐらいの客船に乗ってたんです。でも、じつは船旅って退屈なんです。だから、ぼんやりしながら「あー、いま隣に女の子がいたらいいなぁ。楽しいだろうなぁ」と思ったのがアイデア（笑）。

――アイデアですか!?　それは単なる妄想では？（笑）。

梶尾　いや、ですから最初は、そーいう願望充足の物語だったんです（笑）。若いころは行きずりの恋とかに憧れたりするでしょ。望みの女の子の姿とか、しぐさとか考えるわけですよ。そうすると、髪が長くてジーンズはいてて、自然素材のニットを着ててと、だんだんキャラクターができてくる。それからSFにするには、どーしたらいいか、と考えだしたわけなんです。人として一番辛いのはなんだろう、忘れたいような辛いことが忘れられないというのが一番辛いんじゃないかと。それからやっと設定が広がっていった。

――鶴田さんが読まれたのは、単行本にまとまってからですか？

鶴田　最初は別の短篇集の中のひとつだった（早川書房刊『時空祝祭日』一九八一年）はずなんけど、読んで「あっこれはいい」となったんです。でもその後、本屋さんに行ったらそれと同じタイトルの本が出ていて「これは一体どうした事だ」と思って買ったんですけど、しばらく怖くて読めなかった（笑）。

梶尾　むかしのSFファンにとっては「アルジャーノンに花束を」が長篇になってるような怖さでしょうかね（笑）。僕としては続篇を書くつもりはなかったんです。「おもいでエマノン」は、あれで完結しているんで。でも締切が迫っているのになにも決まってない時があって、ぼろっと「このあいだの女の子また出します」って（笑）。そして現在にいたっているわけです。

――「エマノン」のイメージは？

梶尾　昔から考えているんですけど一時期、後藤久美子と思ってた時期があって、その後に今井美樹の時代がくるんです（笑）。

鶴田　今は？

梶尾　ちょっと前までは江角マキコ。あと一番最近では、上原多香子とか。髪が長けりゃ誰でもいいのかもしれない（笑）。

鶴田　僕はダブらせちゃいますよね。自分の作品のイメージを。小説の中にイメージを阻害する描写がないんで、自分で考えた「エマノン」になっちゃいます。

梶尾　この間の「あしびきデイドリーム」ではじめて描いていただきましたよね。あれは、かなりぴったりでした。驚きました。

――鶴田さんは、描きやすかったですか？

鶴田　描きやすかったから、描きにくかったというか（苦笑）。だって、いつもの絵になっちゃうんですもん（笑）。自分の絵柄を模索していた時期に、ファンとして読んでいた作品ですから、根底に刷り込まれているというか、僕の描く女の子はむかしから全部「エマノン」だったのかもしれない……だから、今回は描いている本人の満足度は、かなり高いと思いますよ。

梶尾　似かよってるのかも知れませんね、僕の

作品の雰囲気と。私の本が好きだという人は鶴田さんのマンガをよく読むという人が多いんですよ。

鶴田　よく読むほど、本がないんですけど(笑)。

梶尾　思いだしたように、新刊が出る(笑)。そこも似てますよ。

――エマノンには長篇のネタもあるとのことですが。

梶尾　ええ。彼女がマルチニク島に住んでたゴーギャンや、ラフカディオ・ハーンたちとゾンビ狩りをする話(笑)。

鶴田　ゾンビ狩り!?　新機軸ですね(笑)。

梶尾　ただのゾンビじゃないんですけどね。資料はそろってますから、あとは書くだけ(笑)。まあそのうちに。鶴田さんが「エマノン」はもう描きたくないという前になんとか……。

鶴田　がんばってください(笑)。

そう、これは原作者である梶尾氏も当事者の鶴田氏も担当編集者も、のちのち「エマノン」のマンガが誕生するとは思ってもいない頃の対談。二〇〇〇年から始まったエマノンと鶴田氏のかかわりは、四冊のデュアル文庫と八頁のイメージコミックなどなどで、二年間継続します(途中、奇しくも鶴田版イラストが初お目見えした「あしびきデイドリーム」が二〇〇一年の星雲賞短篇部門を受賞したりもしました)。

この対談が掲載された本格的なマンガ化が始まったのでした。連載も無事終了し、コミックスのための手直し中のなまなましい予感を許さない)時期に行われた二度目の対談の再録、「COMICリュウ」二〇〇八年七月号(五月発売)に載ったものです。

【梶尾真治×鶴田謙二　対談再録②】

■はじめての最終回

――一月発売の三月号で連載が終わってから四カ月、ついにコミックスですね。

梶尾　またコミックスが出るか、予断は許しませんけどね(笑)。

――笑えませんよ。

鶴田　しかし感慨深かったですよ。自分の連載で「おわり」とか「完」とかいった文字を初めてみましたからね。

――キャリア二年にして初体験ですか。

梶尾　それはそれは(笑)。「次回最終回」という文字を誌面で見たときも、ウソだと思いました。

――実際、一回ウソになっちゃいましたけど。(予告頁で「最終回」とうたってから、一号延長された)

梶尾　そもそもは連載の予定ではなくて、読み切りとして掲載するっておっしゃってましたよね。

――原作の「おもいでエマノン」は原稿用紙にして五〇枚ちょっとの短篇ですからね。

鶴田　最初の予定では三六ページぐらいでおわるはずでした。

梶尾　でも鶴田さんだし(笑)、ひょっとしたら三回くらいの分載になるかもしれないと思っていたんだけど、まさか一年以上の連載になるとは。

――僕は読み切りで終わらないであろうことは企画の段階から予想してましたけど、それでも八〇ページ――半年ぐらいの連載になるかなって程度でした。

鶴田　僕は一回目を描いて一〇〇枚くらいになる気はしました。

――で実際には一六二ページ、全一五回の連載(笑)。

鶴田　「エマノン」は、ずいぶん前からマンガにしたかったんですけど、それは諸々の作品に区切りをつけてから、まだまだ先のつもりだったんですよ。ところが「COMICリュウ」が本当に創刊されることになったので(笑)、急遽始めることになってしまって。

――ずっと本当だって言っていたじゃないですか。

鶴田　ぎりぎりまで信じてなかったんで(笑)、そのせいで準備期間不足の開始となって、出だしがいまひとつ集中できなかったのが心残りですね。自分でもどれくらい描くことになるのか、ペースが読めてなかった。最初の六ページまでは、三六ページ立てのつもりで描いてたんですけど、違うとわかったんでコマを差し込んで時間の流れを調節したんです。

■エマノンのイメージは?

梶尾　一番苦労したのはどのあたりでした?

鶴田　なかなか筆が進まないことかな(笑)。

――それは編集部のほうでも実感してました。そういえば、エマノンの顔が安定しないって言ってましたけど。

鶴田　それはいつものことなんで(笑)。でもエマノンはやっぱり掴みづらいところがありましたね。

――まあ永遠の命をもった存在ですからね。梶尾さんがエマノン・シリーズの第一話である「おもいでエマノン」を書いたのは一九七九年ですが、そのときのエマノンのイメージはどんな感じだったんですか?

梶尾　海風に吹かれた髪をはらう動作のイメージは強かったけど、具体的な顔はなかったと思います。あの頃はいつも次作は書かせてもらえないかもしれないと思って書いていたので、短篇一本で完結したつもりでした。だからここまで成長するキャラクターだとは欠片も思ってなかったんですよ。

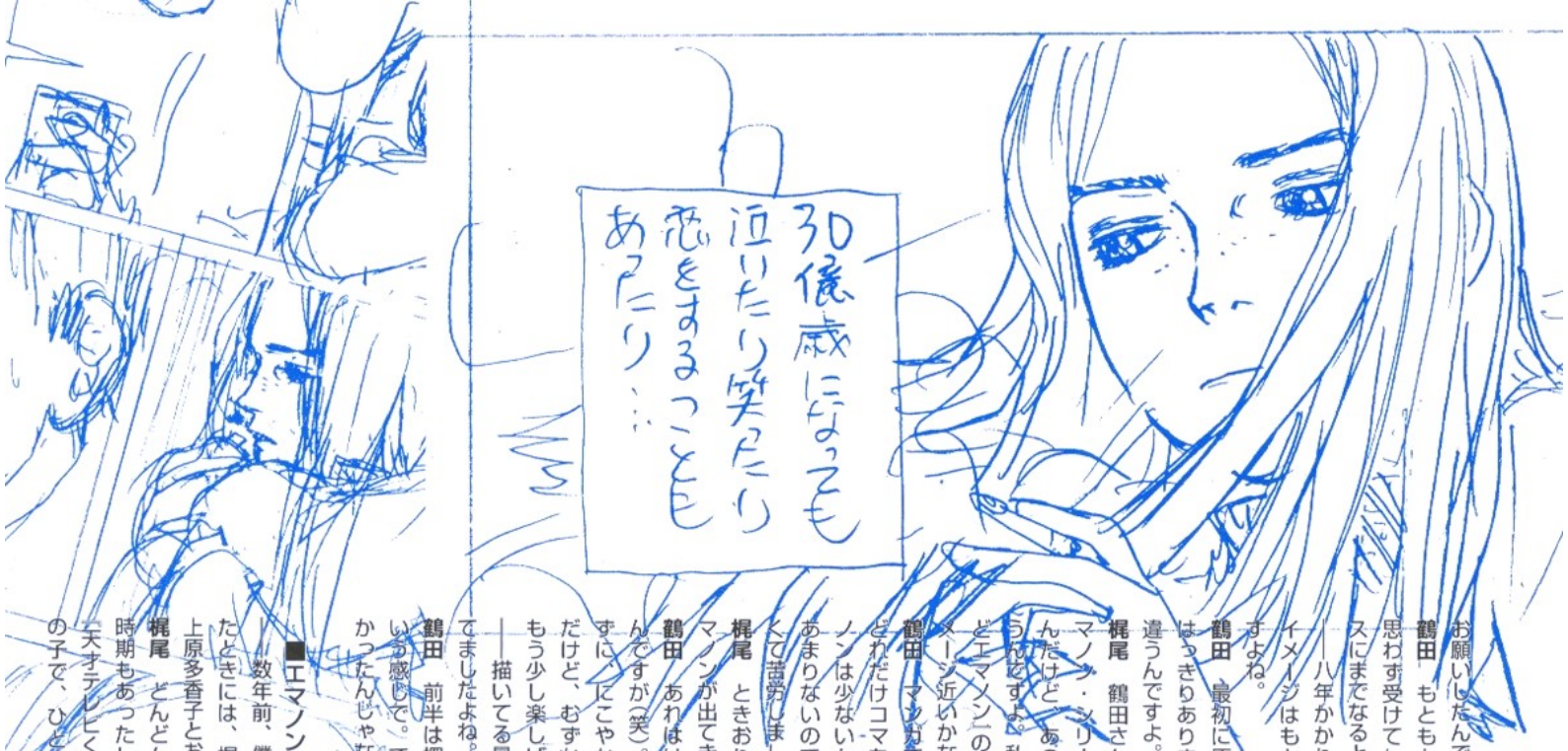
――それがシリーズになったのは?

梶尾　掲載誌だった「SFアドベンチャー」の編集者があの設定でもっと描いてみようよと言ってくれたんです。それがなかったら続きはなかったかもしれない。で、一九九二年に掲載誌が休刊になったのもあって今度こそ終わったものと思っていたのに、Oさんが「SF Japan」とデュアル文庫の編集長時代に、熱心にもう一度エマノン・シリーズをやろうと言ってくれたから。私は望まれればやりますから。

――日本SFのヒロインと言えば、梶尾さんのエマノンか、筒井康隆さんの火田七瀬(「家族八景」「七瀬ふたたび」「エディプスの恋人」)だと思うんですよ。

梶尾　ちょっと似たタイプかもしれないですね。全てを達観した、男にとっては理想の女性かもしれない。

――それで「SF Japan」0号に新作が載ることになったときに、鶴田さんにイラストを



お願いしたんです。

鶴田　もともと「エマノン」は大好きだったので、思わず受けてしまいましたね。それがコミックスにまでなるとは。

――八年かかりましたね(笑)。でもエマノンのイメージはもともと鶴田さんの中にあったんですよね。

鶴田　最初に原作を読んだ頃から、頭の中にはっきりありました。でも実際に描くとなにか違うんですよ。

梶尾　鶴田さんにはその後、デュアル文庫でエマノン・シリーズの表紙も描いていただいてるんだけど、あのエマノンの顔も各巻で微妙に違うんですよ。私のイメージには四巻目の『まろうどエマノン』の表紙が大人びた印象で一番僕のイメージ近いかな。

鶴田　マンガでも描いては違う、これも違うで、どれだけコマを描いても、これだと思えたエマノンは少ないんです。エマノンは感情の起伏があまりないので、表情のバリエーションも少なくて苦労しました。

梶尾　ときおり横目でじろっと見る三白眼のエマノンが出てきますよね。

鶴田　あれはけっこういい感じかなと思ってるんですが(笑)。ただ笑っているシーンを描かずに、にこやかなイメージを作ろうと思ったんだけど、むずかしかったですね。単行本化ではもう少し楽しげなコマを入れようと思ってます。

――描いてる最中に、心境が変わったって言ってましたよね。

鶴田　前半は探っていて、後半は試していたという感じで。でも本当はその中間がちょうど良かったんじゃないかと思うんですよ。

■エマノン三種の神器

――数年前、僕と鶴田さんで熊本をおたずねしたときには、梶尾さんはエマノンのイメージは上原多香子とおっしゃってましたけど。

梶尾　どんどん変わるんですよ。後藤久美子の時期もあったし、今井美樹の頃もあって。今は「天才テレビくん」に出ている小学生くらいの女の子で、ひとりイメージの合う子がいるので、このまま成長してくれればきっと(笑)と思ってるんですけど。

――なんだか光源氏みたいになってきましたね。鶴田さんは誰になります?

鶴田　梶芽衣子です(笑)。これは譲れません。もし実写でやるなら、タイムマシンに載せて梶芽衣子をつれてきてからと思ってます。最初に梶尾さんに会ったときに、誰のイメージか聞いたのも、梶芽衣子とその人の中間点をとればいいと思ったからなんだけど、でも梶尾さんがあげた名前とのギャップがあまりに大きくて、絵にはあまり反映されてないです。じつは扉絵のなかにはそのイメージで描いたものもあるんですが。

――コミックスを買って、ぜひお探しください。

鶴田　梶尾さんはさっき海風とおっしゃってましたけど、小説の中では一度も甲板に出てないんですよ。これはいけないと思ってマンガでは外に出しました。

梶尾　それはありがとうございます。エマノンの髪型って、難しくないですか?

鶴田　エマノンはもちろん美容院にも行かないし、鏡も見ないと思うんです。伸びて鬱陶しくなったら、タバコ屋でタバコを買うついでに鋏を借りて、その場で切ってしまうんですよ(笑)。だから一度前髪を流すような形にしてみたけど、違うと思ってやめました。

――あと、エマノンといえばタバコですが。

梶尾　タバコは木枯らし紋次郎の爪楊枝から来てるんです。

――たしかに言われれば同じ股旅ものかもしれません。

鶴田　タバコの銘柄はなんだったんですか?

梶尾　ショートピースです。

鶴田　両切りのタバコとあったのでそうかなと思ったんですが、ショートピースだと短くて絵になりにくいんですよ。だからフィルターは描かず、長さだけフィルター付きの長さにしたんです。市川崑監督が木枯らし紋次郎に長い爪楊枝を咥えさせたのと同じですね。

梶尾　あともうひとつ、必ずソバカスがある。

鶴田　僕はソバカス属性がないので、すぐ忘れちゃうんですよ。最初にカラーを描いたときも忘れちゃったし。

■扉絵コレクション

――コミックス版は再構成されるので扉絵がけっこう抜け落ちる可能性もあるんですよ。

梶尾　それはもったいない。入れられないんですか。

鶴田　でも掲載時のままつなげると、八ページごとに扉絵が入ってきて鬱陶しいですからね。(結局、巻末に「エマノンのさすらい」と題し、短篇風にまとめて収録された)

――梶尾さんはどの絵が好きですか。

梶尾　どれも好きですよ。第二回のタバコ吸ってる横顔も好きだし……。

鶴田　それが梶芽衣子のイメージで描いたやつですよ。

――せっかくの謎だったのに答えを……。

梶尾　なるほどねえ。ところで、あの水着は誰の趣味だったの。

――僕じゃない、はずです。

鶴田　あれは夏っぽいのを描いてくださいと言われたので。そのままストレートに。

――原作者的にはエマノンは黒ビキニで正しいんですか?

梶尾　いやなんでもOKですよ。私も読者として毎回楽しませていただいてました。襦袢姿の絵も欲しかったな。

――僕はちょっと『幻魔大戦』とか『バビル2世』みたいな(笑)、あの暗い海の中にエマノンが立っているやつが好きなんですけど、鶴田さんはあまり気に入ってないんですよね?

鶴田　思いついたときは「やった」と思ったんだけど、描いてみたら意外につまらなかった。

梶尾　最後で、子どもが描いたような絵を使ったでしょ。

鶴田　あれは実際に姪が描いたんですよ。

梶尾　何歳ですか?

鶴田　八歳かな。文庫の表紙を見せてこれを描いてって頼んだんです。下書きして、何度も描き直してたみたいです。

梶尾　最終回らしい扉絵ですよね。

鶴田　最後に子どものエマノンがさようならという最後のカットとオーバーラップするように描いたんですが。

――あの扉をもらったときは「あっ、鶴田さん、今回は本気で最後まで描く気なんだ」と思ったんですけど。

鶴田　終わりませんでしたね（笑）。

梶尾　エマノンじゃなくなっちゃったお母さんも色っぽくていいですね。

鶴田　あのコマ描いたときに、燃え尽きたと思いましたよ。ああ終わった、これでもう満足だと。でもあのエマノンじゃなくなっちゃった大人のエマノンとまだエマノンになったばかりの子供のエマノンの2ショットの方が上手く描けたというのは、何なんでしょうね。

■設定と取材

梶尾　そういえばあの子供のエマノンと出会う駅、定期券を見るとぜんぜん違う駅名が書いてあるんだけど熊本駅なんですね。今は改築されて別の駅になっていて、熊本出身のとり・みきさんが、なんで昔の駅を知ってるんだと驚いてましたよ。

鶴田　梶尾さんのところに最初に取材で行ったときには、まだ古い車庫も残っていたんですが、三枚しか写真をとってなくて。近場でイメージの近い駅を探して、いくつか合成して描いたんです。だから熊本駅と言いたくても言えなかったというのが実情で……。

――さんふらわあ号も取材しだかったんですけどね。

鶴田　もう航路が廃止になってて出来なかった。ですけど、調べてみたら物語の舞台である一九六七年には、さんふらわあ号はまだ就航してないんですよ。

梶尾　そうでしたか（笑）。あれは七三年頃に実際にさんふらわあ号に乗ったときに思いついた話なんで。まあ、SFですから（笑）。

■『第二部』今夏連載開始（のはず）！

――コミックスが刊行されたら、次はいよいよ第二部の連載スタートですが、タイトルは原作第二巻の「さすらいエマノン」の予定なんですが、話の骨子は第三巻の「かりそめエマノン」なんですよね。そもそも次は「かりそめ」で行こうと思ったのはどうしてなんですか？

鶴田　連載は毎回八ページとかになってしまっていたので、話がコマギレになっちゃうでしょ。それならいっそ、最初から短いページで行けるような話ならいいんじゃないかと思って。『かりそめエマノン』ならそういう構成でいけそうなんですよ。『おもいでエマノン』はエマノンが主人公の前を通りすぎる話だったけど、今度は逆で、エマノンの前を通りすぎていった人々の話にしようと思ってるんです。ただ「かりそめ」の忠実なマンガ化ではなく、他の短篇からも登場人物を借りてこようと思っています。

梶尾　原作の「かりそめエマノン」は登場人物も少ないし、兄の視点から語られるので、エマノン自体もあまり登場しませんからね。そうすると連作長篇みたいな形になるのかな。

鶴田　エマノンを一本の映画の脚本として描いたような、そういう作品にしたいと思ってます。原作をずいぶん変えてしまうことになるので、シノプシスがまとまったら、梶尾さんの許可をとらなくてはいけないかもしれない。

――かなり大胆に再構成するということ？

鶴田　まだ影も形もないのでなんとも言えないけど。年表も作ったし、各プロットの描き出しも決めたし、簡単なシノプシスとサブタイトルは壁に貼ってある。中身はまだオフレコです。

――第二部の連載を開始する前に、九州に取材にうかがうつもりでしたが、予定がたてられないまま終わってしまいました。

鶴田　エマノンが、子どもの頃に生き別れになった双子の兄と再会する久住だけは絶対に見ておかなきゃと思っているので。

梶尾　久住山系の坊がつるですね。私が車で案内しますよ。あの場面の坊がつるという場所は、大地がすり鉢状になっているんですよ。だからすり鉢全体を俯瞰できる場所と、そこの中にもご案内した方がいいかな。小説と同じ場所から登山しましょう。

――けっこう歩くんですか？

梶尾　2時間半くらいかな。

――登らないと駄目ですか。

梶尾　じゃないとあの五月のシーンは描けないでしょ。

――僕が行くと迷惑かける気がします（笑）。そういえば梶尾さんもエマノンの新作のための取材に出かけたいとおっしゃってましたが。

梶尾　ええ、マルチニク島というカリブ海の火山島なんです。二〇世紀の頭に火山が噴火し、一夜にして村が壊滅し、唯一、地下牢に入れられていた人間だけが助かったという島なんです。同時期にラフカディオ・ハーンとゴーギャンがこの島にいたらしいんですよ。

――そこにエマノンがやってくる。

梶尾　そうなんですが、日本人が観光で行く場所ではないので、行き難くてなかなか実現しないんです。逆に行った人もあまりいないので好き勝手に書けるという利点もあるんですが。

――のちのちマンガになるという前提でいっぱい写真撮っておいてくださいね。

梶尾　鶴田さん、第二部は毎回どれくらい描かれるんですか？

――一六ページはやりましょうよ。

鶴田　そういうつもりだけど、実際には八ページずつの二回で一話かな（笑）。

――で、当初は六月から連載開始という予定でしたが。

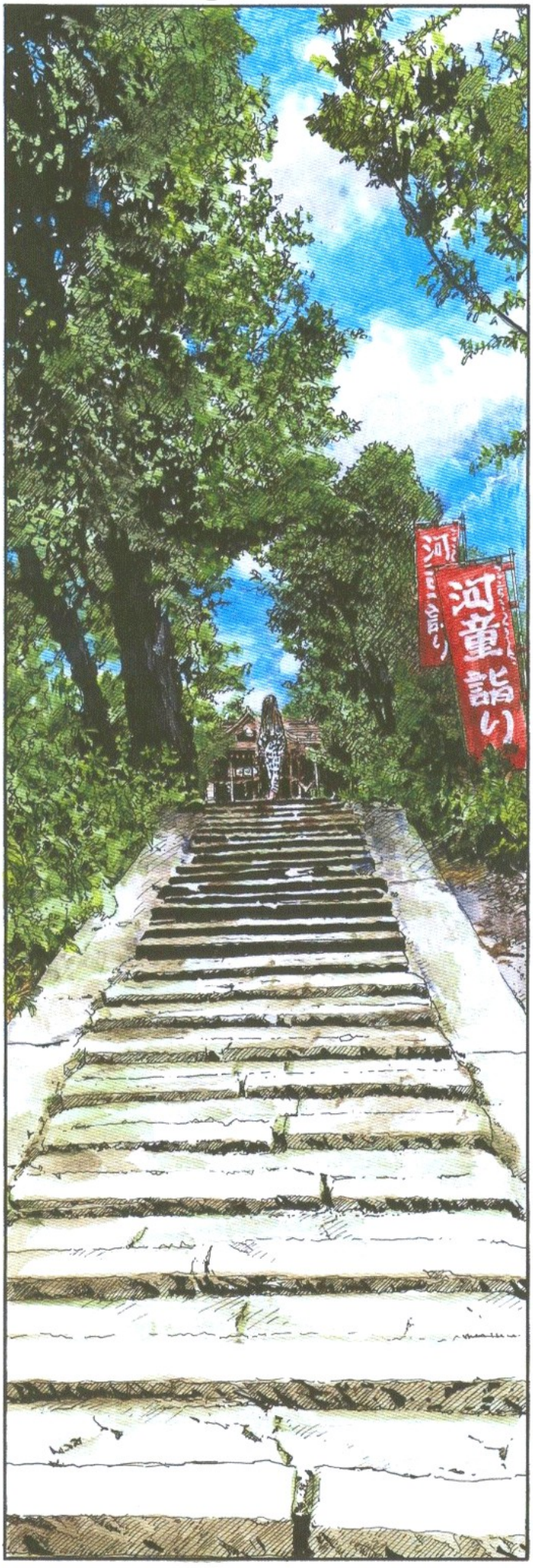
鶴田　それはどう考えても無理でしょうね。今度こそ準備不足にならないように（笑）。

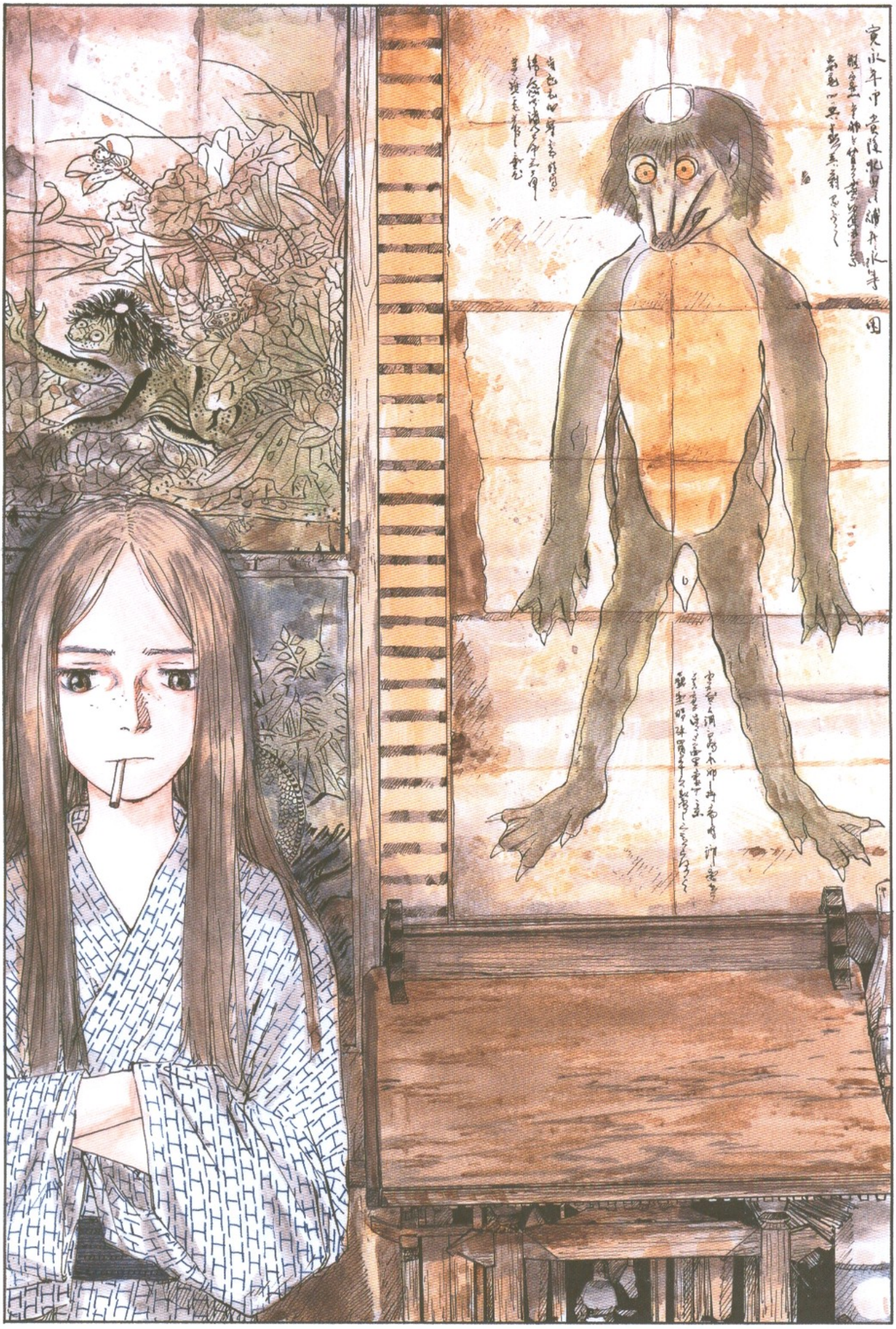
梶尾　私が生きているうちにひとつよろしくお願いします。

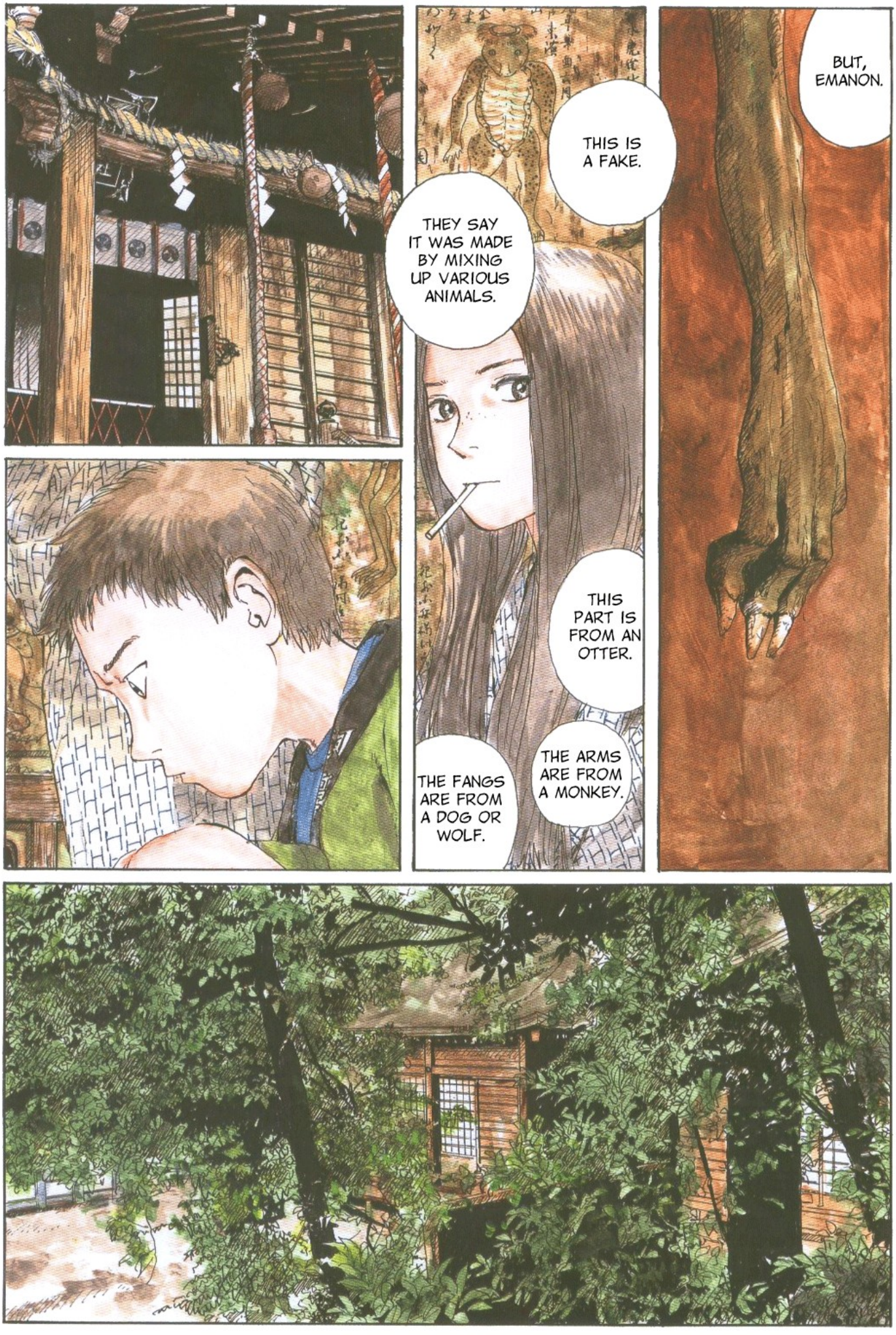
――とりあえず僕の心の目標は夏にスタートといったところでしょうか。梶尾さん、鶴田さん、これからもよろしくおねがいいたします。

その後、コミックスは無事発売。話題にもあがった『さすらいエマノン』が鶴田氏の決意もむなしく、一回八ページの隔月連載（ただしフルカラー！）となりました。それが本書にまとめました六四ページのEpisode.1です。この続きは、今のところ六月から再開を予定しております。さてこちらがコミックス化されるのはいつの日か？

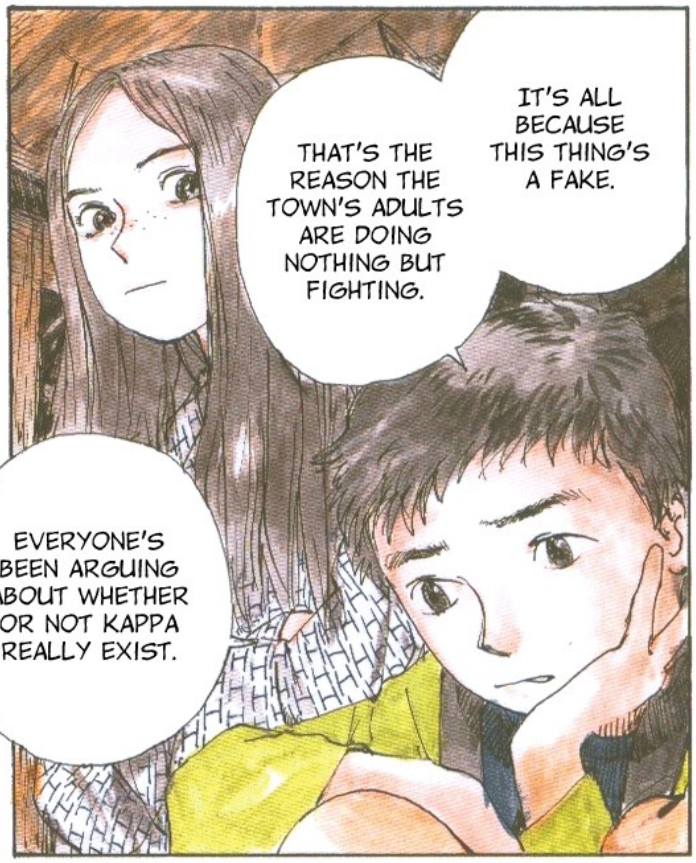
Wandering Emanon Ch. 5

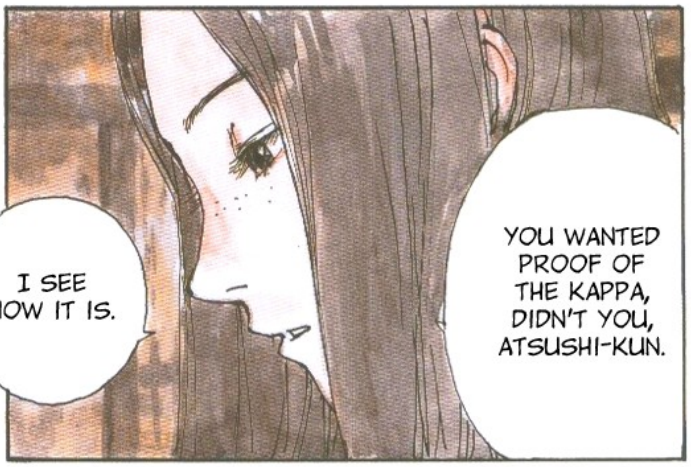




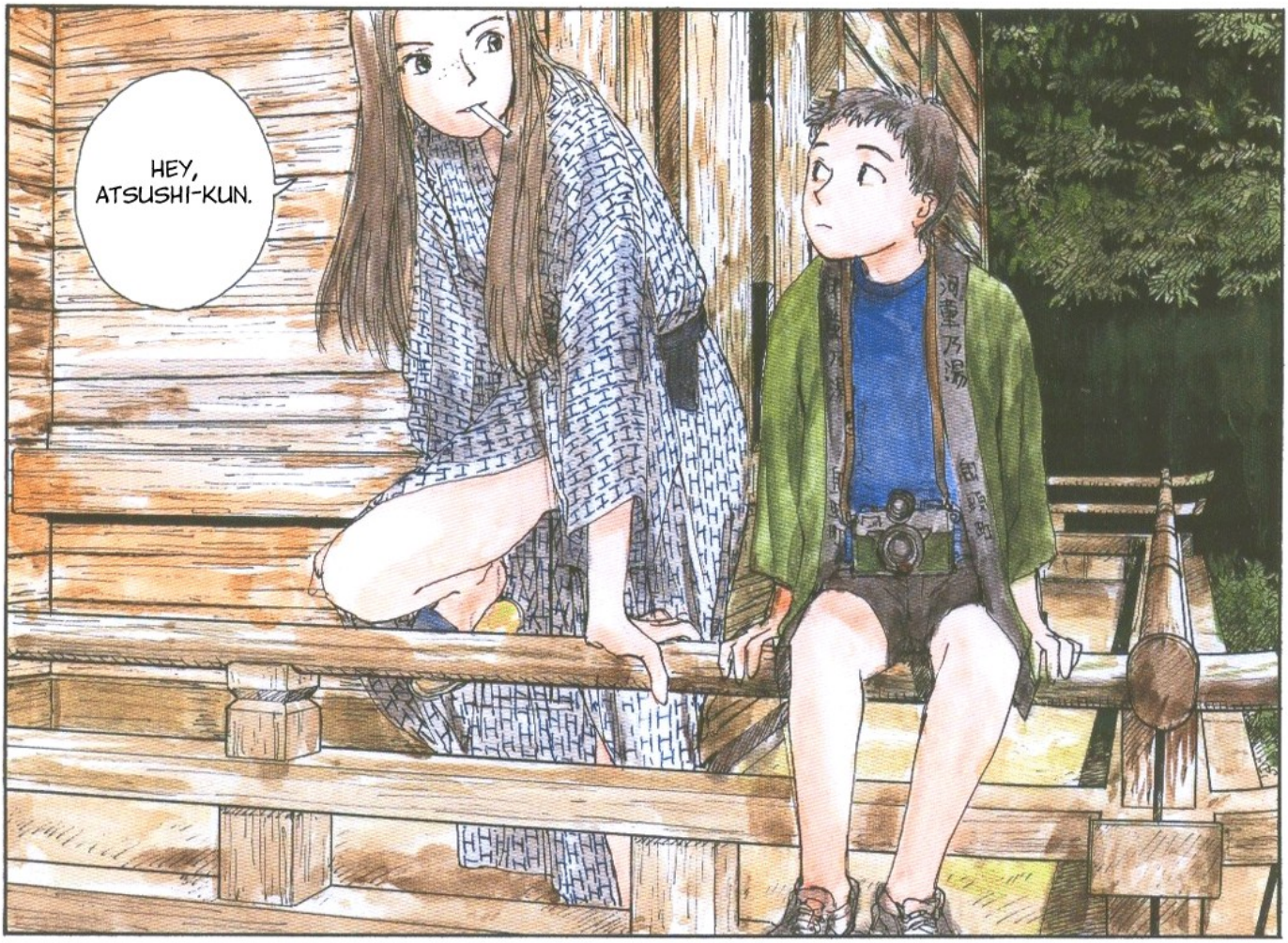

BUT, EMANON.
THIS IS A FAKE.
THEY SAY IT WAS MADE BY MIXING UP VARIOUS ANIMALS.
THIS PART IS FROM AN OTTER.
THE ARMS ARE FROM A MONKEY.
THE FANGS ARE FROM A DOG OR WOLF.

水虎
河童

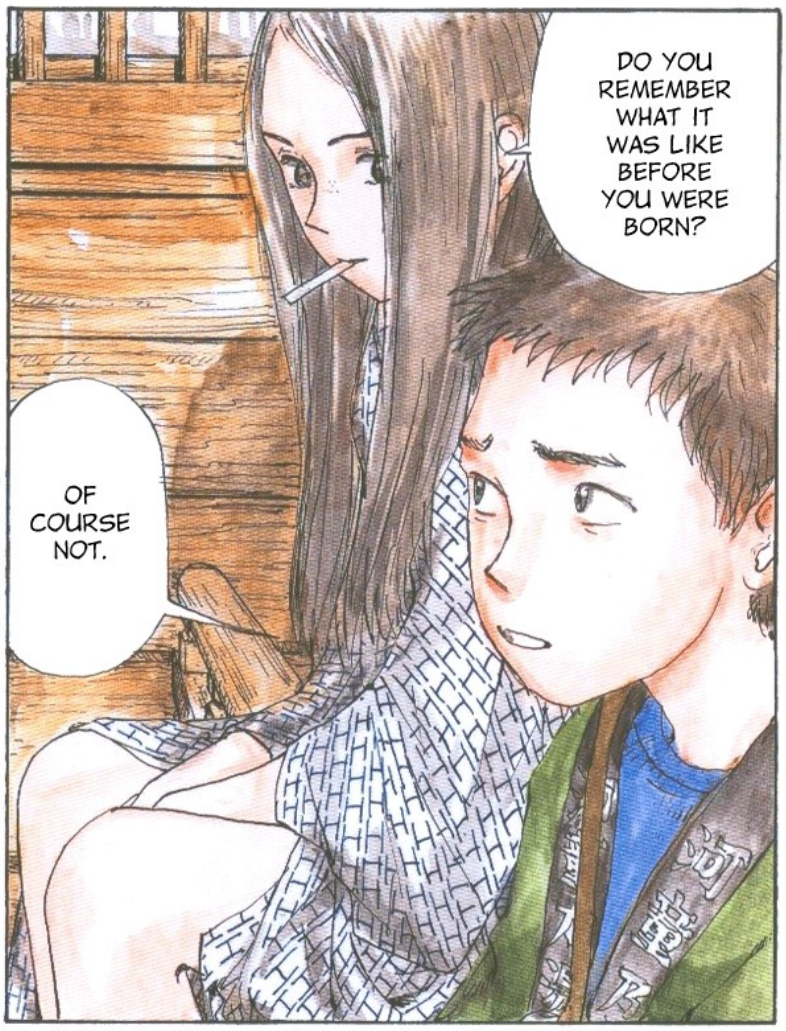

IT'S ALL BECAUSE THIS THING'S A FAKE.
THAT'S THE REASON THE TOWN'S ADULTS ARE DOING NOTHING BUT FIGHTING.
EVERYONE'S BEEN ARGUING ABOUT WHETHER OR NOT KAPPA REALLY EXIST.

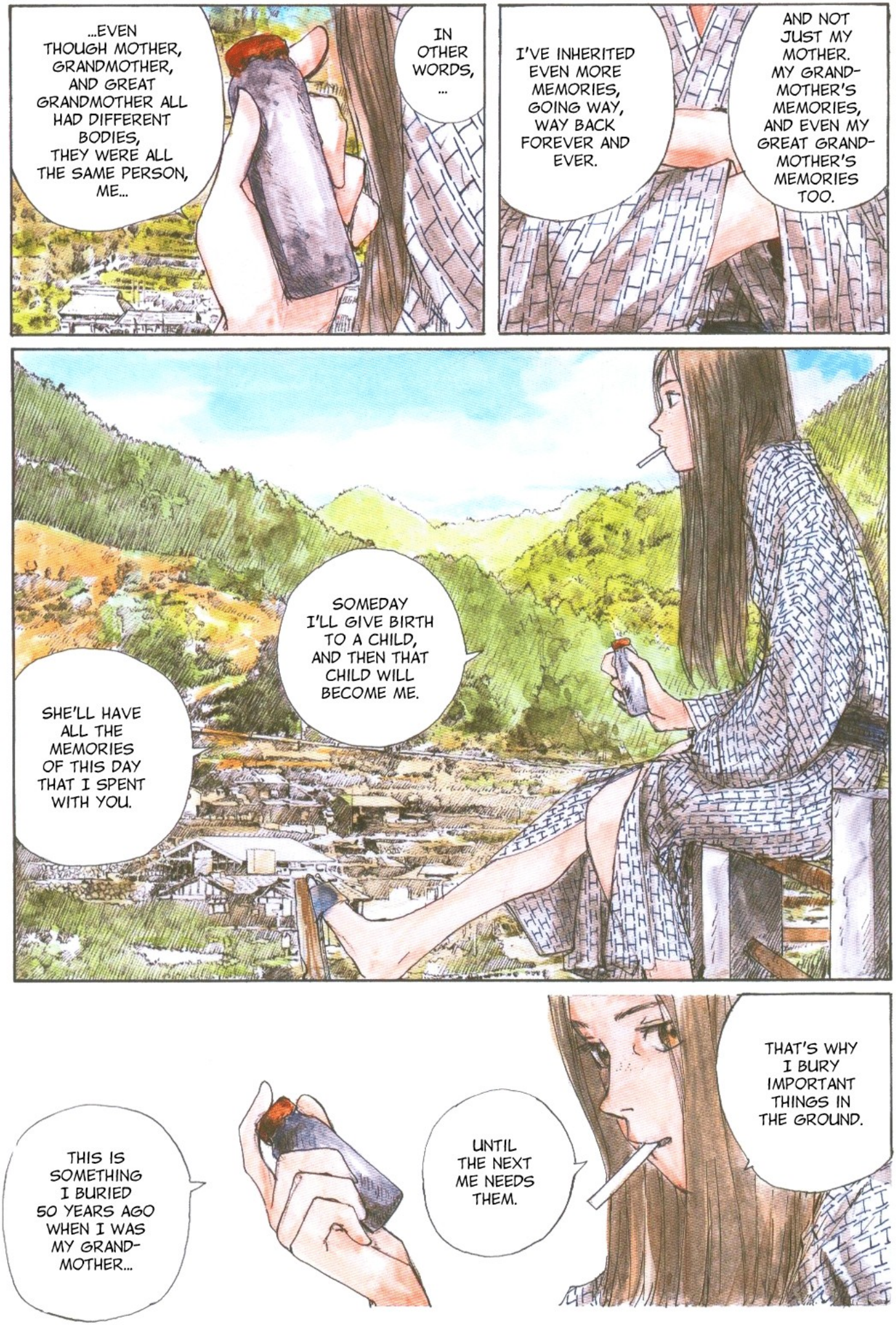

YOU WANTED PROOF OF THE KAPPA, DIDN'T YOU, ATSUSHI-KUN.
I SEE HOW IT IS.

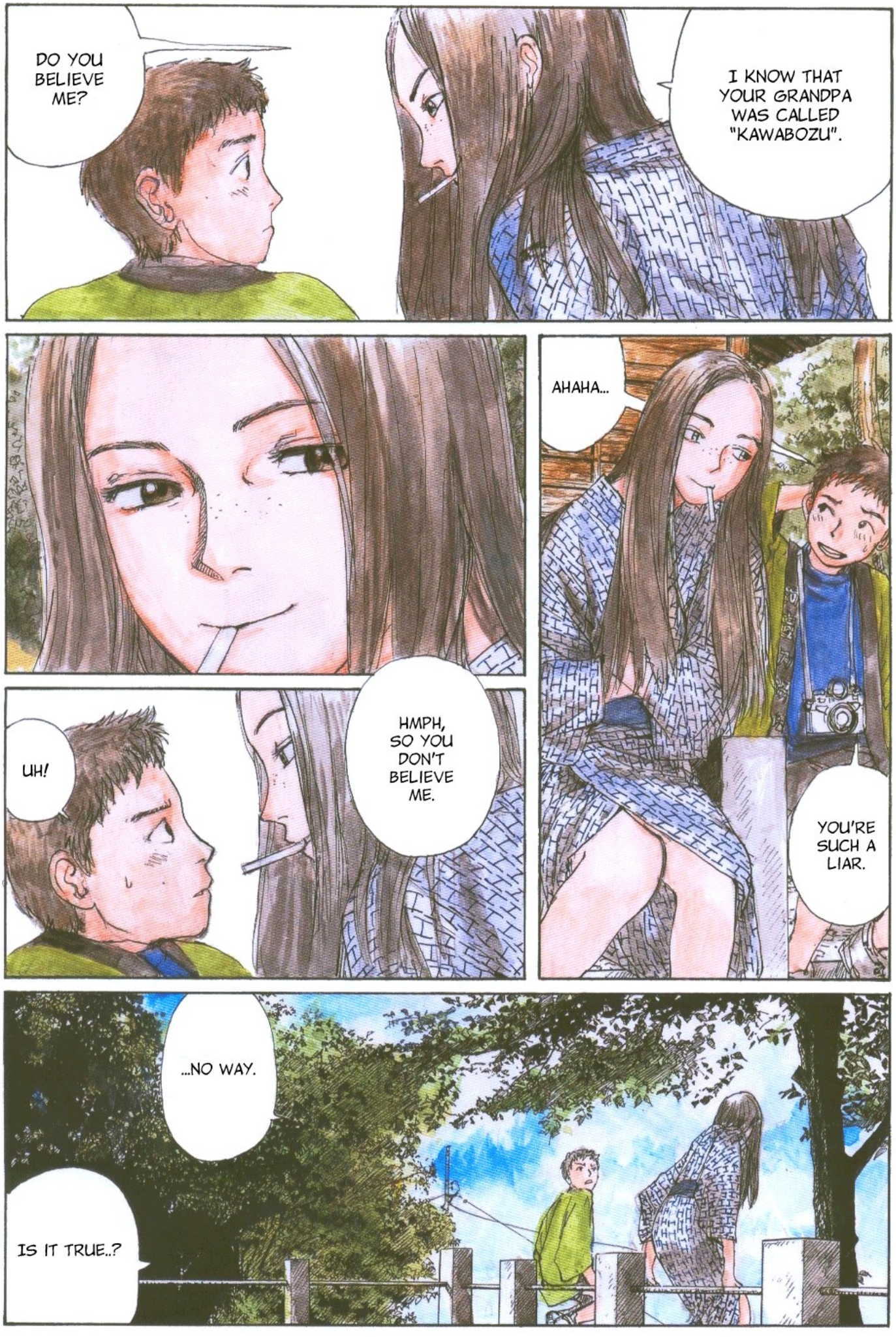
...BUT I'M NOT A KAPPA, I'M EMANON.
EMANON, YOU'RE HUMAN, AREN'T YA?

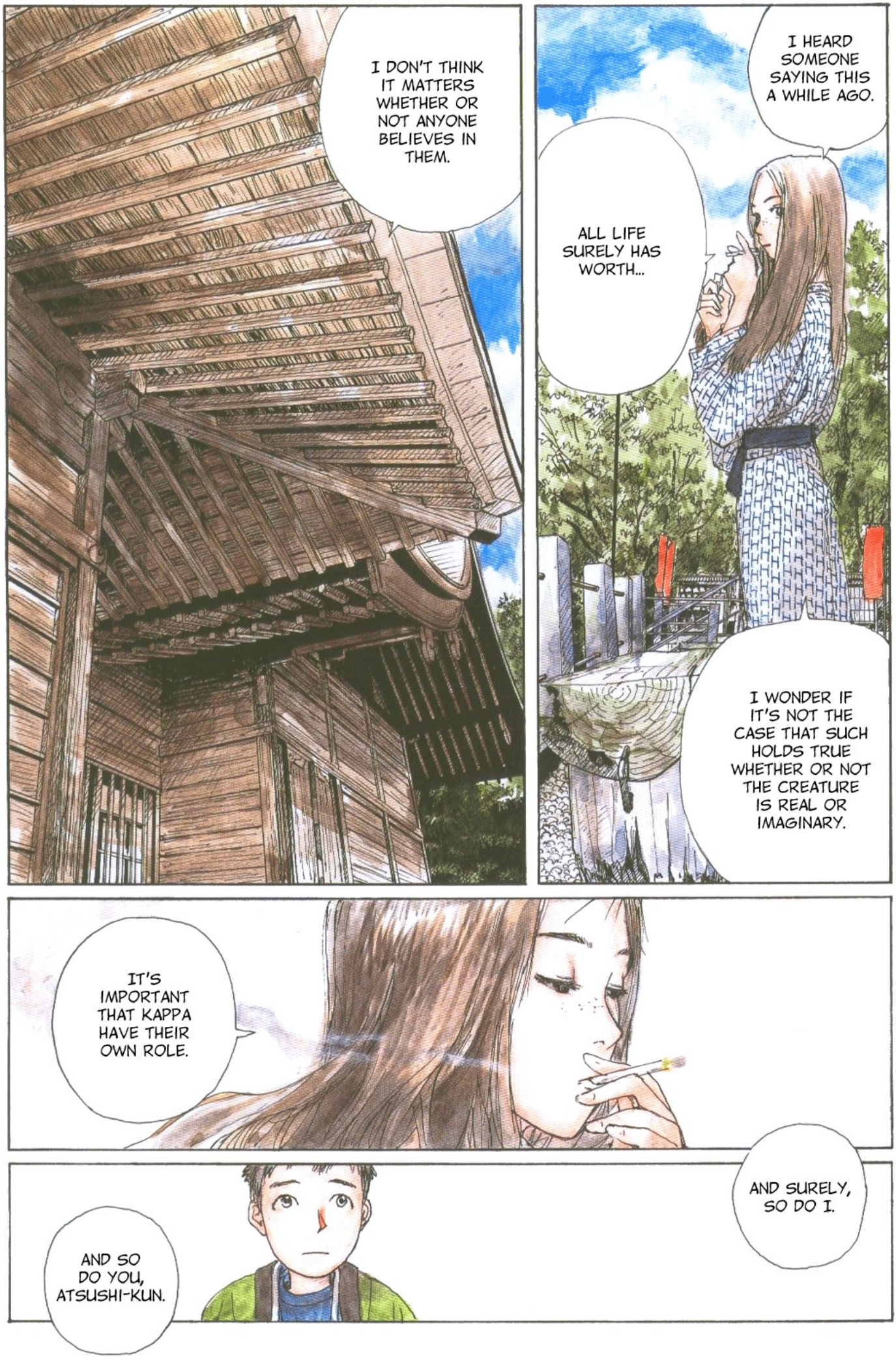

HEY, ATSUSHI-KUN.

I REMEMBER.
EVERYTHING MY MOTHER SAW, HEARD, OR TOUCHED, ETC.
ABSOLUTELY EVERYTHING.

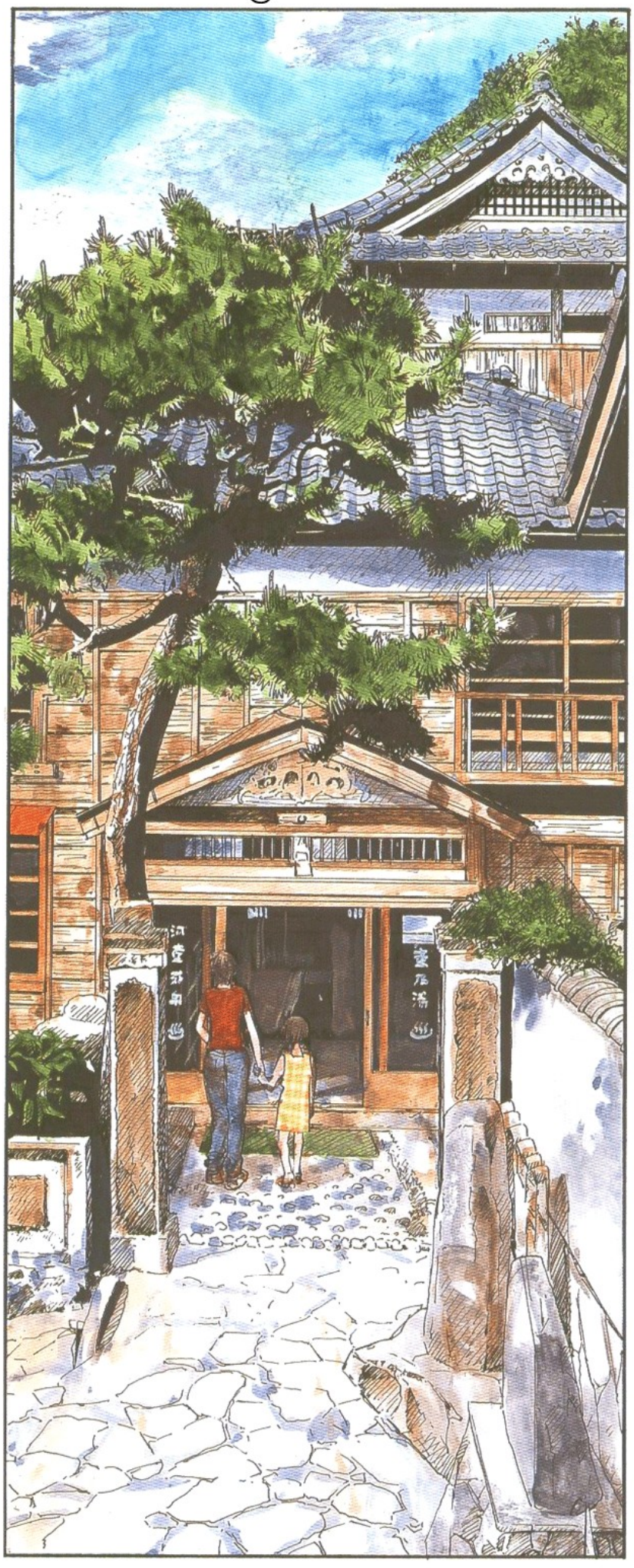

DO YOU REMEMBER WHAT IT WAS LIKE BEFORE YOU WERE BORN?
OF COURSE NOT.

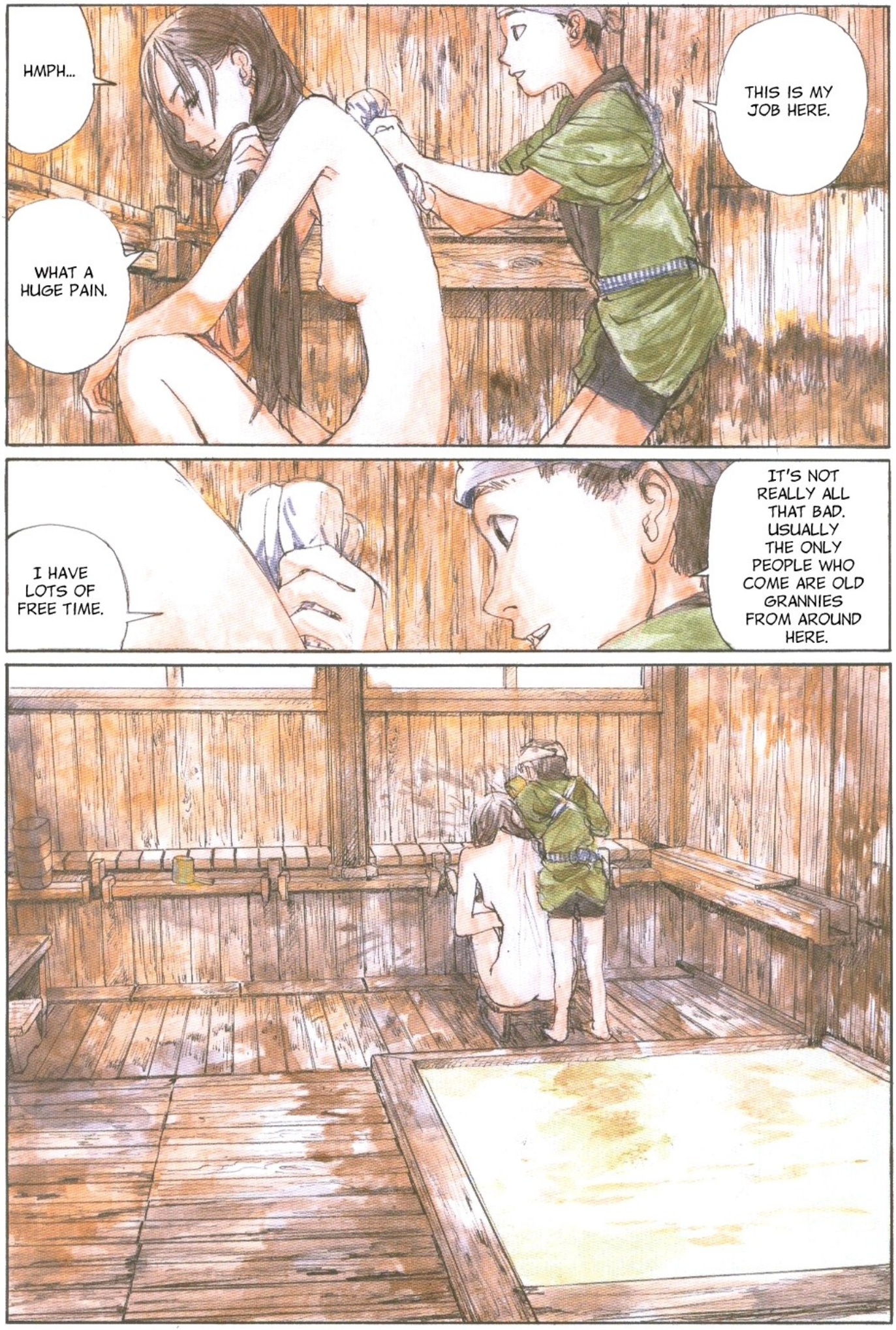

...EVEN THOUGH MOTHER, GRANDMOTHER, AND GREAT GRANDMOTHER ALL HAD DIFFERENT BODIES, THEY WERE ALL THE SAME PERSON, ME...
IN OTHER WORDS, ...
I'VE INHERITED EVEN MORE MEMORIES, GOING WAY, WAY BACK FOREVER AND EVER.
AND NOT JUST MY MOTHER. MY GRAND-MOTHER'S MEMORIES, AND EVEN MY GREAT GRAND-MOTHER'S MEMORIES TOO.
SHE'LL HAVE ALL THE MEMORIES OF THIS DAY THAT I SPENT WITH YOU.
SOMEDAY I'LL GIVE BIRTH TO A CHILD, AND THEN THAT CHILD WILL BECOME ME.
THIS IS SOMETHING I BURIED 50 YEARS AGO WHEN I WAS MY GRAND-MOTHER...
UNTIL THE NEXT ME NEEDS THEM.
THAT'S WHY I BURY IMPORTANT THINGS IN THE GROUND.

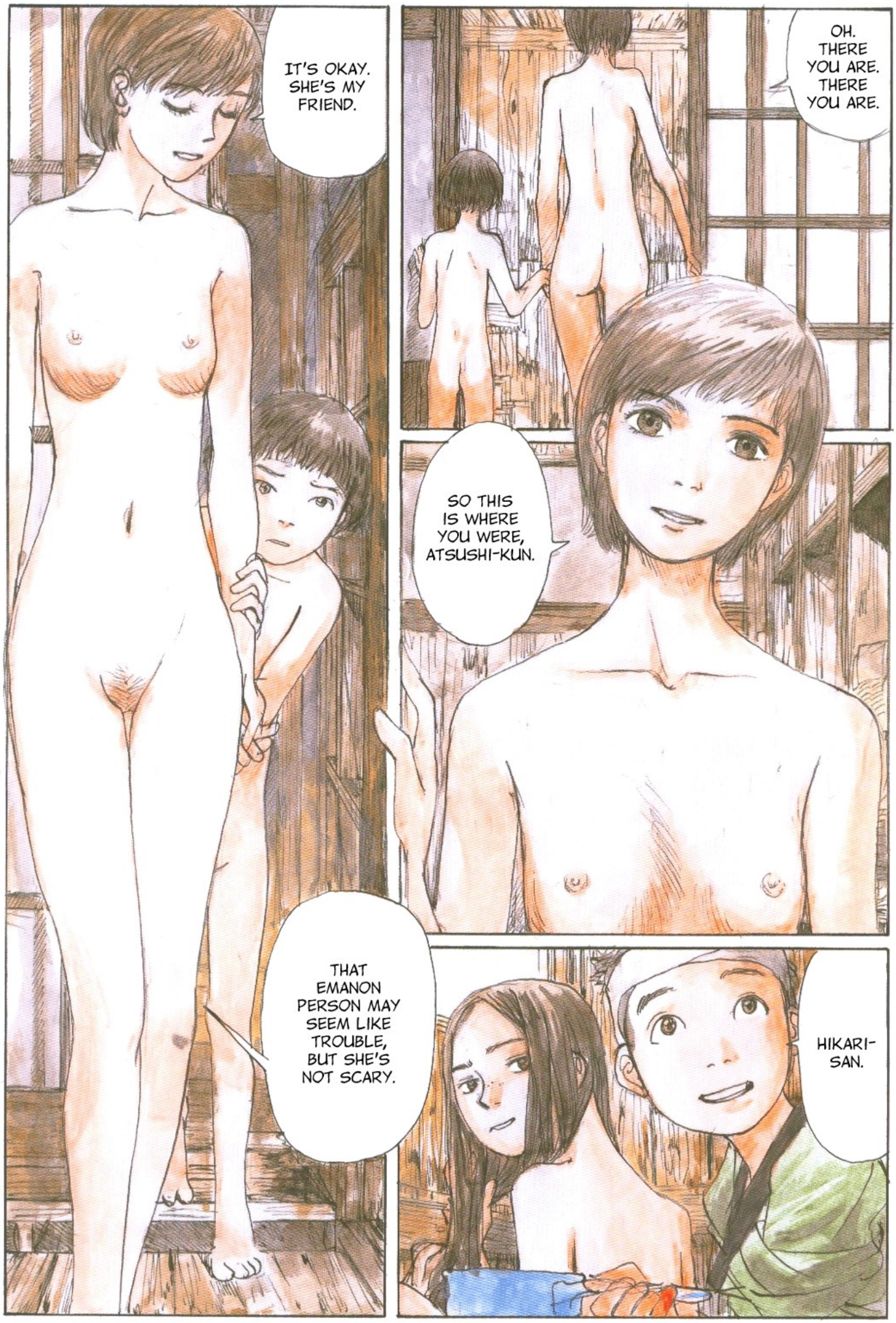

DO YOU BELIEVE ME?
I KNOW THAT YOUR GRANDPA WAS CALLED "KAWABOZU".
AHAHA...
YOU'RE SUCH A LIAR.
HMPH, SO YOU DON'T BELIEVE ME.
UH!
...NO WAY.
IS IT TRUE..?

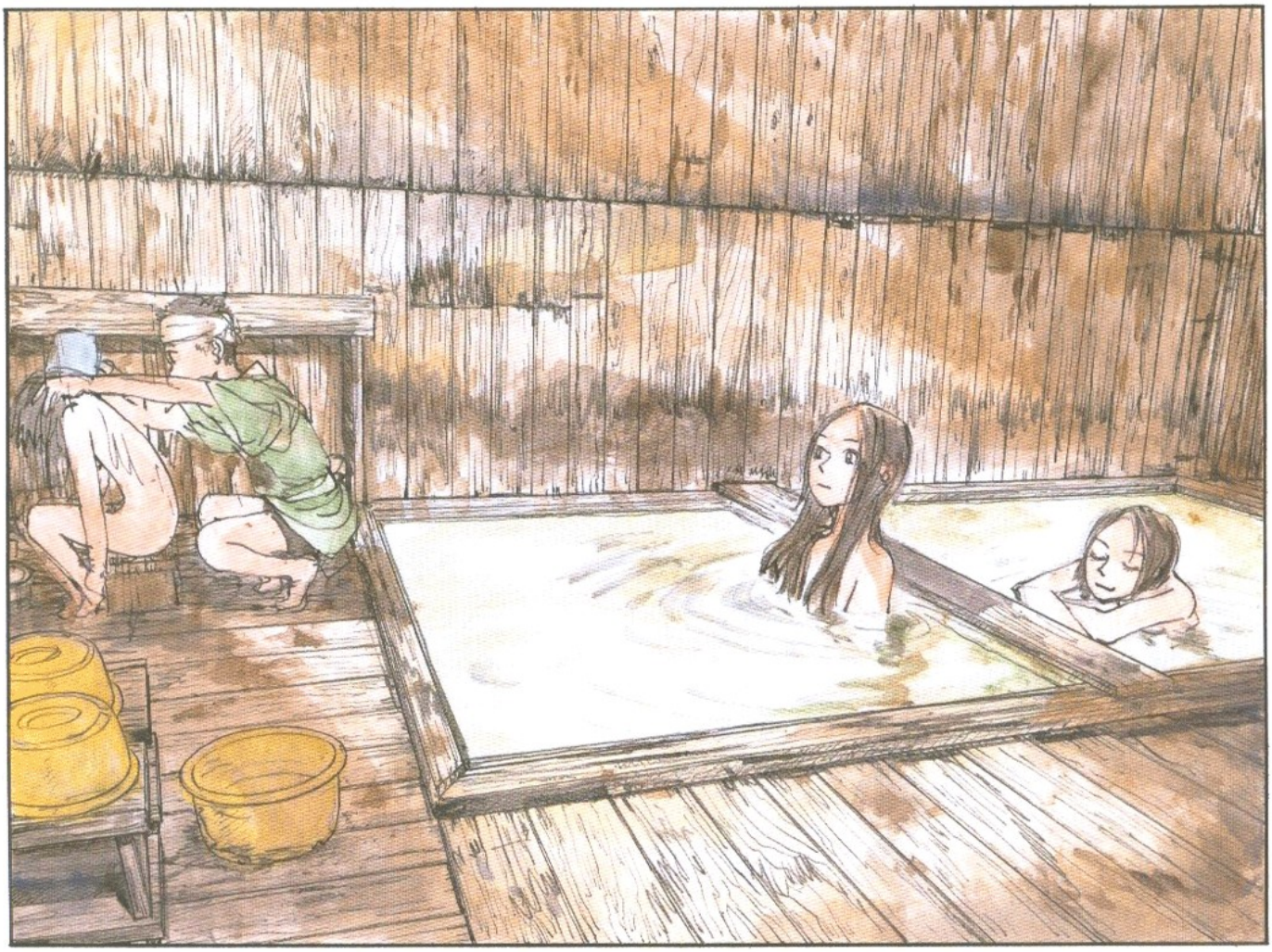

I DON'T THINK IT MATTERS WHETHER OR NOT ANYONE BELIEVES IN THEM.
I HEARD SOMEONE SAYING THIS A WHILE AGO.
ALL LIFE SURELY HAS WORTH...
I WONDER IF IT'S NOT THE CASE THAT SUCH HOLDS TRUE WHETHER OR NOT THE CREATURE IS REAL OR IMAGINARY.
IT'S IMPORTANT THAT KAPPA HAVE THEIR OWN ROLE.
AND SURELY, SO DO I.
AND SO DO YOU, ATSUSHI-KUN.

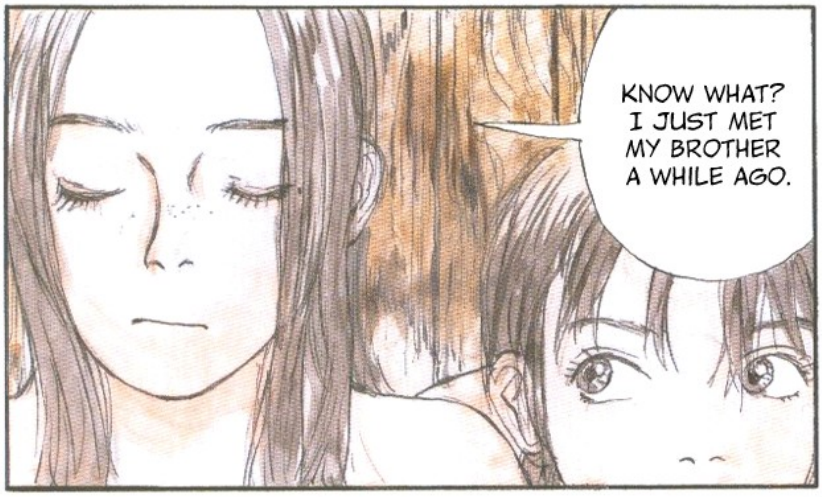
Wandering Emanon Ch. 6




HMPH...
WHAT A HUGE PAIN.
THIS IS MY JOB HERE.
I HAVE LOTS OF FREE TIME.
IT'S NOT REALLY ALL THAT BAD. USUALLY THE ONLY PEOPLE WHO COME ARE OLD GRANNIES FROM AROUND HERE.

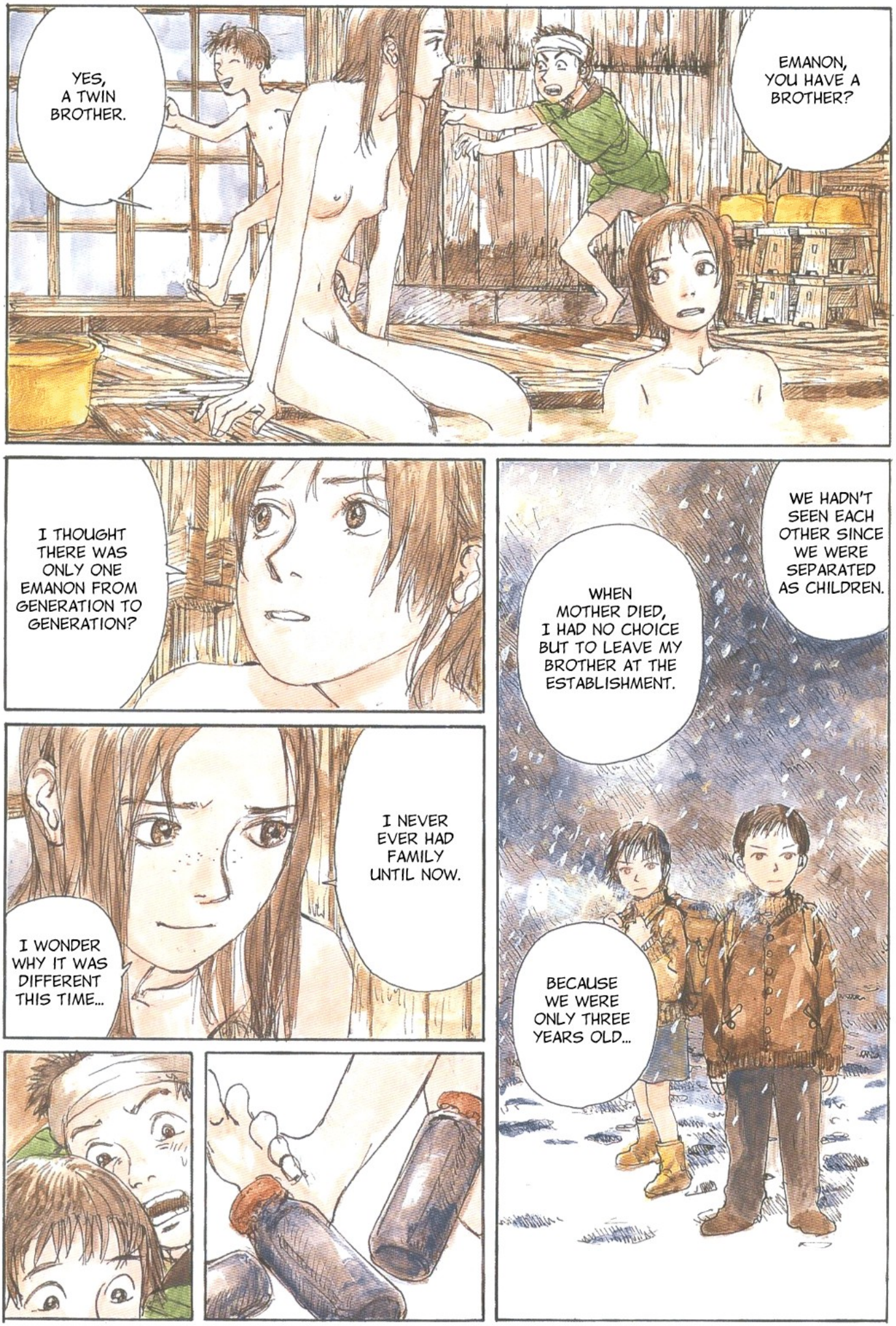

IT'S OKAY. SHE'S MY FRIEND.
OH. THERE YOU ARE. THERE YOU ARE.
SO THIS IS WHERE YOU WERE, ATSUSHI-KUN.
THAT EMANON PERSON MAY SEEM LIKE TROUBLE, BUT SHE'S NOT SCARY.
HIKARI-SAN.

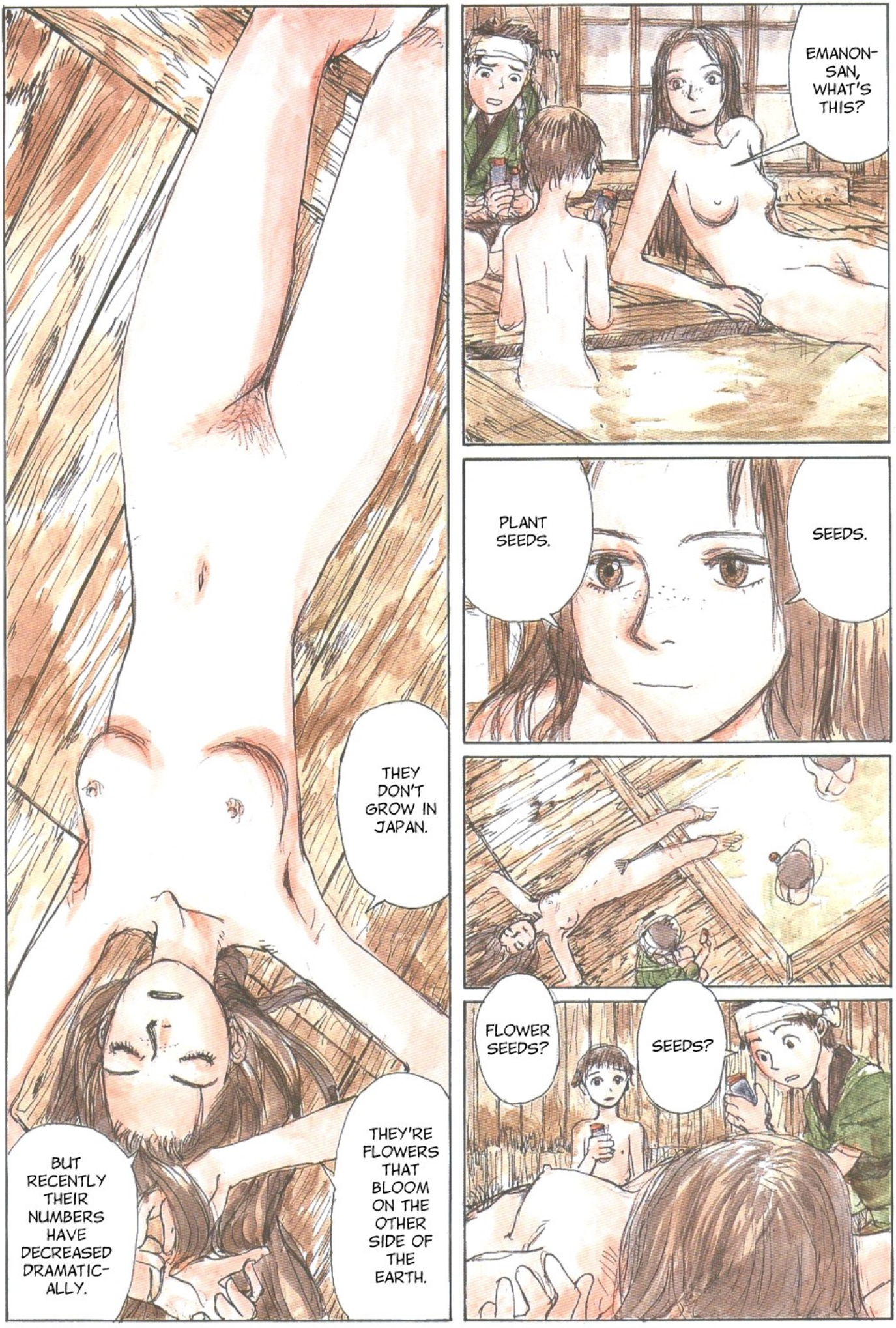


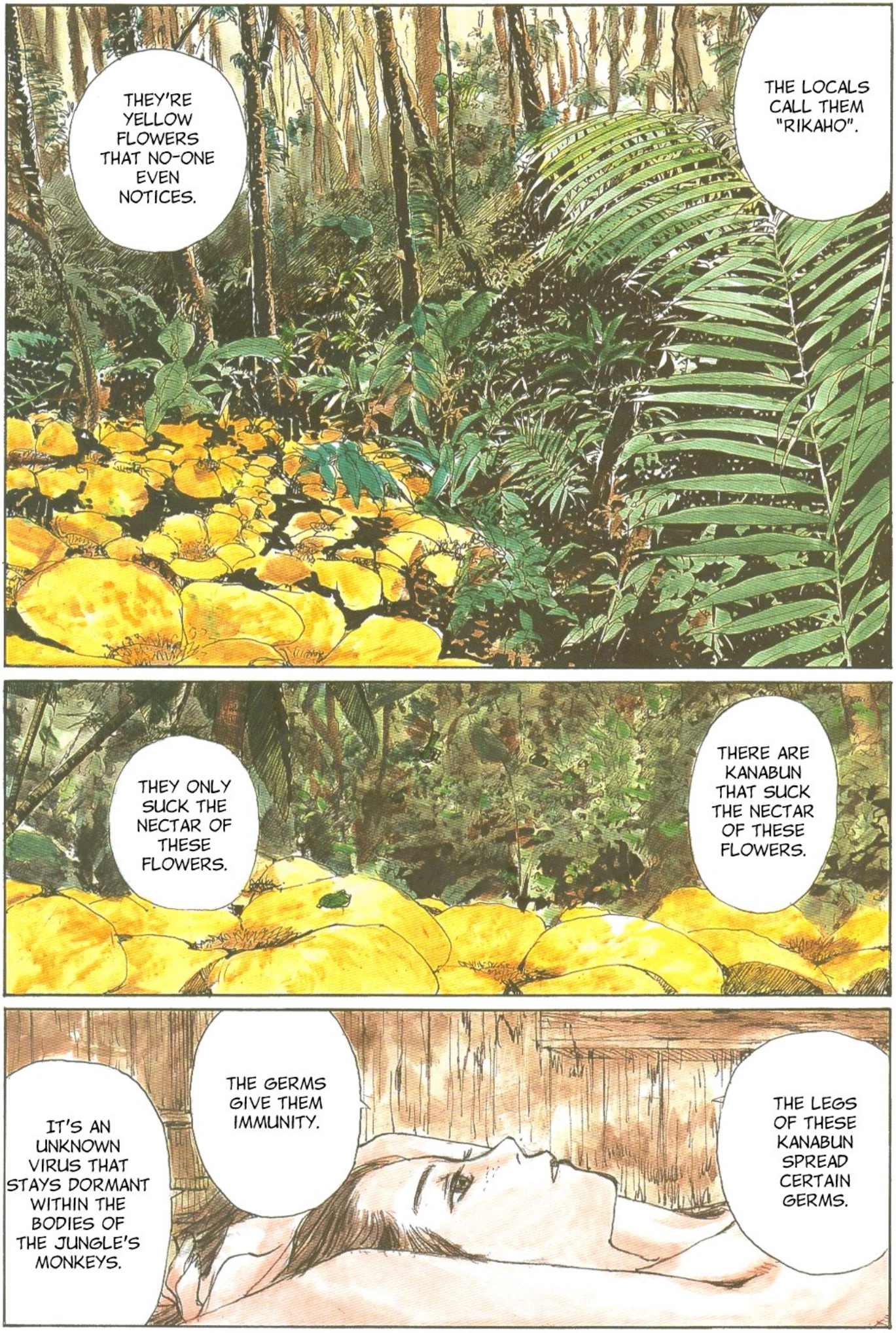

KNOW WHAT? I JUST MET MY BROTHER A WHILE AGO.

EH?

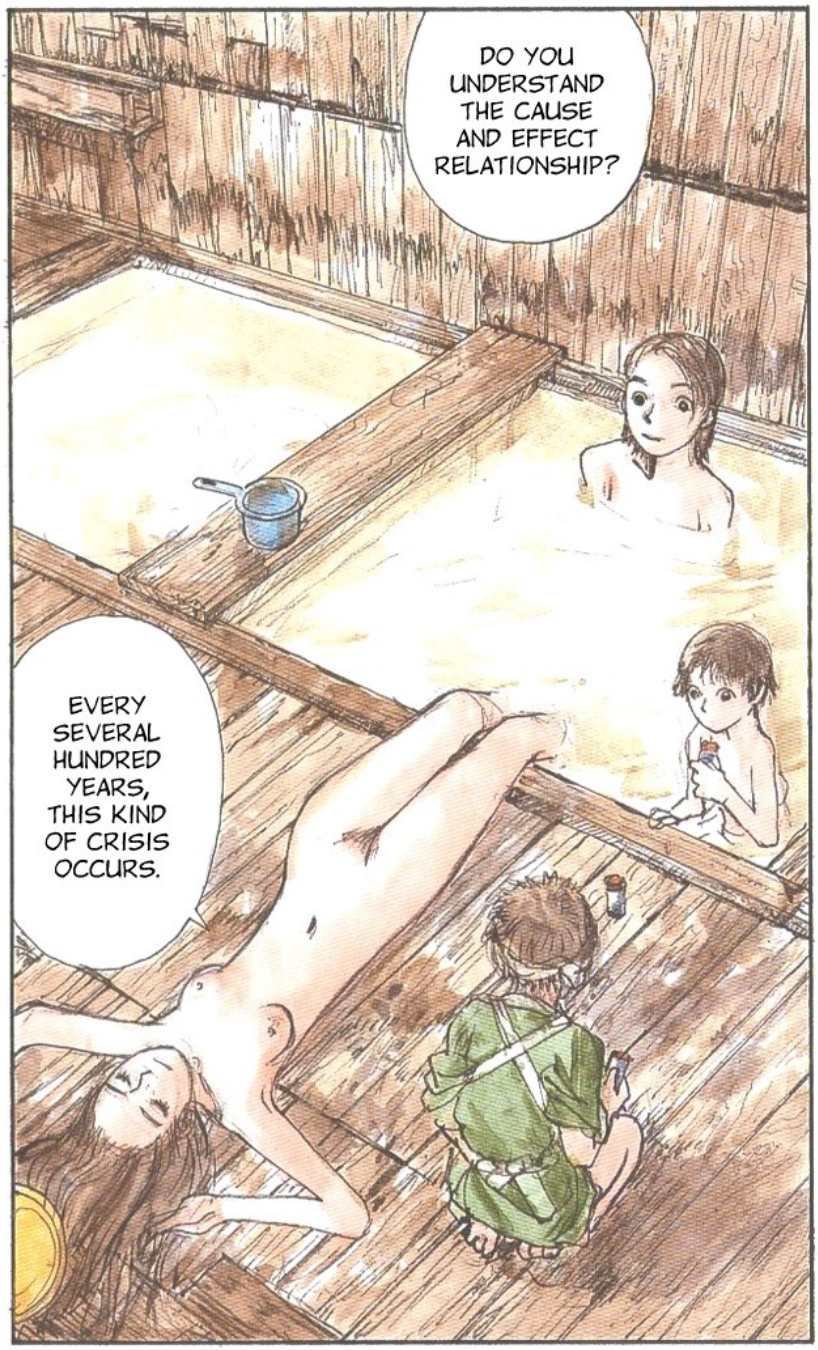
ARE THEY SIBLINGS... HOW NICE...

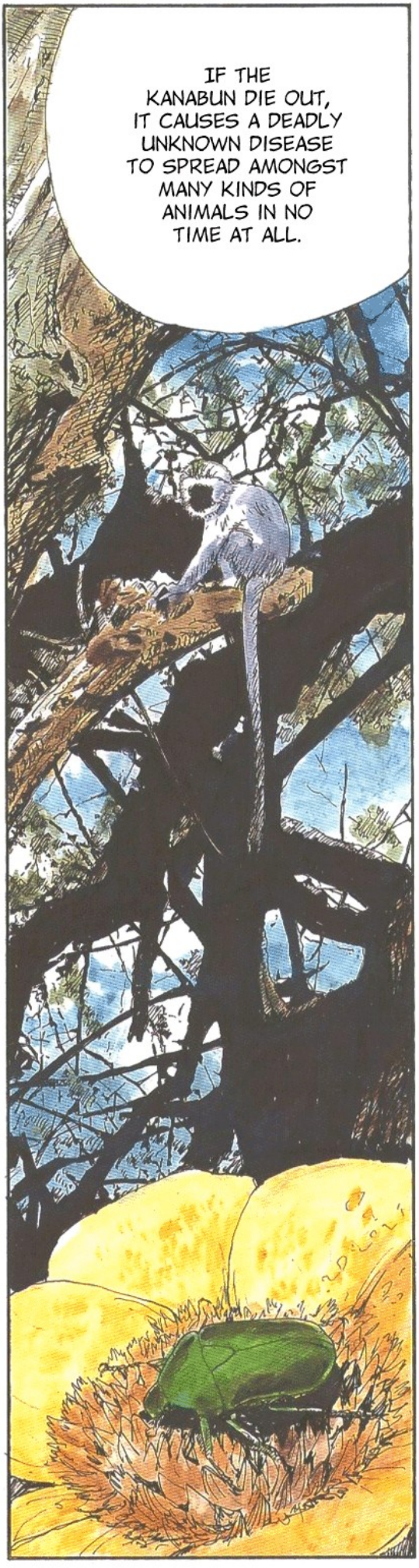

EMANON, YOU HAVE A BROTHER?
YES, A TWIN BROTHER.
WE HADN'T SEEN EACH OTHER SINCE WE WERE SEPARATED AS CHILDREN.
WHEN MOTHER DIED, I HAD NO CHOICE BUT TO LEAVE MY BROTHER AT THE ESTABLISHMENT.
BECAUSE WE WERE ONLY THREE YEARS OLD...
I THOUGHT THERE WAS ONLY ONE EMANON FROM GENERATION TO GENERATION?
I NEVER EVER HAD FAMILY UNTIL NOW.
I WONDER WHY IT WAS DIFFERENT THIS TIME...

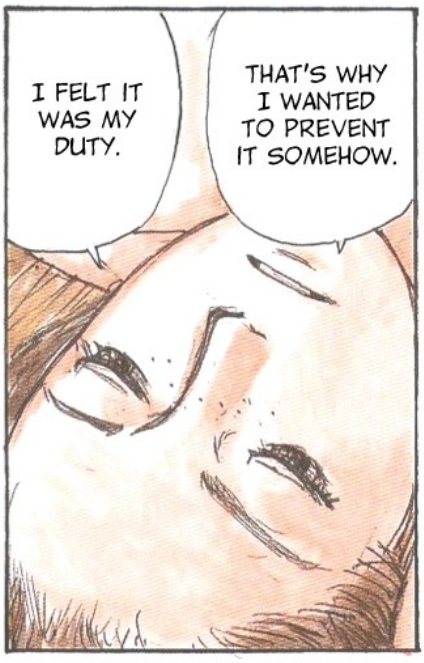

EMANON-SAN, WHAT'S THIS?
SEEDS.
PLANT SEEDS.
FLOWER SEEDS?
SEEDS?
THEY DON'T GROW IN JAPAN.
THEY'RE FLOWERS THAT BLOOM ON THE OTHER SIDE OF THE EARTH.
BUT RECENTLY THEIR NUMBERS HAVE DECREASED DRAMATIC-ALLY.



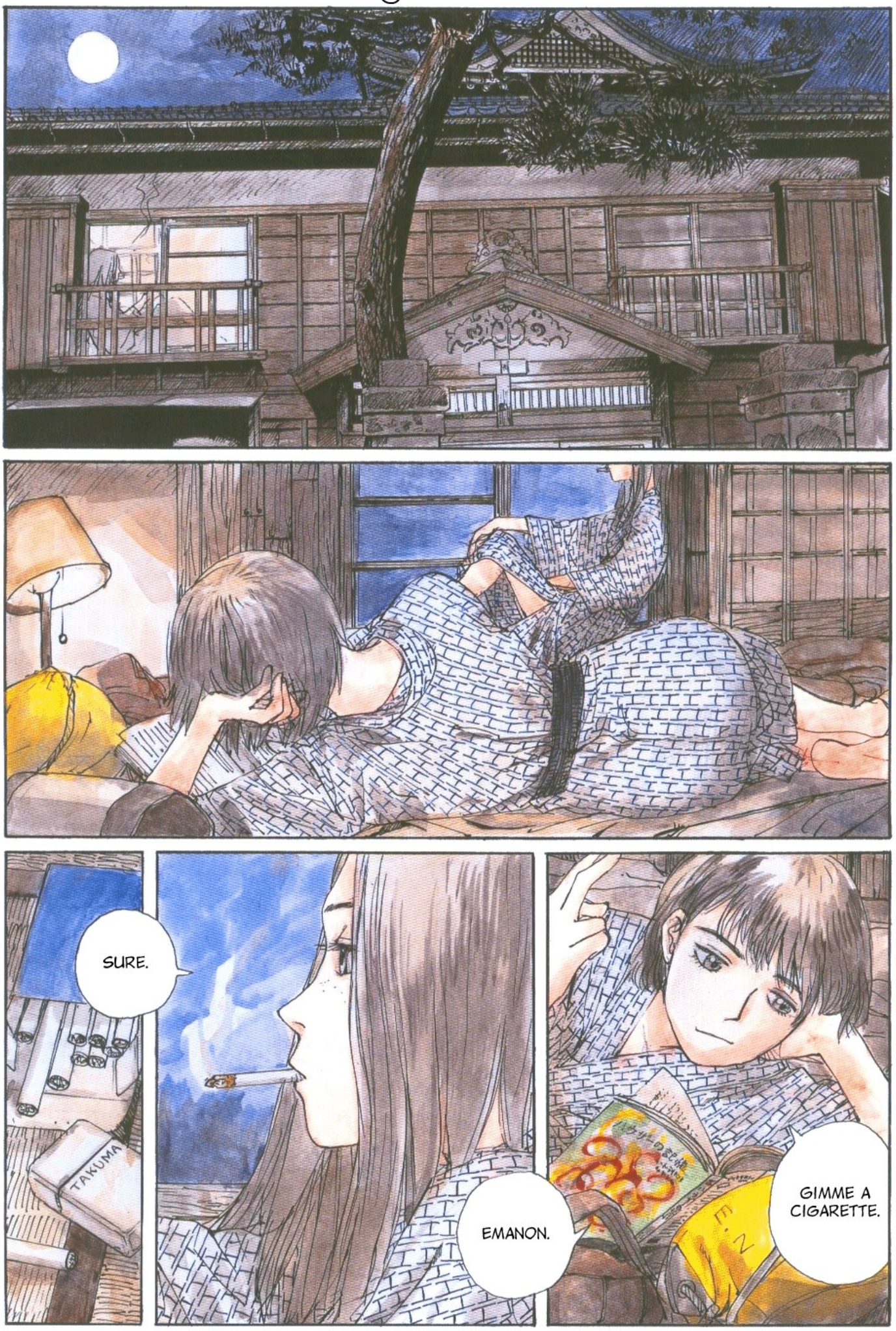
*KANABUN: A TYPE OF JAPANESE BEETLE.

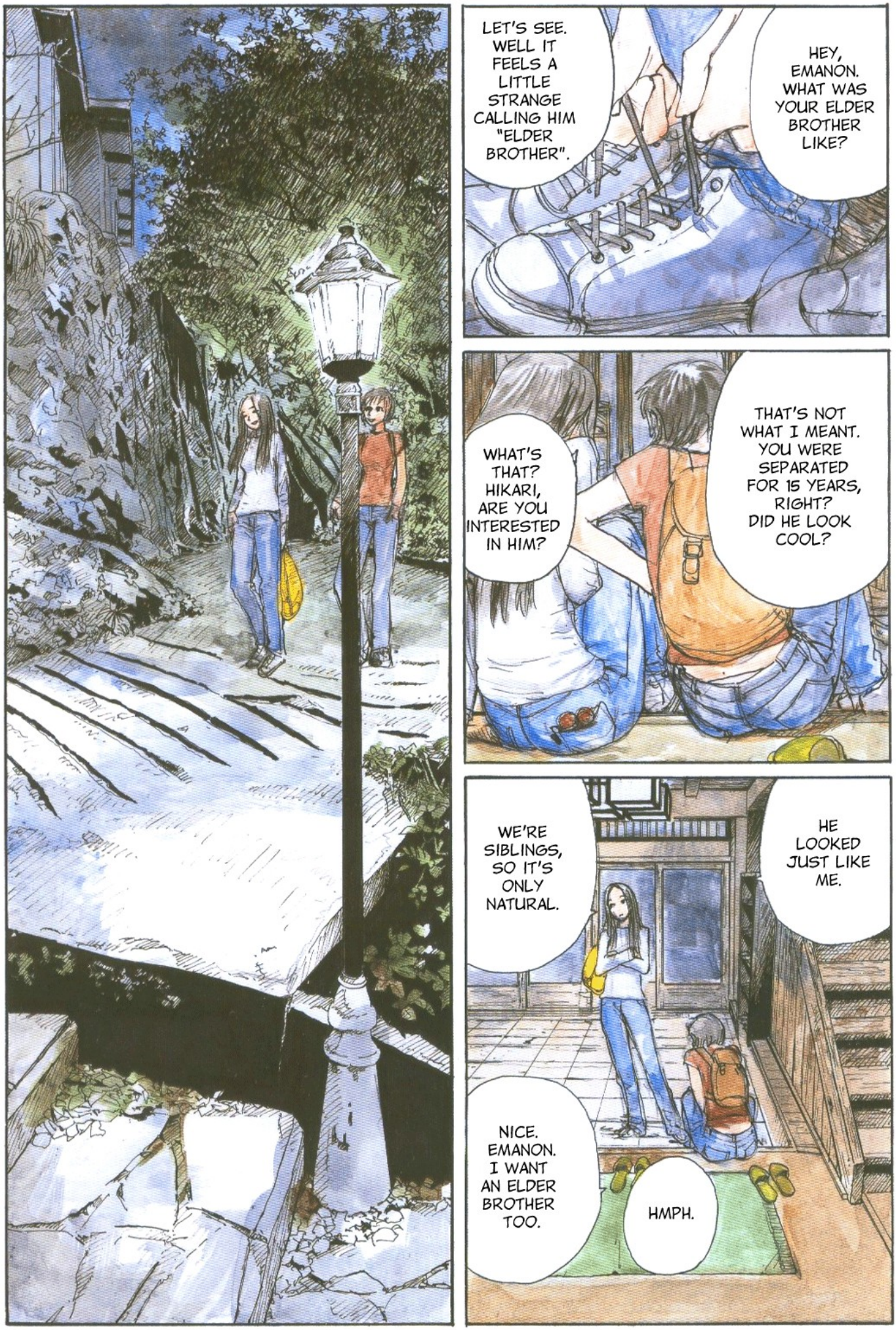

DO YOU UNDERSTAND THE CAUSE AND EFFECT RELATIONSHIP?
EVERY SEVERAL HUNDRED YEARS, THIS KIND OF CRISIS OCCURS.

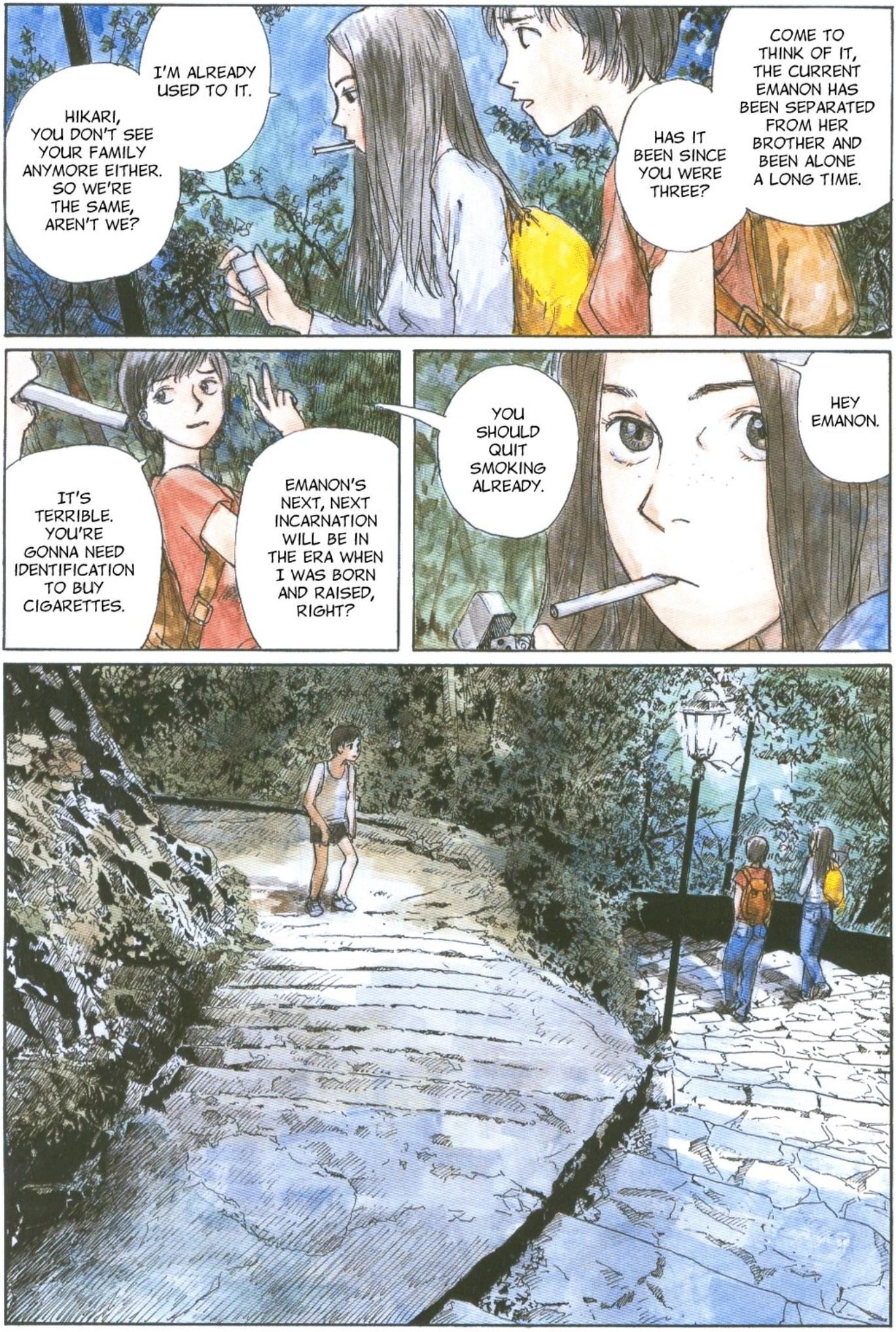

IF THE KANABUN DIE OUT, IT CAUSES A DEADLY UNKNOWN DISEASE TO SPREAD AMONGST MANY KINDS OF ANIMALS IN NO TIME AT ALL.

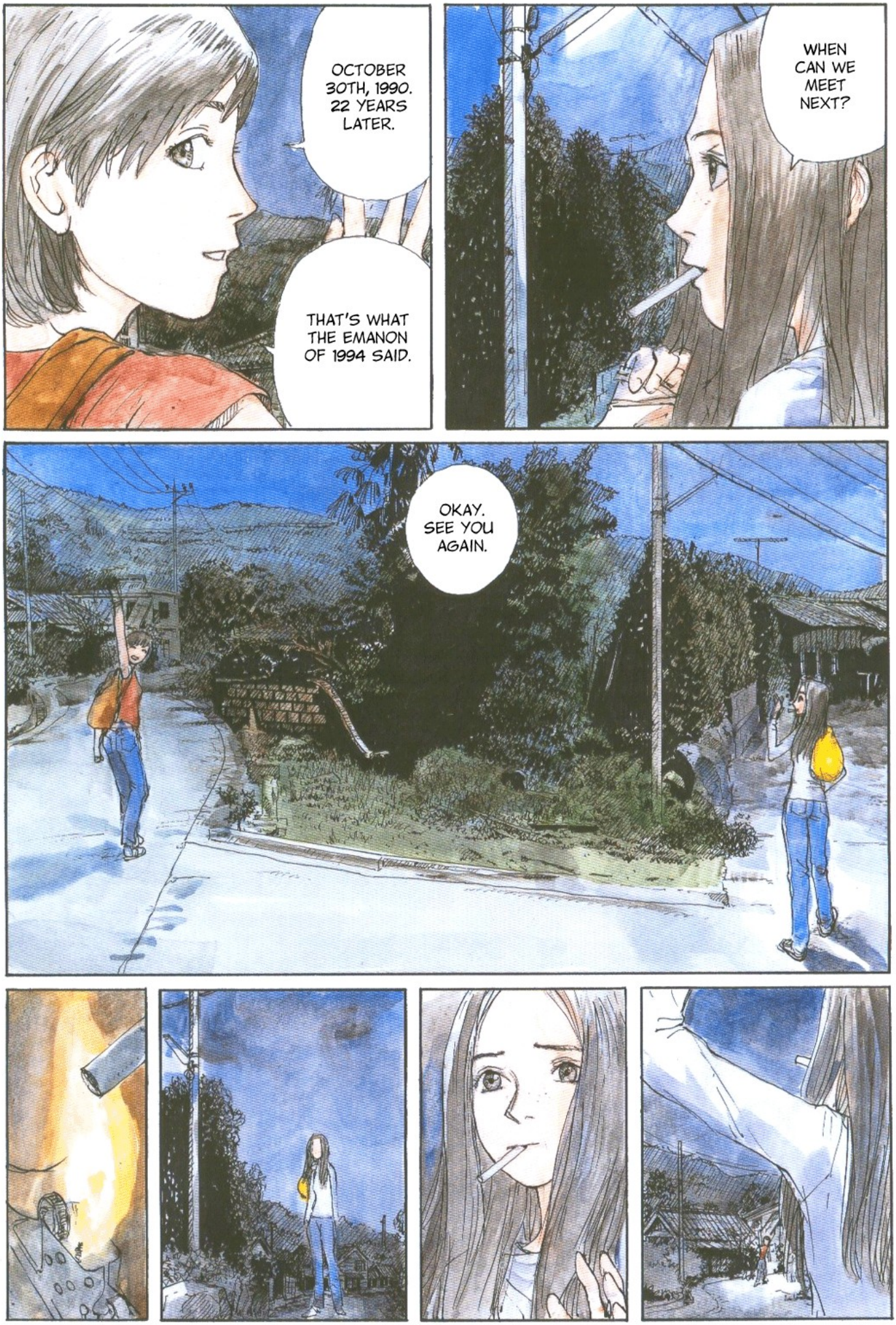

I FELT IT WAS MY DUTY.
THAT'S WHY I WANTED TO PREVENT IT SOMEHOW.

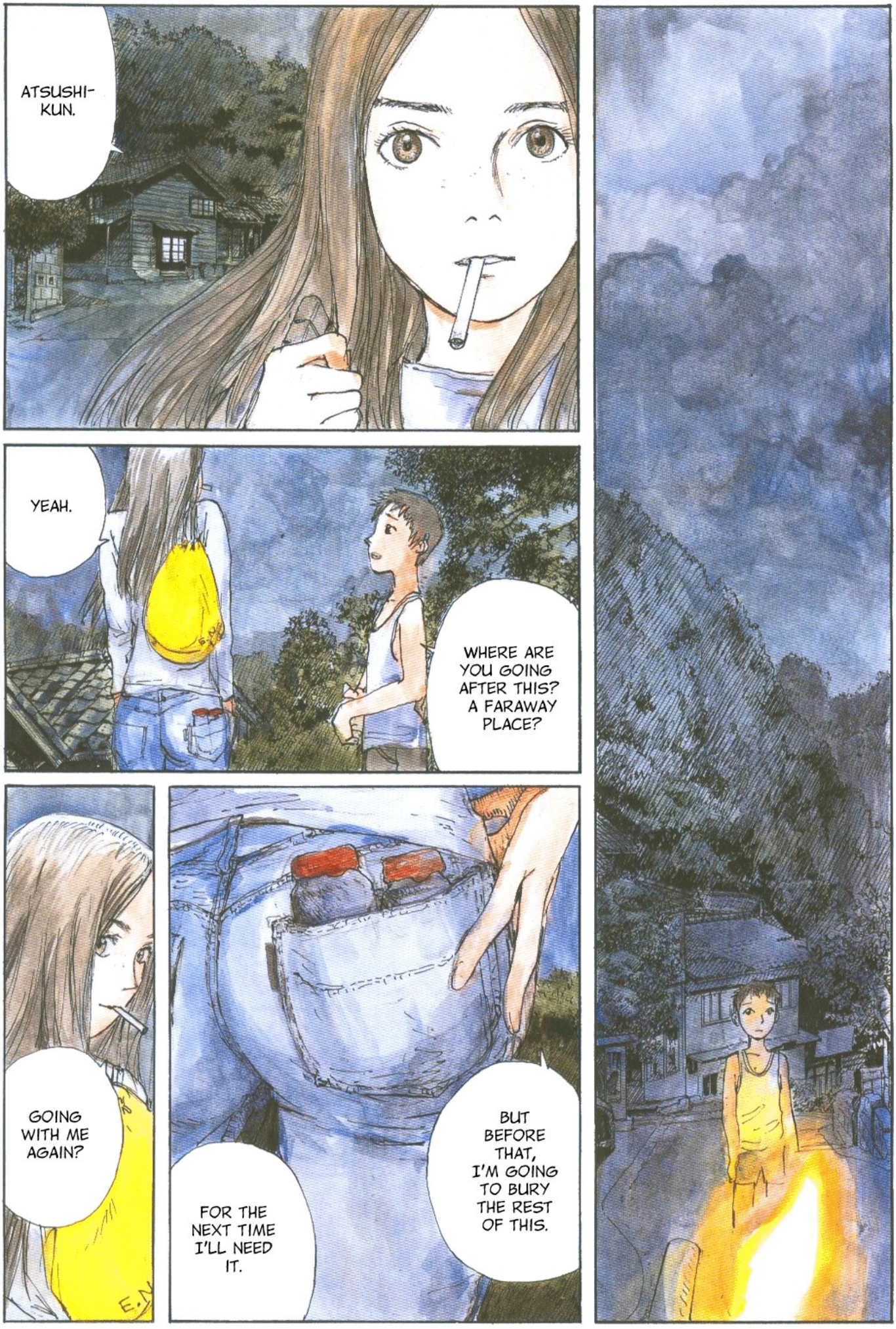
Wandering Emanon Ch. 7

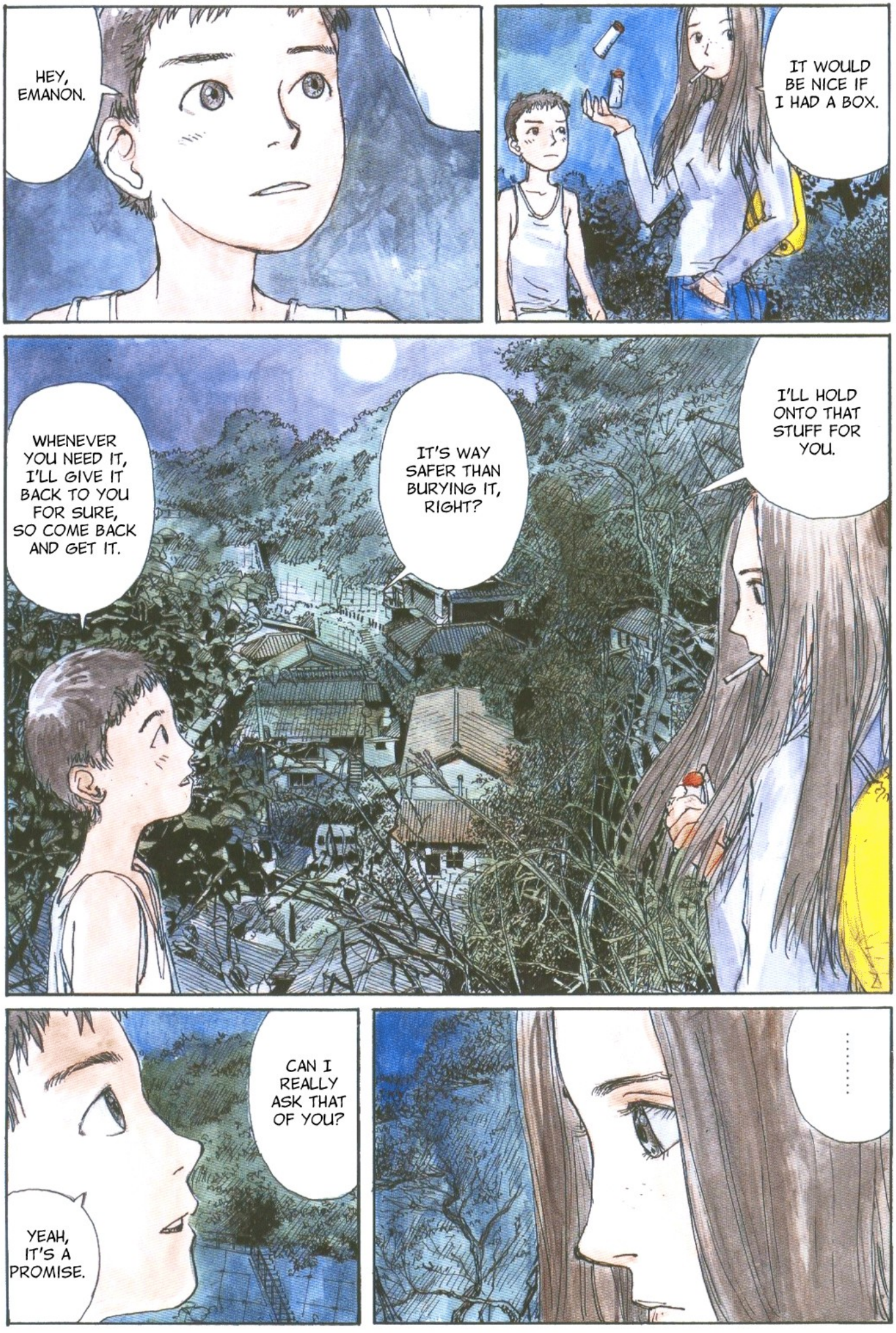


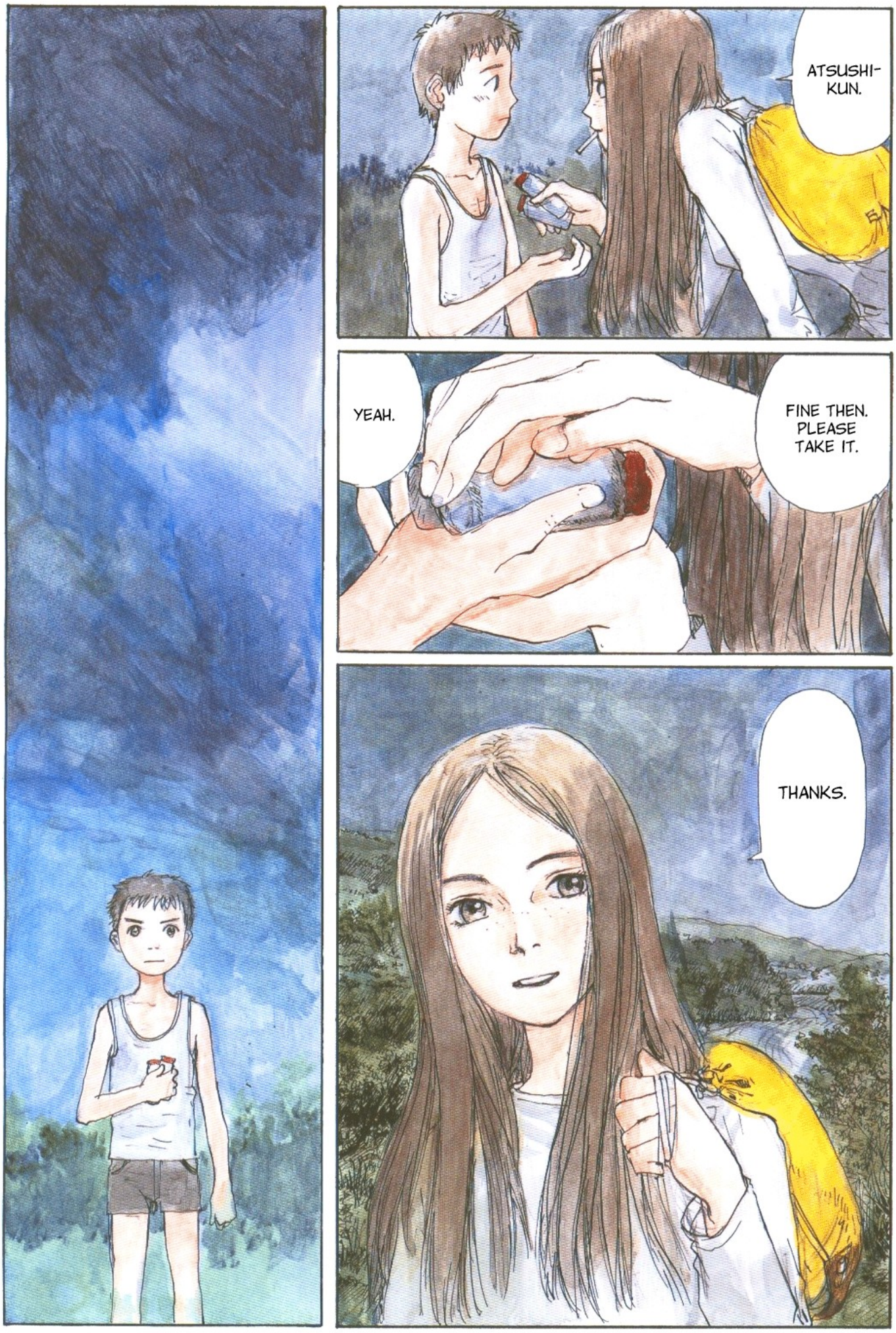

HEY, EMANON. WHAT WAS YOUR ELDER BROTHER LIKE?
LET'S SEE. WELL IT FEELS A LITTLE STRANGE CALLING HIM "ELDER BROTHER".
THAT'S NOT WHAT I MEANT. YOU WERE SEPARATED FOR 15 YEARS, RIGHT? DID HE LOOK COOL?
WHAT'S THAT? HIKARI, ARE YOU INTERESTED IN HIM?
HE LOOKED JUST LIKE ME.
WE'RE SIBLINGS, SO IT'S ONLY NATURAL.
HMPH.
NICE. EMANON. I WANT AN ELDER BROTHER TOO.

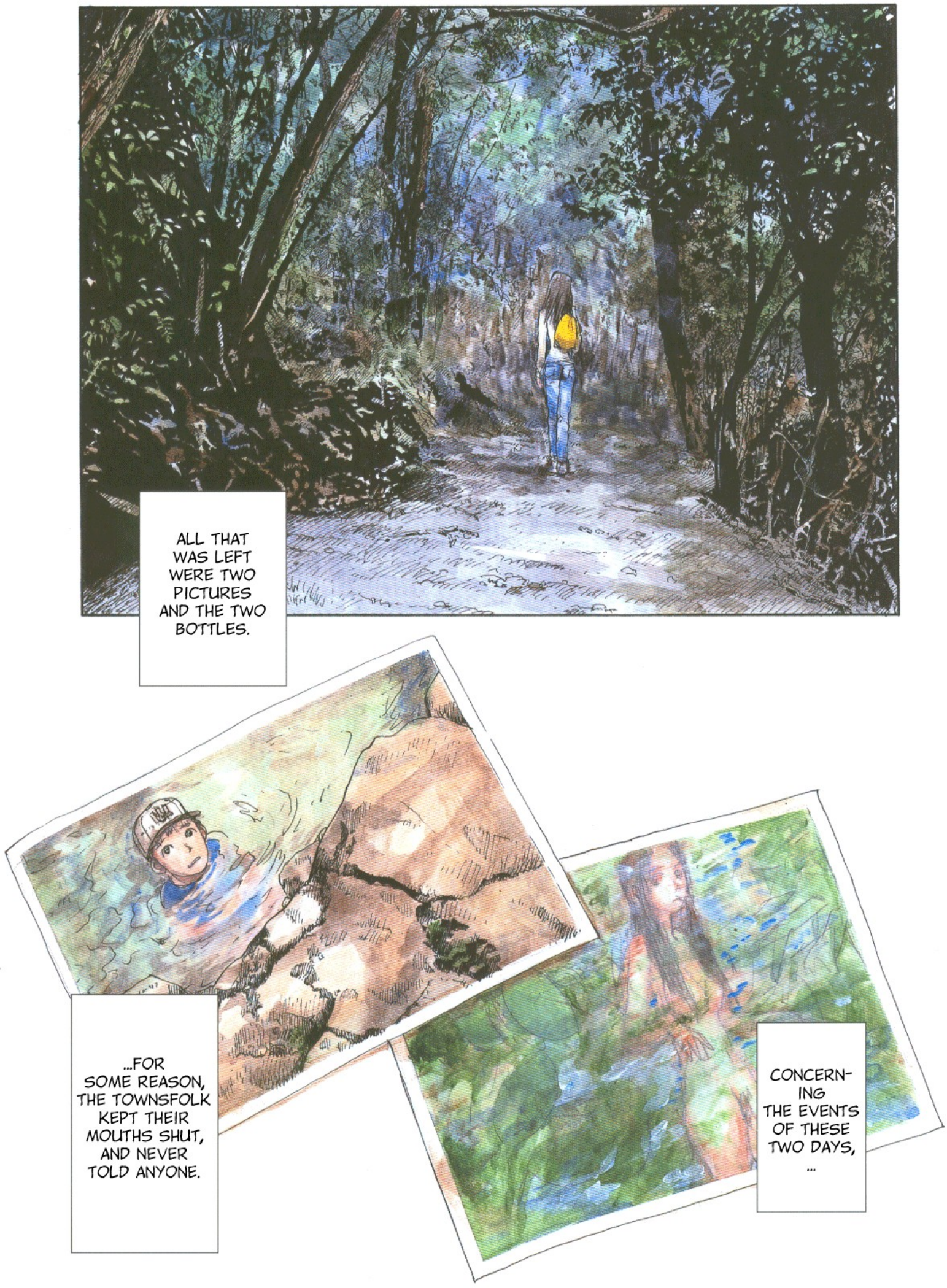

COME TO THINK OF IT, THE CURRENT EMANON HAS BEEN SEPARATED FROM HER BROTHER AND BEEN ALONE A LONG TIME.
HAS IT BEEN SINCE YOU WERE THREE?
I'M ALREADY USED TO IT.
HIKARI, YOU DON'T SEE YOUR FAMILY ANYMORE EITHER. SO WE'RE THE SAME, AREN'T WE?
HEY EMANON.
YOU SHOULD QUIT SMOKING ALREADY.
EMANON'S NEXT, NEXT INCARNATION WILL BE IN THE ERA WHEN I WAS BORN AND RAISED, RIGHT?
IT'S TERRIBLE. YOU'RE GONNA NEED IDENTIFICATION TO BUY CIGARETTES.


OCTOBER 30TH, 1990. 22 YEARS LATER.
THAT'S WHAT THE EMANON OF 1994 SAID.
WHEN CAN WE MEET NEXT?
OKAY. SEE YOU AGAIN.

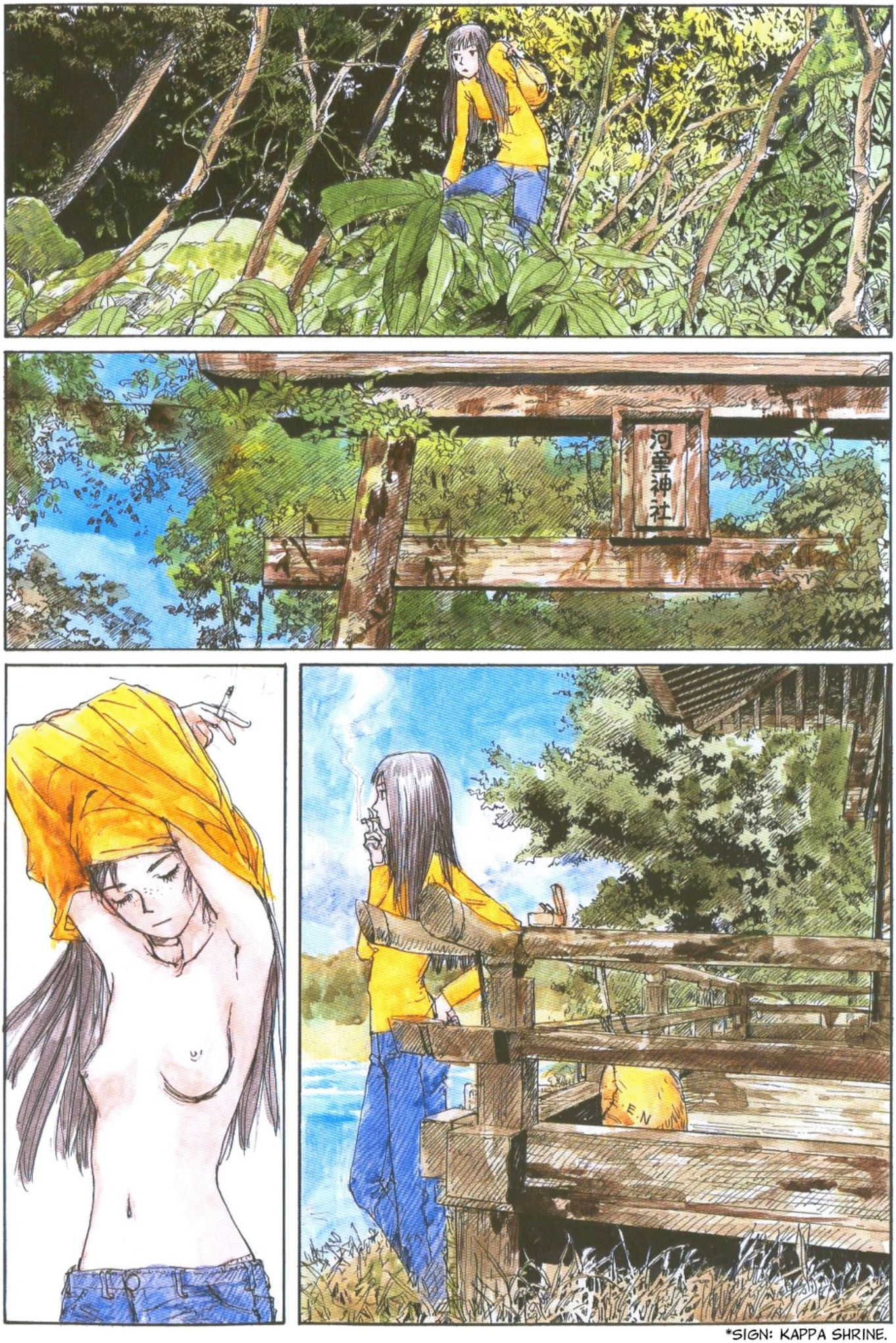

ATSUSHI-KUN.
YEAH.
WHERE ARE YOU GOING AFTER THIS? A FARAWAY PLACE?
GOING WITH ME AGAIN?
FOR THE NEXT TIME I'LL NEED IT.
BUT BEFORE THAT, I'M GOING TO BURY THE REST OF THIS.


HEY, EMANON.
IT WOULD BE NICE IF I HAD A BOX.
I'LL HOLD ONTO THAT STUFF FOR YOU.
IT'S WAY SAFER THAN BURYING IT, RIGHT?
WHENEVER YOU NEED IT, I'LL GIVE IT BACK TO YOU FOR SURE, SO COME BACK AND GET IT.
CAN I REALLY ASK THAT OF YOU?
YEAH, IT'S A PROMISE.
.....

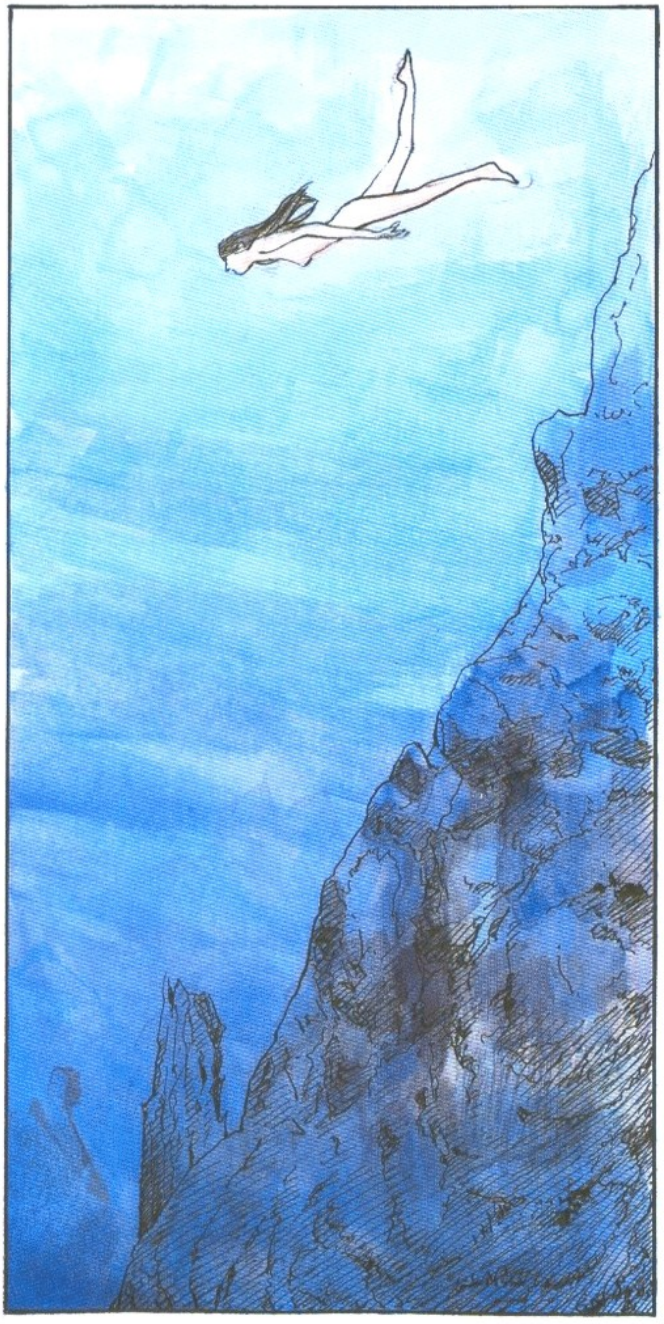

ATSUSHI-KUN.
FINE THEN. PLEASE TAKE IT.
YEAH.
THANKS.

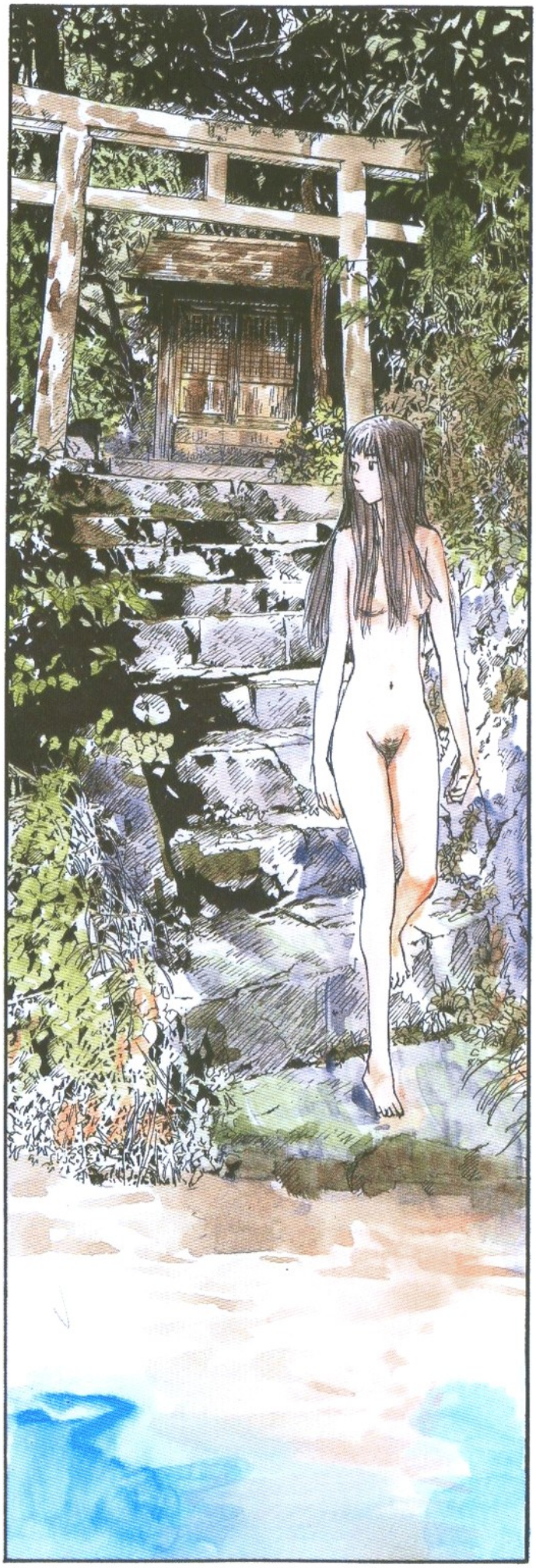

ALL THAT WAS LEFT WERE TWO PICTURES AND THE TWO BOTTLES.
...FOR SOME REASON, THE TOWNSFOLK KEPT THEIR MOUTHS SHUT, AND NEVER TOLD ANYONE.
CONCERN-ING THE EVENTS OF THESE TWO DAYS, ...

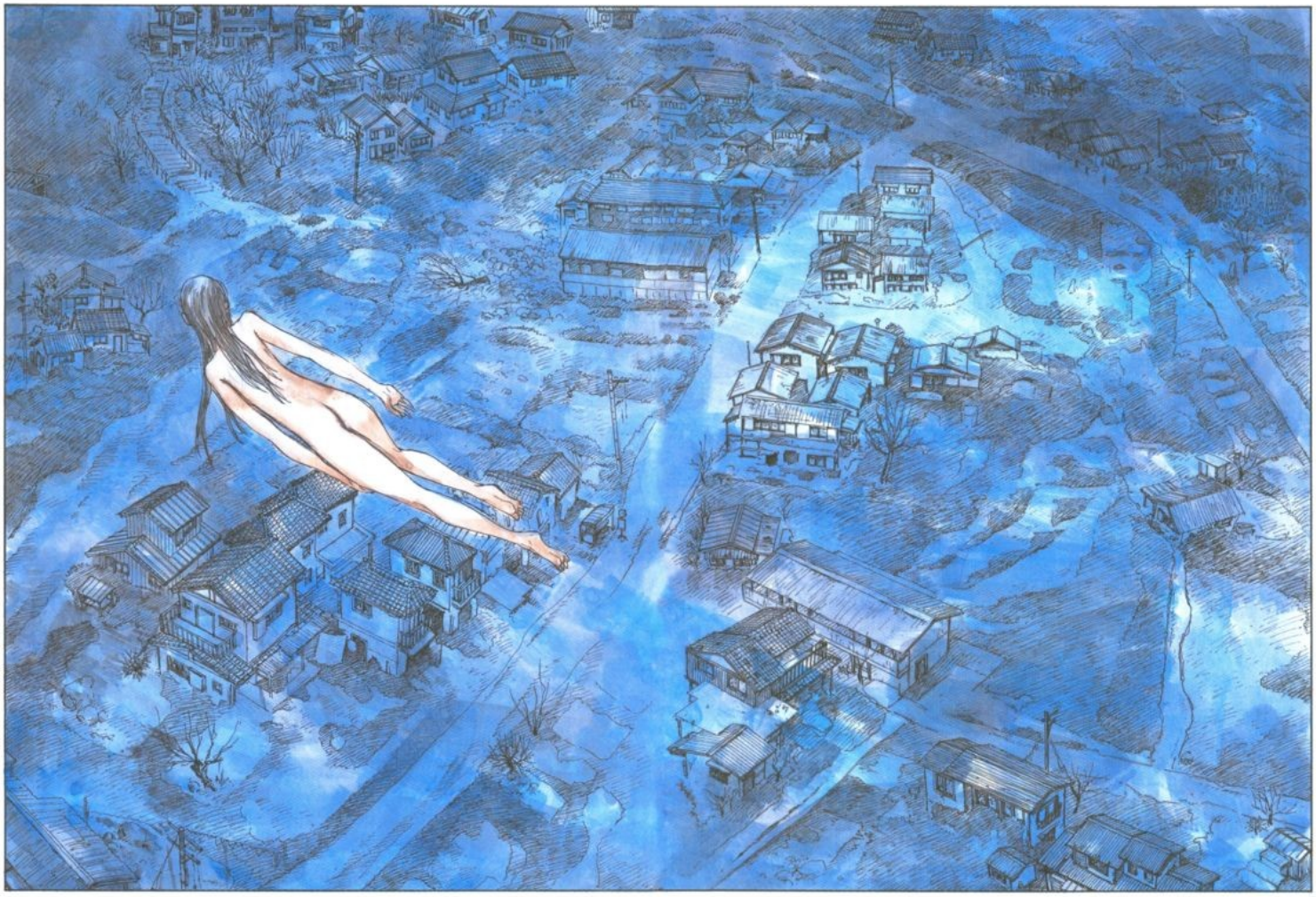
Wandering Emanon Ch. 8

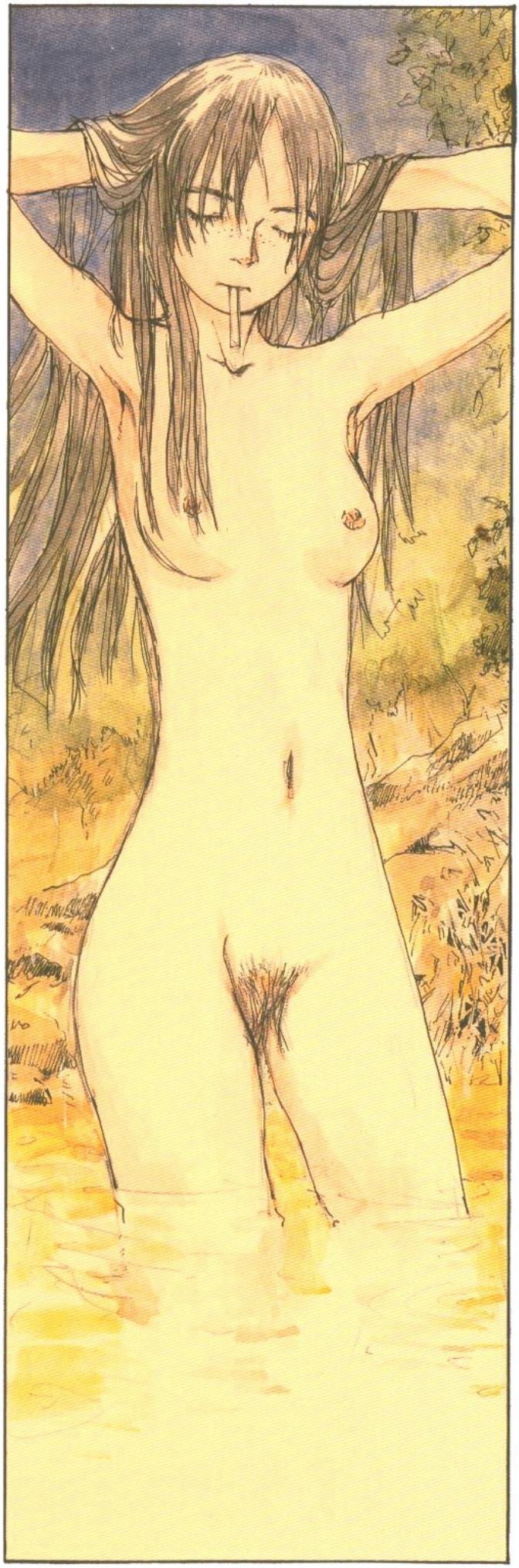


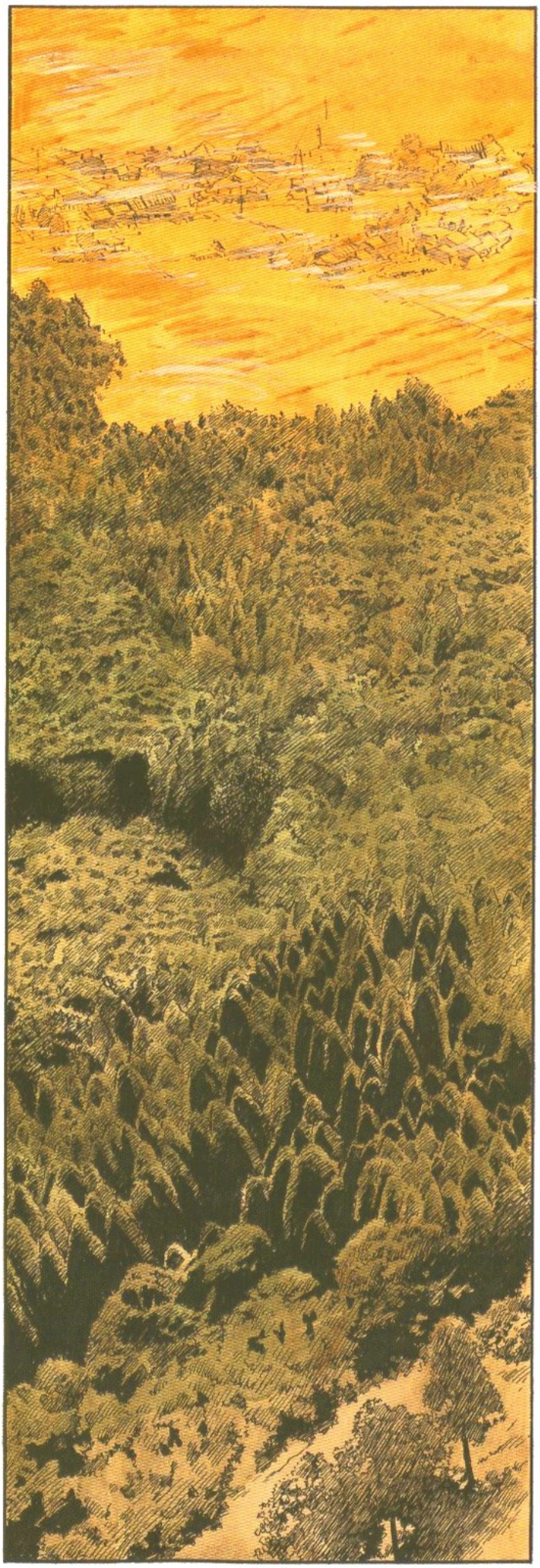
*SIGN: KAPPA SHRINE.









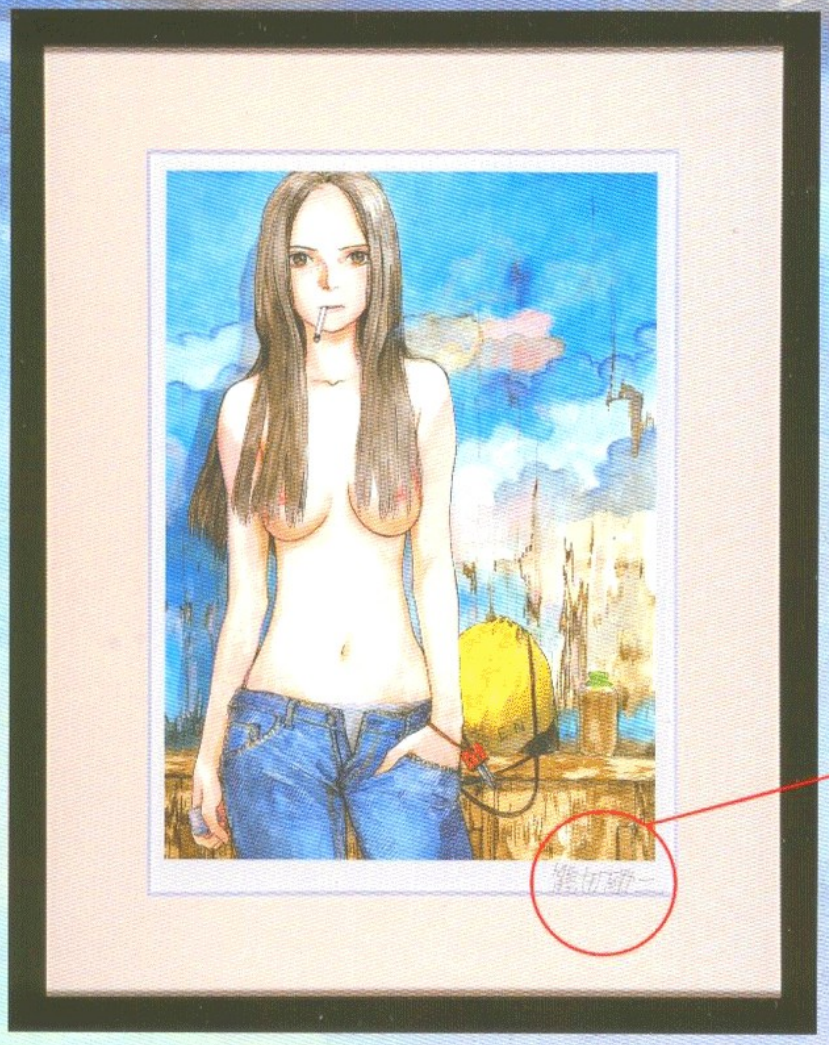


THANKS, ATSUSHI-KUN.

「さすらいエマノン」のこれからの物語は
COMICリュウ2010年8月号（6月19日発売）より
連載再開の予定です。ご期待ください。

「EMANON」表紙イラスト

複製原画（プリマグラフィ）期間限定販売



すべて直筆サイン入り

『おもいでエマノン』のコミックス刊行からもう二年。最近になってPerfumeののっちがコンサート会場で推薦したとかで、一部で評判になったりもしていました。そして今回の『EMANON』は、その続篇として「COMICリュウ」誌上でフルカラーで連載していた『さすらいエマノン』の第1部を一挙収録したものです。そこで本書の刊行を記念して、本書の表紙を複製原画にいたしました。原画の色彩を、鶴田先生自身の監修により忠実に再現し、すべて鶴田先生の直筆サインとシリアルナンバーを入れて額装したものを、期間限定でファンの皆様に販売させていただきます。

PRIMAGRAPHIE

複製原画◇プリマグラフィ

Primagraphie(プリマグラフィ):インクを吹き付けて色付けを行うジークレー版画技法と、トッパンカラーマネジメント技術(色・質感)を融合した高品質なデジタルアートプリントの総称です。プリマグラフィは凸版印刷株式会社の登録商標です。

商品仕様

◆額装済み複製原画(プリマグラフィ)
◆額装サイズ:535mm×420mm
◆鶴田謙二　直筆サイン入り
◆シリアルナンバー入り

※画像は見本です。実際の商品とは額などの仕様が若干異なる場合があります。
※シリアルナンバーはお選びいただけません。

商品価格25,000円(配送料込)
受注締切日:2010年5月31日
商品お渡し予定日:2010年7月下旬

© 梶尾真治・鶴田謙二／徳間書店2010

ご注文方法&お支払い方法

■郵便はがきの裏に、以下の必要事項を必ず記載してください。
①住所 ②氏名(ふりがな) ③年齢 ④御自宅の電話番号 ⑤携帯電話番号

■左下の応募券を切り離してお貼りください。郵送中にはがれないよう、セロテープでしっかりとお貼りください。応募券1枚で1点のご応募になります。

■受注締切日は2010年5月31日です。当日までの消印がないものは無効となりますので御注意ください。

■下記の住所までお送りください。
〒105-8055　東京都港区大門2丁目2−1
株式会社徳間書店
COMICリュウ編集部『EMANON複製原画』係

■お支払いは、商品到着時に代金引き替えとさせていただきますので、到着時期には御購入分の金額を準備しておいてください。

■御応募いただいた商品は、業務を委託した発送業者よりお届けいたします。また御記入いただいた個人情報は、その目的以外での利用はいたしません。

■商品の問い合わせ先
COMICリュウ編集部／TEL03-5403-4346

応募券

EMANON さすらいエマノン〈Episode1〉

第1刷　2010年4月1日

著　者　梶尾真治
鶴田謙二
©SHINJI KAJIO ・KENJI TSURUTA 2010

装　丁　岩郷重力+WONDER WORKZ。

発行人　吉田勝彦
編集人　大野修一
発行所　株式会社徳間書店
〒105-8055　東京都港区芝大門2−2−1
編集：03(5403)4346
販売：048(451)5960

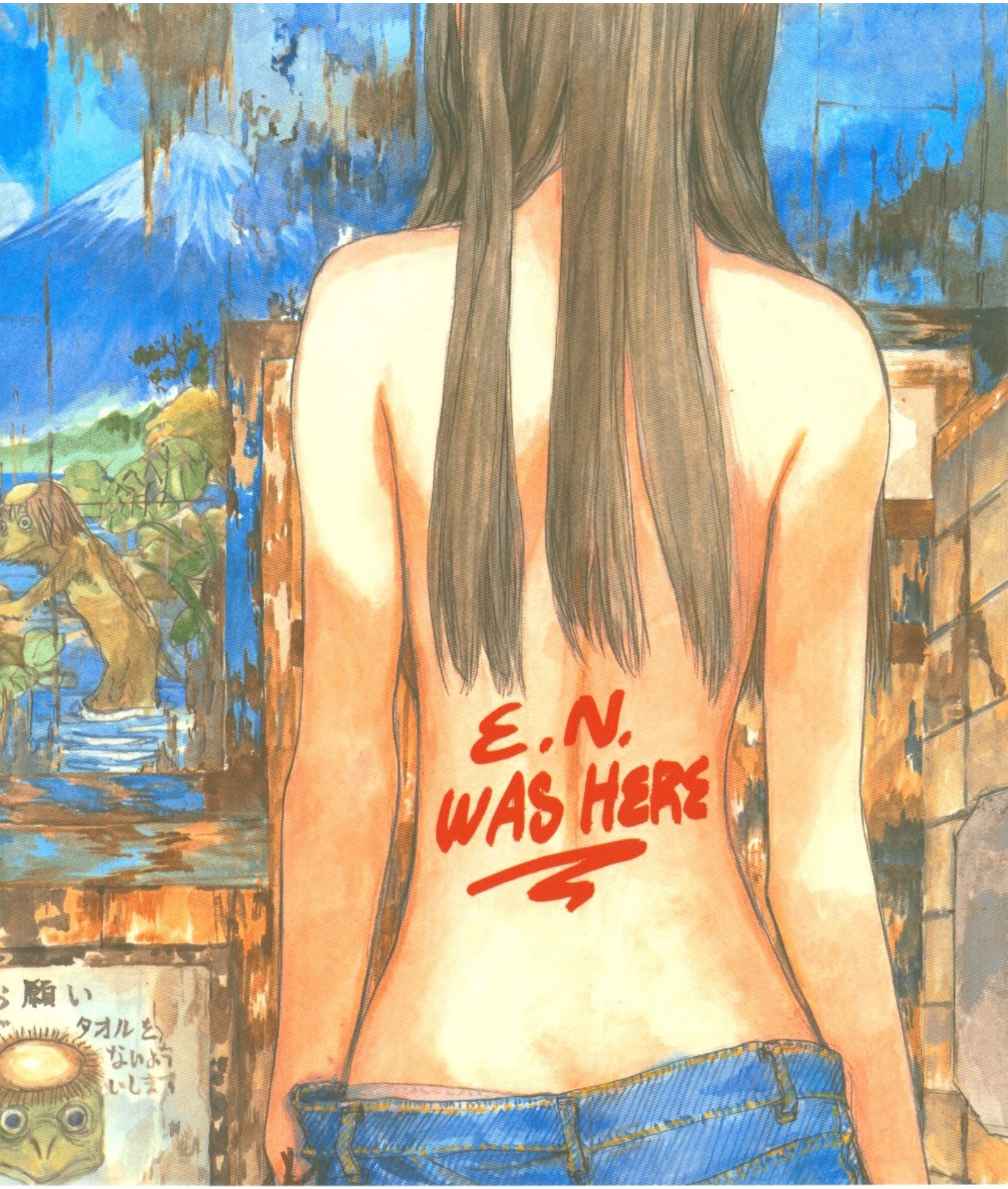
印刷・製本　大日本印刷株式会社

乱丁・落丁はお取り替えいたします。本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

この本を読んだご感想・ご意見を編集部までお寄せください。
【宛先】105-8055　東京都港区芝大門2−2−1　徳間書店
COMICリュウ編集部　行
COMICリュウHP　http://www.tokuma.co.jp/ryu/

■この女性はEMANONかどうか定かではありません。
モチーフは「ゴジラ対ヘドラ」の富士宮ミキ嬢でした(編)

お願い
湯舟の中で タオルを
つかわ ないよう
に お願 いします
浴そうに入る前に身体を
よく洗って入浴して下さい。
18


E.N.
WAS HERE
お願い
タオルを
ないよう
いします

GOD'S WAITINGROOM

SCAN AND CLEANING BY WATHER_ANTHONY

TRANSLATION BY BROLEN

TYPESETTING BY MORTEN